



2020-2022 明慧レポート

# 法輪功への迫害

暴政の中で信念を貫く

明慧グループ



# 法輪功への迫害

暴政の中で信念を貫く

2020-2022 明慧レポート

明慧グループ

無断転載を禁じます。著作権者の許可なく  
本書の一部および全てを複製または使用することを禁じます。

初版発行日：2023年12月3日

# 目次

はじめに	2
第一部 迫害の新たな展開	5
第1章 「ゼロ行動」キャンペーン	6
第2章 洗脳センターの再登場	11
第3章 パンデミックでも続く迫害	12
第4章 「センシティブな日」に学習者を狙い撃ち	16
第5章 迫害の主犯・江沢民の死	20
第二部 概要と注目すべき事例	24
第6章 2020年以降、数百人の学習者が迫害により死亡	25
第7章 実刑判決	33
第8章 逮捕	41
第9章 高齢者をターゲットに	44
第10章 中国国外の学習者の中国にいる家族を狙う	49
第11章 香港の学習者への絶え間ない攻撃	54
第三部 迫害に立ち向かうべく結集	57
第12章 中国の強制臓器摘出を終わらせる取り組み	58
第13章 決議と立法	64
第14章 人権侵害者への制裁	68
第15章 海外まで迫害を拡大させる中共の取組みに対抗	72
第16章 法輪功のために声を上げた官僚や市民	75
第17章 目覚めた中国人の増加	78
参考文献	83

はじめに



## はじめに

明慧出版が包括的な『明慧報告書：中国で起きている 20 年間におよぶ法輪功への迫害』を発表して以来、3 年が経過した。その間、多くのことが起こった。新型コロナウイルスのパンデミックが発生し、世界規模で政治的・社会的不安が増大した。そして中国では、2020 年から 2022 年にかけてパンデミックに見舞われていたが、中国共産党（以下、中共）は「真・善・忍」の原則に基づく精神修養法である法輪功への迫害を止めなかった。本報告書は、過去 3 年間の中国における迫害の進行状況、および 24 年目を迎える迫害に対抗するための世界的な取り組みについて考察している。

明慧ネットが 2020 年 1 月から 2022 年 12 月までに収集したデータによると、法輪功学習者（以下、学習者）は、信念を堅持したために 16,033 人が逮捕され、22,939 人が嫌がらせを受け、2,427 人が実刑判決を受け、360 人が迫害により死亡した。中国では厳しい検閲が行われており、事件が常にタイムリーに報告されるわけではなく、すべての情報が容易に入手できるわけでもない。つまり、実際の犠牲者数はもっと多いと考えられる。

パンデミックの発生により、迫害は 2020 年 1 月に一時中断したが、2 月から逮捕や嫌がらせが増え始め、その後、数カ月にわたり着実に増加した。パンデミック初期の感染者数と感染状況の深刻さを隠蔽するために中共が行ったプロパガンダを目にした多くの学習者は、それが法輪功迫害における中共のプロパガンダや手法と類似していることに気づき、その類似性を暴露する取組みを強化した。それに対して当局は、迫害を強化することで報復に出た。

内部関係者によると、パンデミックに関する内部データが学習者によって中国国外のメディアに流出・報道されたことを受けて、2020 年 3 月に各地方の共産党委員会は非公開の会議を開き、インターネットセキュリティおよび「政治教育」をどう強化するかについて議論したという。同委員会はまた、パンデミック問題の「より高いレベル」への引き上げ、および国内の怒りを共産党から「西側反中勢力」（共産党政権が自国の人権侵害を批判するあらゆるグループに適用するレッテル）に向ける方法についても議論した。

2020 年 3 月下旬、遼寧省大連市では、法輪功を中傷するポスターや動画が公共バスに現れ始めた。人気のソーシャルメディア「ウィーチャット」で法輪功の情報を発信したことで、遼寧省や重慶市、河北省の学習者は、数百キロを移動してきた河南省の警察によって自宅で逮捕された。また、遼寧省大連市のある女性が日本旅行中に法輪功の迫害についてツイートしたとして逮捕され、4 年半の懲役を言い渡された事件もあった。

中共は国民の民族主義的感情を利用し、中国のパンデミックの状況を国際社会に晒すことで「中国のイメージを損ねた」として学習者を非難し、法輪功を「邪悪なカル

ト」、「迷信」と吹聴してきた20年来のプロパガンダも繰り返した。中共は法輪功を中傷する動画のほか、公共バスの中でも、党がいかにして日本人の手から中国を「救った」かを伝えるテレビ番組を流し、自らを究極の「救世主」として描いた。

別の洗脳キャンペーンでは、中共は学生たちにその青年組織である少年先鋒隊と共青团への参加を強要した。小学生は毎週の政治授業への出席だけでなく、中共の国旗掲揚式への参加、赤い旗に敬礼する自らの写真の撮影とアップロード、および毎週思想レポートを書くことを要求された。中学生は中共の「輝かしい歴史」を学び、毎日国営放送のニュースを見て、その内容に関する試験を受けることが義務づけられた。一部の学校では、このデータを使用して優等生の資格を評価した。

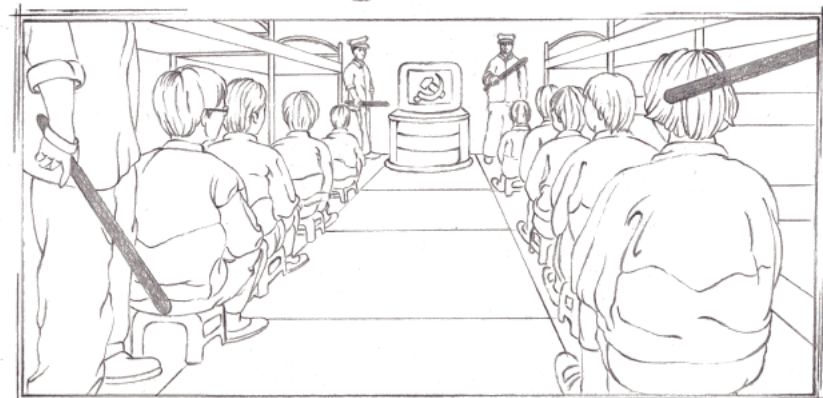
広範なロックダウンに繋がった極端な「ゼロコロナ」政策を打ち出す前に、中共は法輪功を根絶するための「ゼロ行動」キャンペーンを全国で開始した。2020年前半に初めて報道されたこの「ゼロ行動」キャンペーンは、集団逮捕や夜間の嫌がらせも含めて、国中での迫害を瞬く間にエスカレートさせた。2020年12月だけで、1,714人の学習者が嫌がらせを受けた（比較対象として、2019年全体で報告された嫌がらせの件数は3,582件）。

旧正月を祝うための2021年1月から2月にかけてしばらく中断した後、迫害は3月に一気に加速した。その勢いは7月まで続き、後にパンデミック前の水準に戻った。また、中共創立100周年記念日の1カ月前の9月にも、嫌がらせ事件が多発する時期があった。中共は2022年2月の北京冬季オリンピックの前と、2022年10月に開催された第20回党大会前の数カ月間、学習者に対する嫌がらせをエスカレートさせた。

2022年はまた、1999年7月20日に法輪功への迫害を開始した中共の元トップ、江沢民が死去した年でもあった。しかし江沢民の遺産ともいえるべき腐敗と人権侵害は、今日もなお、中国を荒廃させ続けている。

法輪功への迫害を終わらせるため、世界的な努力が続けられてきた。米国は人権侵害を理由に中共の幹部に制裁を科し、また多くの国は、自国民が中共による良心の囚人からの強制的な臓器摘出に加担することを防ぐため、新しい法律を可決した。国際的な国会議員連合は迫害の停止を求める共同書簡に署名し、法輪功を称える旗がカナダの十数都市と米国連邦議会議事堂に掲げられた。パンデミックによるロックダウンで対面での集会在中止されたが、学習者は迫害に対する認識を高めるためのイベントをオンラインで開催し、法輪功の功法を教える無料のオンラインレッスンを開始した。混乱する世界で、何万人もの人々が平和と希望のオアシスを見出すことができるようになった。

# 第一部 迫害の新たな展開



## 第1章 「ゼロ行動」キャンペーン

2017年の「ドアノック」キャンペーンや、2018年の学習者を標的とした「集団取締り」に続き、中共は新たに、法輪功迫害における最も広範な作戦となった「ゼロ行動」キャンペーンを開始した。

このキャンペーンは2020年3月に始まり、貴州省当局がリストに載っている学習者全員を訪問し、信仰を放棄する一連の声明に署名するよう要求した。学習者は、政府は今「寛大」になったと告げられたが、署名を拒否した者は厳罰に処された。

貴州省の政法委員会（PLAC）は、省内のすべての学習者を2020年から2023年にかけて完全に「転化」<sup>1</sup>させる命令を出したと報じられた。この命令は、北京の中央PLACが発表した「法輪功学習者の数を減らす問題について」と題する文書（No. 101）に基づいている。

国家の安全保障と検察・裁判制度を監督する超法規的機関であるPLACは、法輪功迫害の方針決定において中心的役割を果たしてきた。また、法輪功の撲滅を目的として1999年6月10日に特設された、ゲシュタポのような組織である「610 弁公室」は、中共が2018年に同室の解散を発表したにもかかわらず、依然として迫害において重要な役割を果たしている。

中共中央規律検査委員会の趙楽際書記は2020年5月頃にある都市を訪れた際、610 弁公室の解散は単に学習者を対象とした中共の人権侵害に対する国際的な批判を鎮めるためだと述べ、610 弁公室が公安とPLACシステムに統合された後も機能は継続すると明言した。

「党の指導に従い、その指導を固めることは、私たちの最優先事項である」と趙書記は関係者に語り、「確かに中央の610 弁公室は解散したと報道されたが、それはただ、いわゆる人権侵害でいつも騒ぎ立てる反中勢力を黙らせるためなのだ。法輪功がまだ存続しているため、610 弁公室の機能は依然として重要な役割を果たしている。来年は中国共産党100周年記念の年だ。祝わなければならないし、騒音なしで盛大に祝う必要がある！」と述べた。

湖南省PLACのメンバーが明慧ネットに提供した情報によると、趙書記の秘書1人が2020年6月に湖南省に赴き、湖南PLACから法輪功迫害の最近の進展状況について説明を受けたという。趙書記の秘書はまた、洗脳教育を受けた後に信仰を放棄させられた学習者の話を聞き、彼らが本当に心から信仰を放棄したかどうかの確認を要求した上、もし、学習者が形式的に放棄声明に署名しただけならば、地元当局はさらに圧力をかける必要があると示唆した。

---

<sup>1</sup> 「転化」とは、しばしば洗脳や拷問によって、信仰を放棄させることを意味する。屈服した学習者は早期に釈放されることもあるが、その多くは他の学習者を転化し、または虐待することを強制される。



湖南省 PLAC の手配の下、趙書記の秘書は 2020 年 6 月 19 日に湘潭市に到着した。PLAC の一部のスタッフは以前、外出して法輪功について人に話さず、家に留まるなら修煉できると学習者に言ったことがあるが、同秘書は学習者が家で修煉し続けているかどうか調査した。

趙書記の秘書にひっきりなしに尋問された後、劉さんという男性学習者は精神衰弱に陥り、何も思い出せなくなったと言った。最近法輪功を放棄した劉さんは、これまで何度も拘留所や洗脳センターに収容され、強制労働の刑に服したこともあり、拘留中の拷問で精神が崩壊したこともあった。

劉さんが直面した圧力は、中国全土のどの学習者も必ず経験するものであった。「ゼロ行動」キャンペーンの手法は、決まったパターンに従っている。警察と居民委員会のメンバーはまず、直接学習者に電話をかけたり、訪ねたりする。もし学習者が用意された信仰を放棄する声明文への署名を拒否した場合、当局は「洗脳センターに送る」、または「子供の就職や大学進学を妨げる」と脅す。当局はまた、学習者の家族にも同様の脅しをかける。

2020 年 3 月下旬、湖北省浠水县でコロナによるロックダウンが解除された直後、県政府は地元の学習者の監視を強化し、彼らが法輪功や迫害、疫病について人々に話すことを禁じる命令を出し、さらに、学習者を通報した人には 1,000 元の報奨金を出すと掲示した。広東省と海南省では、学習者を通報すれば、当局が 10 万円の報奨金を出すと掲示した。

基本的な自由と身の安全を失うことをもって学習者を脅迫するだけでなく、当局は学習者の生計をも交渉の取引材料として利用した。遼寧省では、学習者が農家であれば、政府が割り当てた農地を差し押さえると脅した。また、山東省では警察が学習者に対し、信仰を捨てなければ飛行機に乗れないと脅したこともあった。

2020 年 11 月頃、河南省臨州市では少なくとも 20 人の学習者が逮捕され、本人の意思に反して血液のサンプルを取られた。警察はしばしば夜中に学習者の家に押し入り、私物を没収した。採血された当日の夕方に釈放された一部の高齢の学習者を除き、ほとんどの学習者は 5 日から 15 日間拘束された。

黒竜江省鶴岡市の警察は 2020 年 12 月 11 日から 13 日にかけて、市内全域で 80 人以上の学習者を一斉に逮捕した。3~4 人のチームに分かれた警官は、学習者の家に押し入った際、違法な物品を探していると主張した。

以下は、当局が「ゼロ行動」キャンペーンで行った、いくつかの代表的な嫌がらせの事例である。

#### 1. 貴州省：一家の洗車業が操業停止に<sup>1</sup>

貴州省貴陽市に住む夏維仙さんとその夫は、2 人の子供と義父母を含む家族を養うために、洗車業を営んでいた。しかし貴州省当局が地元の学習者を対象とした「ゼロ行動」キャンペーンを開始すると、警察は 2020 年 5 月 20 日頃に夏さんに近づき、法輪功を放

棄する声明に署名させようとした。彼女が拒むと、警察は家族に操業停止を命じ、拒否すれば洗車場を取り壊すと脅した。

プレッシャーに耐えかねた夏さんの夫は、5月末に離婚を申請した。しかし、夏さんが離婚後は家を手放して別の都市にある実家に引っ越すと村の書記に伝えると、その書記は「引っ越せば監視できなくなる」として、離婚を認めなかった。

## 2. 電力と水道の供給停止<sup>2</sup>

2020年8月30日、黒竜江省建三江市の役人4人が劉士銀さんの自宅に押し入った。そのうちの1人が当時の状況をビデオに収めた。彼らは、劉さんに法輪功を放棄する声明に署名するよう命じた。彼女が拒否すると、彼らは一旦立ち去ったが、2日後に再び劉さんに圧力をかけに来た。劉さんはドアを開けなかったが、彼らは水道と電力の供給を停止させた。

9月3日とその翌日も2人の役人がやってきて、劉さんが声明文に署名しないと、彼女の娘が解雇されると脅し、劉さんの年金までも停止させると脅した。また、その頃に劉さんの自宅前の道路に停めた車に乗った何者かが、毎日劉さんを監視していた。

## 3. 学習者の家族を敵に回す<sup>3</sup>

寧夏回族自治区靈武市出身の馬桂珍さんは、地元当局から繰り返し嫌がらせを受けていた。しかし当局が何度訪れても、彼女は法輪功を放棄する声明文への署名を拒否した。彼らは彼女の農地と賃貸マンションを没収し、孫を学校から連れ出すと脅した。馬さんは、それでも署名を断った。当局は彼女の家族を訪ね、同様に脅迫した。

生活が脅かされた馬さんの息子と弟は2020年10月25日に馬さんの職場に行き、声明に署名するよう強要した。彼女が拒否すると、彼らは彼女を罵倒し殴った。彼らは彼女の手を掴み、指を後ろに曲げ、用意された声明文に彼女の指紋をつけようとしたが、彼女の指を折るところだった。

## 4. 日常的な嫌がらせ<sup>4</sup>

2020年9月、河北省滄州市の学習者宅に役人と警察が現れ、夜遅くまで、あるいは深夜を過ぎても帰らないことがあった。村の役人は部下たちに、「彼らがもう修煉しないと保証するまで、毎日学習者の家まで出勤しなさい」と命じた。

史賈村の党書記・白洪建ら5人は2020年9月22日、張兆盈さんの自宅を訪ねた。白は張さん(78)に「声明文はできている。指紋を押すだけだ」と言ったが、張さんは拒否し、自宅でのビデオ撮影もさせなかった。当局は息子を呼び、張さんを説得して署名させるように命じた。しかし張さんは、圧力に屈しなかった。

午後8時過ぎ、当局の1人が張さんの手を掴み、インクパッドに指を押し付け、書類に指紋をつけた。そして、彼らは立ち去った。

## 5. 80歳の女性を洗脳・殴打<sup>5</sup>

甘肅省蘭州市の李貴鸞さん（80）は、かつて蘭州航空宇宙局の飛行制御研究所に勤めていた。2020年8月以降、地元当局は彼女の自宅に嫌がらせをしに來たり、他のコミュニティの役人に彼女の家に行くように命じたりした。彼らは毎日午前9時から午後5時まで彼女の家に行き、彼女の來客全員に質問し、写真を撮った。

当局は李さんの家のドアの鍵を壊し、室内を荒らした。孫を脅して祖母に修煉をやめさせるため、上海にまで行ったこともある。

ある時、当局は李さんを役所に連れて行き、午前7時30分から午後3時まで、法輪功を誹謗するビデオを見させた。彼らは限界まで音量を上げ、彼女の目をこじ開けた。彼女がもがくと、彼らは交互に彼女をつねったり殴ったりした。彼女は頭を殴られて床に倒れた。看護師が彼女に高血圧と心臓の問題があると発見した後、彼らは彼女を治療することなく寺院に運び、彼女を洗脳して法輪功を放棄させるよう僧侶に命じた。

## 6. 刑期の言い渡し

「ゼロ行動」キャンペーンで逮捕され、短期間拘留された学習者がいる一方で、信仰を放棄しなかったために実刑判決を受けた学習者もいた。河南省駐馬店市のホテルマネージャーの閻衛賓さん（54）は、このキャンペーンの一環として判決を受けた最初の学習者として知られている。彼女は2020年12月9日、7年の刑期を言い渡された<sup>6</sup>。

一方、黒竜江省虎林市の曾建江さん（59）は2020年7月12日、自宅で昼食を作っていたところに警官が押し入り、彼女を逮捕し、家宅搜索した。彼らは、「ゼロ行動」キャンペーンに備えて2019年11月から彼女を監視しており、彼女が法輪功に関する手紙を人々に郵送しているのを発見したと主張した。しかし警察が拘留に備え彼女に健康診断を受けさせたところ、血圧が高く、心臓と肝臓にも懸念があった。数時間の取り調べの後、彼女は深夜に保釈され、1,000元の保釈金を支払わされた。

警察は2021年5月、彼女の案件を鶏東県検察院に書類送検した。しかし彼女は脳卒中で倒れ、歩行困難になったため、劉穎検事は彼女の家に行き、事件について質問した。9月23日、何の事前連絡もなく9人の裁判所職員が彼女の自宅に現れ、聴聞会を開いた。そして裁判長は1時間足らずで終わらせ、彼女の自己弁護も許さなかった。10月2日、彼女は1年半の刑と1万元の罰金を言い渡された<sup>7</sup>。

2021年5月28日、黒竜江省海林市に住む付墨萃さんは、自宅で3人の警官から嫌がらせを受けた。警官の王雲堂は付さんに、自らの「ゼロ行動」キャンペーンのノルマを達成するため、付さん一家がすでに法輪功の修煉をやめたと上司に報告したと告げた。彼は付さんに協力を求め、もう法輪功の修煉をしないと約束するよう要求した。付さんは、どう報告しようと勝手だが、自分の信仰をやめると約束することは決してないと答えた。

警察は去ったものの、2週間後の6月10日に彼女は逮捕された。しかし地元の拘留所が彼女の受け入れを拒否したため、彼女は保釈された。警察は釈放前に3時間尋問し

ていたが、彼女は7月10日に再び逮捕され、同日に保釈された。12月23日、付さんは裁判にかけられ、9年半の懲役と1万元の罰金を言い渡された。しかし体調の関係で、彼女は居住監視下に置かれた<sup>8</sup>。

## 第2章 洗脳センターの再登場

「ゼロ行動」キャンペーンを補完するため、当局は中国各地に洗脳センターを設置し、信仰の放棄を拒否する学習者をそのターゲットにした。

湖北省の省都であり、世界的なパンデミックの最初の発生地である武漢は、学習者を洗脳する「国内ロールモデル都市」としても知られている。すでに 60 カ所以上の洗脳センターが設置されていたが、武漢当局は 2021 年にさらに 9 カ所を市内に新設した<sup>9</sup>。

公には「法制教育センター」、または「転化学習センター」として知られる洗脳センターは、あらゆるレベルの政府機関、単科大学と総合大学、国有企業、民間企業および住宅に設置されている。また、老人ホームや病院、福祉施設、ゲストハウス、ホテルなども利用されている。2021 年に設置された新しい洗脳センターについて、当局はこれらの施設の隠された犯罪に対する国際的な監視の高まりを避けるため、「ケアホーム」や「ケアセンター」などの新しい名前を考案した。

武漢郊外に新設された 2 階建ての洗脳センターでは、圧力により法輪功の修煉を断念した 2 人の元学習者を雇った。そして 1 人当たり 1 日に 200 元を支払い、他の雇われた子分（ほとんどが無職の青年）と共に、拘束された学習者の「転化」に当てらせた。

新しい洗脳センターに収容されている学習者は、2 階の別々の部屋に閉じ込められている。照明も窓もない部屋は真っ暗だ。学習者は法輪功を誹謗中傷するプロパガンダビデオを見させられ、時には何日も眠ることを許されない。彼らは保証書を書くように命じられ、従わなければ実刑判決を受けると脅される。一部の学習者はハンストで抗議するが、結果として強制的に灌食されるだけだ。他の洗脳センターのケースでは、学習者は睡眠、飲水、トイレの利用、および入浴の自由を奪われている。

武漢市礄口区工商局の元会計検査官である周愛琳さんは、8 回にわたって異なる洗脳センターに収容された後、2021 年 9 月 29 日に再び逮捕され、当初の 15 日間の行政拘禁の期限が切れた後に洗脳センターに連行された。

2021 年 1 月、武漢市武昌区在住の方望貴さん（90）は、3 日連続で早朝に南湖洗脳センターに連行され、夜間に釈放された<sup>10</sup>。

湖北省松滋市で洗脳教育が行われていた際、松滋市 610 弁公室の責任者である鄧年貴は、拘束された学習者を殴打するよう警察に命じた。彼はかつて、「法輪功に関しては、法律に従う必要はない。我ら 610 弁公室独自のルールに従う。訴えてもいい。どの機関があなたの訴訟を受理できるか見てみよう」と、学習者に言ったことがある。

洗脳教育は四川省、山西省、安徽省でも行われている。広東省麻涌鎮では、当局は華陽湖湿地公園に洗脳基地を設置しただけでなく、鎮内 14 の村のコミュニティ、学校、企業でも一連の反法輪功展を開催した。主催者はインタラクティブブース、展示ボード、パンフレット、プレゼント、アンケートなどを通じて誤報を広めた。数千人もの学生や住民がこのようなイベントに参加したという<sup>11</sup>。

### 第3章 パンデミックでも続く迫害

2020年初頭にCOVID-19によるパンデミックが発生した後も、中共当局は学習者の信仰を理由に、嫌がらせや逮捕、投獄を続けた。誰もいない街の写真を海外の報道機関に送ったことで判決を受けた学習者もいれば、パンデミックについて発言し、人々に安全な生活を送る方法を伝えたことで標的にされた学習者もいた。当局はまた、パンデミック対策や検疫措置を迫害の手段として用いた。

#### 1. パンデミックの写真を海外メディアに送った北京市民 11 人に実刑判決<sup>12</sup>

2022年1月14日、北京東城区裁判所は、パンデミックで無人となった街の写真を海外メディアに送ったとして逮捕された学習者 11 人に実刑判決を下した。学習者は2021年10月15日に裁判にかけられ、2月に開催された2022年冬季オリンピックの数週間前の2022年1月14日に判決を受けた。

許娜（許那）さんは、懲役8年と2万元の罰金を言い渡された。

李宗澤さん、李立鑫さん、鄭玉潔さんと鄭艷美さんは、それぞれ懲役5年と1万元の罰金を言い渡された。

鄧静静さん、張任飛さん、劉強さん、および孟慶霞さんは、それぞれ懲役4年と8千元の罰金を言い渡された。

李佳軒さんと焦夢姣さんは、それぞれ懲役2年と4,000元の罰金を言い渡された。

彼らは2020年7月19日、100人以上の警察によって逮捕された。国家安全部の職員は、2020年6月に『エポックタイムズ』のウェブサイトに掲載された北京の写真に気づき、監視カメラの映像を調べたところ、許さんと他の学習者が通りかかったのを確認し、監視を始めた。

2021年4月2日に学習者たちが起訴された後、東城区裁判所の裁判官は、彼らの弁護士による訴訟書類の閲覧を妨害し、11人の学習者の代理人である弁護士全員が同時に裁判所に来た場合に限り、書類の閲覧を許可すると裁定した。さらに、弁護士たちは書類のコピーや写真撮影を許されず、裁判所も書類の紙媒体または電子媒体のコピーを提供することはなかった。

かつて許さんは2008年の北京オリンピックの際にも標的にされ、2008年11月に3年の刑を言い渡されていた。彼女の夫は有名な民謡歌手の于宙さんで、2008年1月に逮捕されてから11日後、拘留中に死亡した。42歳だった。

判決を受けた学習者の中には、20代の李宗澤さんもいる。李さんは14歳の時から詩を書き始め、学業成績で数々の賞を受賞した。そして大学卒業後、テクノロジーや金融、家庭用品などのプロジェクト・マネージャーとして働いていた。両親によると、李さんは子供の頃に喘息を発症したが、徐々に回復したという。

## 2. パンデミックについて発言する学習者を黙らせる

2020年初頭に中国で新型コロナウイルスのパンデミックが発生した後、「法輪大法は素晴らしい！ 真善忍は素晴らしい！」と唱えることで感染から完全に回復した人々の話が明慧ネットに掲載された。このことに触発された中国の学習者は、この2つの句の暗唱を促すメッセージを書いたポスターを掲げた。多くの中国人がこのメッセージを受け入れ、パンデミックでも自分たちのことを思ってくれることに感謝した。にもかかわらず、警察は学習者を標的にし、彼らを黙らせた。

湖南省のある女性は、パンデミックに関する無検閲の情報を掲載している海外のウェブサイトにつながるQRコード付きのポスターを貼ったことが当局に発覚し、自宅から離れて暮らすことを余儀なくされた。寧夏回族自治区のある医師は、情報資料を配ったとして、2020年3月と6月の二度にわたって逮捕された。湖北省のある9歳の少女も、近所で情報を貼り出しているところを警察に目撃され、嫌がらせを受けた<sup>13</sup>。

山東省威海市の鄒華香さんは2020年2月25日、ある青年に「法輪大法は素晴らしい」と唱えてコロナから回復した人がいると話したことで通報され、逮捕された。マスクをつけた3人の私服警官が彼女を警察署に連行した。彼らは彼女に暴言を吐き、何も言わせなかった。また、彼らは彼女の意思に反して血液サンプルを採取し、「武漢のコロナウイルスで何人が死んだかについて話すことは許されない」と告げた。鄒さんはその日のうちに釈放されたが、翌日になって警察は彼女の家に現れ、法輪功の書籍や資料を没収した<sup>14</sup>。

## 3. 安全な生活を送るためのポスターを貼ったことで刑に処された<sup>15</sup>

吉林省永吉県の警察は2020年2月4日、地元の学習者である孫志文さんがポスターを貼っているのを監視カメラで確認し、逮捕した。永吉県610弁公室主任の張博は孫さんを城北警察署に連行した後、彼の自宅を捜索した。彼の法輪功の書籍はすべて没収された。

その日の夜に孫さんは釈放されたが、警察は孫さんがポスターを貼る様子の動画や、彼の自宅が捜索で荒らされた様子のクリップを多くの地元住民の携帯電話に送った。彼らは、法輪功を誹謗中傷するために、孫さんが「反動的なスローガン」を掲げていると主張した。

孫さんは4月22日に再び逮捕され、その後密かに4年半の懲役を言い渡された。2021年2月の旧正月頃、張博は孫さんの両親に嫌がらせをし、法輪功を放棄する声明に署名すれば息子に会うことができると告げたが、孫さんの収監先を明かすことを拒否した。

## 4. パンデミック対策の名目で嫌がらせと監禁

学習者を黙らせるだけでなく、警察はパンデミック対策の名目で彼らを逮捕し、嫌がらせを行った。中には、検温やCOVIDのワクチン接種のためと称して、学習者を逮捕す

るケースもあった。

2020年2月24日、河北省涿鹿県に住む康正蘭さんの夫（70代）が大家さんから電話を受けた。大家さんは、警察がパンデミック調査のために来ており、すぐに家に帰って彼らの質問に答えるようにと言った。急いで家に帰った彼は、警察からドアを開けるように命じられた。1人の警察がバールを持っていた。彼らは夫婦のパソコン、プリンター、法輪功の資料を没収した。警察は夫を逮捕しようとしたが、夫が彼らの現れに動揺し気を失ったため、逮捕をやめた。彼は翌日、警察署に出頭して質問に答えるよう命じられた<sup>16</sup>。

2020年3月13日、天津市の十数人の警察が、新型コロナウイルスの感染有無を確認するためとして、複数の学習者の自宅を訪れて嫌がらせを行った。警察は法輪功の本を押収して写真を撮り、本人の意思に反して血液サンプルと指紋を採取した。

湖北省天門市では、2020年3月16日の夜、唐還香さんと唐淑華さん（親戚ではない）が路上で、新型コロナウイルスの感染拡散防止に取り組むボランティアと名乗る数人に呼び止められた。「ボランティア」は、2人が法輪功の資料を配布したのではないかと疑い、警察に通報した。警察は地元の警察署で2人を一晩中取り調べ、翌日彼女たちの家をくまなく探した。その後間もなく、警察は地元の留置場が新型コロナウイルス感染症の流行中は人を受け入れていないと言って2人を釈放したが、パンデミックが終わったらすぐに彼女たちを探すと脅した<sup>17</sup>。

山東省濰坊市の大学生李慧さん（19）は、新型コロナウイルスのワクチン接種を受けないと決めたため、学校から報復を受けた。彼女が法輪功を修煉していると知った彼女は警察に通報し、逮捕させた。警察が彼女の寮から法輪功の資料を見つけたため、彼女は7カ月の刑と5,000元の罰金を言い渡された<sup>18</sup>。

2021年8月28日、ワクチン注射のためと主張する警察に逮捕された劉清飛さんという男性は、2022年4月24日に拘留中に急死した。拘留所の看守は4月24日午後8時25分、劉さんの家族に彼が死亡したことを伝え、病院に行って遺体を確認するよう促した。病院に着いた家族は、彼がまだ生きていることに驚き、医師に蘇生の努力を続けるよう促した。その後、医師が何をしたかは不明だが、劉さんはまもなく死亡が宣告された<sup>19</sup>。

2022年4月20日、黒竜江省大慶市で学習者25人が集団逮捕された際、数人の警察は防護服を着用していた。彼らは、住人がCOVID-19の陽性反応を示した人々と濃厚接触したかどうかを調べるためだと言い、学習者を騙してドアを開けさせた<sup>20</sup>。

a. 学習者が信仰のために隔離室に収容<sup>21</sup>

2020年1月27日、拘留所での虐待で意識を失った黒竜江省出身の宮鳳強さん（48）は、新型コロナウイルス患者用の隔離室に収容された。宮さんが2019年12月27日に逮捕されたのは、同じく法輪功への信仰を理由に逮捕されることから逃れようとした彼の妻が転落死してから、僅か数週間後のことであった。



b. 警察が「検温」のため、夜中に学習者を逮捕<sup>22</sup>

2020年2月5日深夜、広西省桂林市の警察は、体温を測らなければならないと言い、謝建新さんと妻・趙任遠さん夫婦宅のドアをノックした。謝さんはその状況を親戚に携帯メールで伝え、ドアを開けなかったと書いた。しかし翌朝、親戚がそのメールを見て謝さんに電話したところ、謝さん夫婦はすでに逮捕されていた。

夫婦の家族は2月8日、警察に電話で問い合わせた。警察は、2人は法輪功の資料を配ったとして逮捕されたと答え、それ以外の情報は明らかにしなかった。家族が1週間後に警察に電話で2人のことを尋ねたところ、対応した警官は情報の提供を拒否し、正式な通知を待つようにと言った。

拘置所は家族の面会要求を拒否し、趙さんと弁護士との面会も妨げた。6月18日に委任状へのサインを取りに行った際、弁護士は趙さん宛ての手紙を渡してもらうことも拒否された。

夫婦は2020年11月6日、秀峰地裁でテレビ会議による裁判を受けた。弁護士は2人の無罪を申し立てた。また、夫婦自身も法輪功を修煉することでいかに恩恵を受けたかを説明し、自己弁護を行った。しかし12月1日、裁判官は夫婦に4年の刑と合わせて1万元の罰金を言い渡した。

## 第4章 「センシティブな日」に学習者を狙い撃ち

パンデミックだけでなく、この2年間には年次政治会議や建国100周年、2022年北京冬季オリンピックなどもあり、中共にとってイベントに事欠かない時期であった。法輪功への迫害が始まって以来、中共は政治的にセンシティブだと考える日の数日前に、一貫して学習者の逮捕と嫌がらせをエスカレートさせてきた。

### 1. 政治集会である「两会」

中国全土で「ゼロ行動」キャンペーンが本格化する中、中共の政治集会である「两会」とオリンピック前後で、北京の学習者への監視が強化された。2020年5月22日から始まる全国人民代表大会と人民政治協商会議（パンデミックの影響で3月から延期されてきた）に先立ち、北京の治安隊は少なくとも40人の学習者を拘束し、さらに多くの人に嫌がらせを行った。4月を通して、少なくとも43人の北京の学習者が拘束された。そのうちの数回、警察は学習者に「政治集会を控えているからこのような措置を取っている」と明確に伝えた。また、一家で数人が拘束されたケースもあった。

4月21日、北京市通州区では、地元警察署の警官と610弁公室の所属員が王玉玲さんの家にやってきて、窓をこじ開け、家を荒らし、法輪功関連の書籍や印刷物、およびプリンターとコンピューターを押収した。

4月27日、北京郊外では、順義区の警察が楊玉良さんの自宅に押し入り、家宅捜索を行い、法輪功の書籍と法輪功創始者の写真を押収した。その後、彼らは楊さんと24歳の娘・楊丹丹を拘束し、3日に亘る尋問を行った。これは、4月22日に49歳で亡くなった楊さんの妻・高艶さんの死を未だ悼んでいる最中の出来事であった。高さん自身も法輪功を修煉していたことで繰り返し投獄されて拷問を受けており、結局、2013年に強制労働収容所から釈放されるまでに受けた虐待から完全に回復することはなかった<sup>23</sup>。

その1年後、2021年3月4日と3月11日に開かれた「两会」の前に、嫌がらせが再びエスカレートした。2021年3月7日、霍志芳さん（57）は高齢の父親に食べ物を届けるために外出したが、数時間後に警察に家を荒らされて、逮捕された<sup>24</sup>。

北京にある中国南方航空のシニアエンジニアである呉孟華さんは2020年2月14日、法輪功に関する情報を配布したとして初めて逮捕された。身体検査のために彼女を病院に連れて行った警察は、彼女が看護師たちに法輪功について話すのを防ぐため、彼女の口をテープで塞いだ。呉さんはその後保釈されたものの、絶え間ない嫌がらせに遭った。2021年3月、「两会」の期間中に警察が呉さんに再び嫌がらせをしたとき、彼女は脚がひどく腫れ上がり、とても弱まって階下に降りることができなくなった。2人の治安隊員が10日以上にわたって彼女のアパートの外に来ていたが、ようやく来なくなったのは、「两会」が終わった後だった。警察から身を隠すために町を出た呉さんはその後、指名手配された。執拗な精神的苦痛に屈し、彼女は2021年7月6日に亡くなった。46

歳だった<sup>25</sup>。

## 2. 中共創立 100 周年記念式典を前にした逮捕

2021 年 4 月 14 日午前 6 時 30 分頃、吉林省長春市の孫振鉄さん（61）の自宅に警察のチームが押し入った。ある警官は逮捕状と称する紙をちらっと見せたが、孫さんが読む前にしまった。孫さんを連行する前に、警察は孫さんと法輪功の本 26 冊の写真を撮った。ある警察は、中共創立 100 周年記念式典を数カ月後に控えていたため、逮捕は「社会の安定を維持するためだ」と言った<sup>26</sup>。

610 弁公室設立 22 周年にあたる 2021 年 6 月 10 日、黒竜江省牡丹江市当局は 7 月 1 日に行われる 100 周年記念式典を踏まえ、「治安維持」の名目で 28 人の学習者を逮捕した<sup>27</sup>。

翌日の 2021 年 6 月 11 日、遼寧省朝陽市当局はさらに 26 人の学習者と家族 1 人を逮捕し、それが中共 100 周年記念式典への「贈り物」であると主張した<sup>28</sup>。

2021 年 6 月 16 日、江蘇省連雲港市の仲偉玲さん（71）は逮捕され、連雲港市拘留所に連行された。拘留所の看守によると、式典を前にした政権の「安定を維持する」ための努力の一環として、同拘留所は毎日 200 人から 300 人の新たな被拘禁者を受け入れてきたという。仲さんは、以前に拘禁された際に受けた拷問で足に怪我を負い、歯を失ったこともあったが、拘留所の限られた食料と劣悪な環境のため、食事もままならなかった。彼女は急速に体重が減り、食事不足でめまいがするようになった<sup>29</sup>。

同じく 2021 年 6 月、吉林省永吉県で一人暮らしをしていた王桂英さん（76）は、警察から嫌がらせを受けた。彼女がドアを開けることを拒んだため、警察はしばしば彼女の家の外で監視した。数週間後の 2021 年 7 月 20 日（法輪功迫害 22 周年）に、警察は王さんの自宅に押し入り、法輪功の本や情報資料、およびプリンターを押収した。警察が自宅を捜索している間、王さんは心臓に異常をきたした。その後、警察は毎日彼女と娘に電話をかけてきた。王さんの健康状態は急速に悪化し、2021 年 8 月 6 日に亡くなった<sup>30</sup>。

## 3. 冬季オリンピック前の嫌がらせ

2021 年 12 月 21 日、北京市海淀区警察署の郭と E と名乗る 2 人の警官が秦尉さんの自宅に現れた。数人の身元不明の人物も同伴していた。秦さんの家族が玄関先で彼らを止めると、彼らは冬季オリンピックに向けた「安定維持」のために来たと言った。

著名な芸術家である秦さんは、2016 年 5 月に『共産党についての九つの論評』のコピーを配布したとして逮捕され、2 年半の懲役を言い渡されたことがある<sup>31</sup>。

北京市朝陽区出身で、イギリス在住者の母親である韓非さんも同様に、警察と居民委員会メンバーによる尾行と監視を受けた。警察は 2021 年 11 月 30 日に彼女の夫に電話をかけ、オリンピックを控えているため、外出しないよう警告した<sup>32</sup>。

焦淑英さんは 2022 年 1 月 23 日、昌平区の自宅アパートに押し入った警察によって逮

捕された。翌日、彼女は昌平拘留所に連行され、前年に法輪功に関する情報を配布した罪に問われた。

2021年初め、焦さんが住む宏福苑コミュニティは、「ゼロコロナ」政策により封鎖された。当局の命令で、すべての住民がコロナの検査を受けることになり、個人情報も求められた。警察は、焦さんの家族が提出した情報によって、焦さんの居場所を突き止めた。しかし、警察はその時点で彼女を逮捕せず、1年待って、北京で冬季オリンピックが開催される数週間前に逮捕した。

警察は焦さんのアパートを家宅捜索し、カレンダー2冊とメモリーカードリーダー数個を押収した。逮捕前、平西府警察署員が国勢調査と称して焦さんの在宅を確認しに訪れた。焦さんの連行後、90歳の母親は一人取り残され、自分の面倒を見るのに苦労していた<sup>33</sup>。

逮捕に加え、北京中心部の7つの地区（海淀、石景山、朝陽、順義、昌平、房山、通州）では、ほとんどの学習者が当局によって厳重に監視されていた。朝陽区と海淀区では、二交代制で4人が24時間、各学習者を監視していた。「コミュニティ内監視員」たちはそれぞれ、朝陽区では180元、海淀区では200元の日当を得ていたという<sup>34</sup>。

北京以外では、隣接する河北省の当局も学習者への嫌がらせを強化した。張家口市蔚県では、大量の私服警官が出動し、街頭を巡回した。また、蔚県警察は12月1日から県庁所在地や他の町で数多くのイベントを行った。これらのイベントでは、警察は公然と法輪功を批判し、精神修養法を中傷するチラシを配布した。彼らはまた、学習者を通報する者に報奨金を出した<sup>35</sup>。

2022年1月20日と21日、冬季オリンピックのスノースポーツ開催3区の一つである河北省張家口市崇礼区の当局は、大会期間中に法輪功について発言することを阻止する名目で、地元の学習者5人を逮捕した。崇礼区国内安全保衛部門の鄭建国の指示により、警察は1月20日午後9時、白梅さんを娘の家で逮捕し、白梅さんの携帯電話や他の所持品を押収した。同じ頃、警察は白さんの弟の白濤さんの家にも押し入り、彼の法輪功の本、法輪功創始者の写真、スピーカー、タブレットを押収した。警察が来たときに彼は家にいなかったため、警察は翌日再び現れて、彼を逮捕した<sup>36</sup>。

#### 4. 第20回党大会前の嫌がらせのエスカレート

遼寧省、吉林省、河北省などの中国の北部から、北京市、上海市、重慶市などの自治体、そして四川省、雲南省などの南西部まで、当局は中共第20回全国代表大会が開催される2022年10月の数カ月前から、学習者に対して自宅待機を命じたり、信仰を放棄する声明文への署名を強いたり、または洗脳センターへの連行などの嫌がらせを行った。

ほとんどの場合、警察は学習者の意に反して写真を撮った。ターゲットとなった学習者が不在の際、警察は代わりに家族の写真や家の外観も撮影した。

警察の中には、学習者の家にある法輪功の飾りを取り壊し、「健康コード」（旅行履歴やCOVID-19に晒される可能性を追跡する電子パスポートのようなアプリケーション）

をチェックすると言って学習者を騙す者もいた。しかし警官たちは、学習者ではない家族の健康コードについては確認することなく立ち去った。

学習者が書類への署名を拒否すると、警察はしばしば強制的に学習者の手を掴み、指紋を書類に押しつけた。その結果、多くの学習者は腕や手に青あざができたと訴えた。警察は、学習者が明慧ネットに嫌がらせを報告した場合、報復すると脅した。一部の学習者の家族は警察に屈し、愛する人の説得を強いられた。

当局はまた、学習者の仕事や年金を取り上げ、子供や孫の教育機会を奪うと脅した。これは彼らの家族に多大な精神的苦痛をもたらした。

時には、警察は学習者を騙し、法輪功について肯定的な文書を書かせた後、書類をフォトショップで加工し、学習者の署名を放棄声明文に移した。その後、彼らは改ざんされた文書を他の学習者に見せ、「某某も署名したのだから、あなたもしたらどうだ？」と、学習者の意志を揺さぶった。

8月2日、四川省成都市の農民である陳啓華さんに嫌がらせをした際、役人はこう言った。「法輪功をする限り、あなたは私の敵です。私は政府に代わってあなたに強制的な手段を使います」<sup>37</sup>

上海では9月下旬以降、警察は学習者の家の近くに張り込み、彼らの毎日の行動を監視した。9月下旬から10月25日にかけて、山東省東營市の警察は王凡さんの行く先々まで尾行した。王さんはかつて、勝利油田管理局でロシア語翻訳の仕事をしていたが、迫害に遭い2000年に解雇された。そして2017年以降、同社は主要な政治会議がある際、彼女の監視人を手配した<sup>38</sup>。

遼寧省大連市では、9月30日に3人の警官が方彩霞さんを見つけた際、こう告げた。「第20回党大会を『警護する』ために来た。あなたを見つけるために、例え地面を三尺掘らなくてもはならないとしても、私たちはそうするよ。第20回党大会の前には、週に一度、あなたと会わなければならない」<sup>39</sup>

## 第5章 迫害の主犯・江沢民の死

中共（CCP）の元最高指導者である江沢民は、腐敗、人権侵害、モラル崩壊の跡を残し、2022年11月30日に死去した。

1989年、江は学生主導の民主化運動を残忍に弾圧したことでトップの座に上り詰めた。1990年に北京で開かれたある記者会見で、外国人記者が1989年の民主化運動で逮捕された女子大生について質問した。この女子大生は「労働による改革（略称：労改）農場」に送られ、そこで数人の警官に集団レイプされた。この事件に対する見解を問われた江は、「彼女は暴力団員だから自業自得だ！」と答えた。

「黙って財を成す」というスローガンを掲げ、江は党内で汚職文化を作り上げた。学歴もない息子の江綿恒を中国科学院副院長に抜擢した。また、25億円の政府契約を確保し、息子が巨大な電気通信企業を築くのを支援した。

江の遺産として最も恐ろしいことが始まったのは、1999年7月のことだった。法輪功という修煉法は中国全土で盛んになり、数千万人がその緩やかな運動と道徳的な教えを学び始めていた。江は法輪功の人気ぶりを自分への脅威とみなし、法輪功の「真・善・忍」の原則が共産党政権のイデオロギーと相容れないものと見ていた。その結果、人権の大惨事が今日まで続いている。

1999年7月20日、江は法輪功に対する全国的な迫害を開始した。彼の指示の下で数十万人の学習者が逮捕され、拘留所、強制労働収容所、刑務所などの施設に連行され、信仰を放棄させるための拷問を受けた。数えきれないほどの学習者が生体臓器狩りの犠牲者となった。確認された死者数は4,000人以上だが、中国では情報入手が困難なため、実際の死者数はもっと多いと思われる。

迫害の初期、江は法輪功の消滅を目指し、「肉体を消滅させ、名誉を毀損し、経済を崩壊させる」という「三つの指示」を下した。この指示を実施するための戦術は中国社会の主流に浸透し、国民全体に今もなお「欺瞞、抑圧、虐待」の遺産を生み出している。

### 1. 国土をカバーする監視

迫害が始まった最初の数年間で、中共は法輪功を撲滅するキャンペーンに中国のGDPの約4分の1を費やした。2012年までに、超法規的な政治法務委員会（PLAC）に与えられた「安定維持」（中共が脅威とみなすあらゆるグループを抑圧する際に使われる婉曲表現）の予算は国防予算を上回った。

迫害を開始した後、江沢民は政府に、学習者を厳重に監視し、法輪功関連の情報がインターネットに投稿されるのを阻止するよう命じた。北京市警察は早くも2000年に、企業と共同でピンホール大のビデオカメラを開発し、それを学習者の家の入り口の横に設置し、出入りする人を監視していた。

また、江は息子の江綿恒に「金の盾プロジェクト」を率いさせ、既存のインターネットファイアウォールにウェブサイトの遮断、通信の監視、ウイルスやスパイウェアの送

信、顔認識、電話の盗聴などの機能を追加した。

現在、中国には5億台を超える監視カメラが設置されている。中共による市民への監視は、パンデミックの時代にさらに強化された。「健康コード」アプリが、住民が出入りできる場所を決めているのだ。より広範な監視システムに接続されているこれらのアプリは、電子的な足枷となった。

## 2. 強制収容所

パンデミックの間、多くの家族が強制的に引き離され、異なる「方舱」（隔離用の野戦病院）に連れて行かれた。これらの施設は食事や衛生、医療体制の劣悪さで悪名高く、隔離された人々は、しばしばそこを強制収容所に例えた。

これらの施設は、中共がウイグル族を強制収容している新疆ウイグル自治区にある既存の再教育キャンプ（婉曲的に「職業訓練学校」と呼ばれている）と類似している。唯一の違いは、「方舱」では洗脳や身体的虐待がなかったことである。

多くの人気が気づいていないが、新疆の再教育キャンプは、学習者を拘束し拷問するために使用された労働キャンプや洗脳センターをモデルにしているということである。法輪功への迫害を始めた後、江は数多くの労働収容所や洗脳センターを設立し、その多くは外部には「法制教育センター」として知られていた。それらは実質的に闇監獄であり、そこでは学習者が拷問を受けて信仰を放棄させられ、受刑者や協力する者が拷問を実施することで報酬を得ていた。

## 3. 拘禁中の性的虐待

新疆ウイグル自治区の強制収容所から脱出した数人の女性は、そこでレイプされたことを明らかにした。悲しいことに、中国の収容施設ではこのような拷問が長年行われており、学習者も主な標的となっている。

ジャーナリストの杜斌さんは2014年に『臆内失神』という本を出版し、多くの学習者が収監されていた馬三家強制労働収容所で起きた残虐行為を明らかにした。「女性に灌食するために子宮拡張器を長期間使用したり、女性を自分の排泄物の中に寝かせたり、数本の歯ブラシを縛って女性の臆にねじ込んだり、女性の臆に唐辛子粉を入れたり、女性の胸と臆に電気警棒でショックを与えたり、女性を男性の囚房に入れるなど、『馬三家女子労働収容所』で起こった残虐行為を人間として容認する理由も口実もない」と杜さんは書いた。

学習者の尹麗萍さんは、自分と他の17人の女性学習者が、馬三家労働収容所の男性監房に入れられたと証言した。あまりの恐ろしさに、精神障害を発症した女性もいた。

## 4. 強制的な薬物投与

中共当局はしばしば、健康状態が良好な反体制派を精神病院で苦しめた。犠牲者の中には、ある中共指導者の肖像画にインクをかけた董瑤瓊さんと、中共のプロパガンダに

疑問を呈した2人の教師、宋庚一さんと李田田さんも含まれている。

実際、多くの学習者は単に信仰を堅持しているだけで、長い間中共に「精神病患者」とレッテルを貼られてきた。彼らは神経を傷つける薬を注射されたり、食べ物や水にそのような薬を混入させられたりした。その結果、ある者は障害を負い、ある者は命を落とした。

#### 5. 正義を求める場所がない

中共の中傷的なプロパガンダは、多くの中国人に学習者への虐待を無視させ、迫害の共犯者になるようにさえ仕向けた。法執行機関、司法機関、他の政府機関が国家主導の弾圧のためのゴム印と化したため、一般市民の正義を支える法と秩序はもはや存在しない。

強制移住させられた世帯、報酬を得ていない出稼ぎ労働者、詐欺被害者など、数多くの請願者が、省または中央の陳情事務所に向かう途中でしばしば妨害され逮捕されており、自らが受けた不当な扱いを訴える場所がないことに気づいた。これは驚くに当たらないかもしれない。なぜなら、警察は陳情のために北京に向かう学習者を途中で捕まえることにおいて、非常に経験豊富だからだ。

今日、人権派弁護士や反体制派は、「国家転覆を煽動した」、または「喧嘩を売ってトラブルを誘発した」として投獄されることが多い。しかしそれよりもずっと以前から、中国の裁判所は何十万人もの無実の学習者に法的根拠のない判決を下している。今日、警察はしばしば歩行者や運転手を意のままに呼び止めてバッグを調べたり、携帯電話をチェックしたり、平気で個人宅に侵入し人を殴ったり逮捕したりしている。同じことが過去23年間、学習者に起こっていた。

#### 6. 憎悪を煽る

2001年1月23日、中共は天安門広場で、学習者に扮した俳優たちによる焼身自殺を演出したプロパガンダを行った。複数の角度から都合よく撮影されたビデオは国営メディアで継続的に放送され、世論を法輪功に敵対するものに変えた。

その1週間後、教育部長は中国国内のすべての学校に対し、法輪功を非難するキャンペーンを実施するよう指示した。その結果、多くの若者が法輪功を憎むように誘導された。100都市の約800万人の若者が、法輪功を中傷するために署名した。同月、1,500以上のコミュニティの若者がキャンペーンを行い、1,200万人の住民から法輪功を糾弾する署名を集めた。

法輪功への誹謗中傷は、大学や大学院の入試を含む試験問題や教科書にも書き込まれている。大学も入試要項を改正し、学習者の受験や入学を禁じた。

#### 7. 強制的な臓器摘出

2006年、生きた学習者から臓器を摘出する犯罪が初めて明るみに出たとき、多くの人は信じなかった。後に、元商務部長の薄熙来と中国人民解放軍総站部の元衛生部長の



白樹忠は、強制的な臓器摘出が江沢民の指示だったと認めた。

江は 1999 年 7 月に法輪功への迫害を開始した際、「名誉を汚し、経済的に破綻させ、肉体を消滅させる」との命令を下し、「(学習者を) 殴り殺しても自殺とみなす」とし、「身元を確認せずに直接火葬に付す」よう当局に指示した。

その後の数年間、中国軍、武装警察および病院は、需要に応じて殺すという恐ろしい臓器供給チェーンを構築し、犠牲者はもはや学習者だけに留まらなくなった。

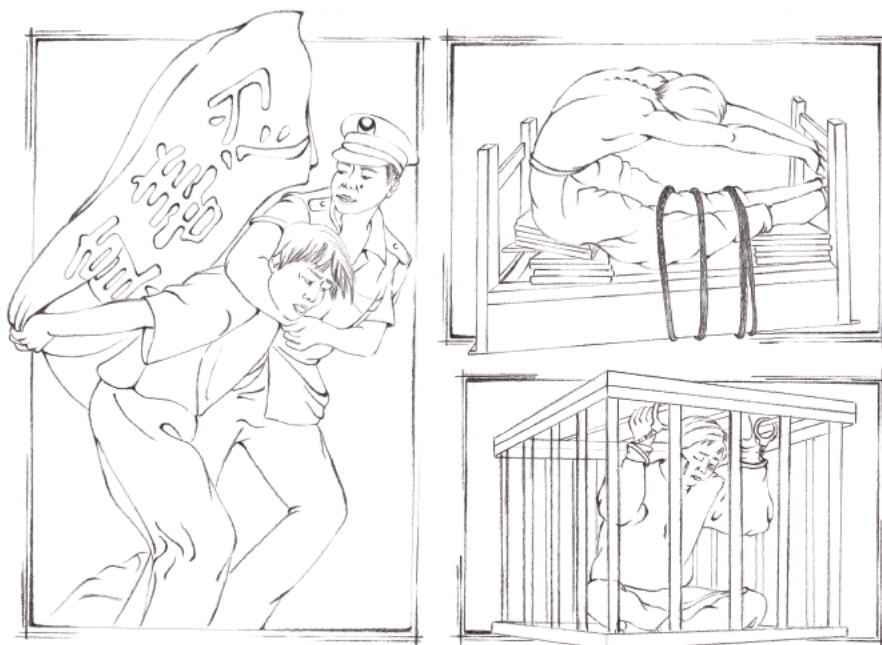
#### 8. モラルが崩壊していく中での希望

江沢民による法輪功への迫害は、中国の社会的・道徳的衰退を早めた。中共当局は迫害への参加を促すため、学習者を逮捕した警察や、学習者を通報した情報提供者に現金報酬を提供した。江はまた、役人のボーナスや昇進をこの迫害キャンペーンに結びつけた。拘置所や労働収容所、刑務所では、学習者が「真・善・忍」という信念のために拷問された一方、加害者は称賛され、報酬を得ていた。

警察が法を犯すことを奨励され、教師が無実の人を中傷するように仕向けられ、医師が利益のために殺人するように駆り立てられると、誰もが安全ではいられない社会へと向かってしまう。江沢民が始めた法輪功への迫害は、中国と世界の歴史に暗黒の一章をもたらした。より多くの中国人が中共の関連組織から脱退し、他の国々がその影響力を拒んだとき、私たちは初めて新たな光を見出すことができる。

# 第二部

## 概要と注目すべき事例



## 第6章 2020年以降、数百人の学習者が迫害により死亡

1999年の迫害開始から2019年末までの間に、4,454人の学習者が迫害で死亡したと確認された。しかし実際の数は、もっと多いと推察される。2020年1月のパンデミック開始から2022年末までの間に、明慧ネットによれば359人の学習者が中共の手により死亡した。

最近確認された死亡者の年齢は39歳から92歳まで、最年少は2017年に雲南省第一刑務所で拷問を受けて死亡した普政さん、最年長は元軍人の傅義栓さんで、絶え間ない嫌がらせによる精神的苦痛を受け、亡くなった。

亡くなった人の多くは、数十年にわたる監禁や拷問に耐えていた。ある72歳の女性は20回も精神病院に収容され、53歳の歴史教師は14年間投獄されていた。68歳の女性は、労働収容所での刑期と3回の懲役刑を合わせると、17年間服役していた。

法輪功を修煉していた劉希永さん（80歳の男性）は、3年間の刑期を終えても釈放されず、それどころか当局は彼を拘束し続け、数カ月後にさらに4年の刑期を言い渡した。彼は危篤状態に陥ったにもかかわらず、医療仮釈放が認められず、2021年12月29日にこの世を去った。

一部の学習者は、逮捕から数日後に殴り殺された。当局はしばしば家族に遺体を見せず、火葬を強要した。愛する人の遺体を見ることを許された人たちがしばしば目にしたのは、重傷を負った体であった。

拘留中に死亡した人の中には、拘留中に受けた虐待で重体に陥った人もいる。当局は彼らの健康状態を無視して医療仮釈放を拒否したため、彼らは刑務所内で死亡した。遼寧省瀋陽市の蘭麗華さんは、遼寧省女子刑務所で3年10カ月の服役中、2020年4月21日に末期の乳がんで亡くなった。家族の度重なる要請にもかかわらず、刑務所は彼女の保釈を拒否し、家族の同意なしに2020年12月16日に遺体を火葬させた<sup>40</sup>。

前述の傅義栓さんのケースで言及したように、継続的な嫌がらせによる精神的トラウマは、多くの学習者にとって致命的となる。すでに健康状態が悪化している黒竜江省の67歳の女性は、嫌がらせを受けた後、さらに弱り衰えた。彼女の死亡から1カ月後にも、当局は夫に電話をかけ、地元の居民委員会事務所に出頭するよう命じた。

黒竜江省七台河市の呉桂榮さんは2020年10月9日、自宅で居民委員から嫌がらせを受け、法輪功を放棄する声明書に署名するよう命じられた。呉さんが拒否すると、彼らは娘婿に強制的に署名させた。彼らが去った直後、警察は再び呉さんに嫌がらせをした。呉さんは恐怖に震え、警察が去った後に昏睡状態に陥った。4日にわたる救急治療の後、10月13日に81歳で亡くなった<sup>41</sup>。

遼寧省綏中県の13歳の少年は、2020年11月2日に41歳の母親が亡くなり、孤児となった。少年は、生後9カ月で父親の范徳震さんを亡くしていた。范さんは、2008年2月25日に逮捕されてから55日後に殴り殺された。その後10年間、働くことができない母親の楊雪さんは、絶え間ない嫌がらせに遭うことになった。精神的なストレスと家

計のやりくりの難しさが彼女の健康を損ない、早死にさせた<sup>42</sup>。

以下の節では、2020年以降に確認された迫害に起因する死亡例を選別して詳述する。

### 1. 拘留中の死亡

#### a. 収監されていた吉林省の女性が急死 家族は虐待を疑う<sup>43</sup>

法輪功を信仰していた肖永芬さんは、吉林省女子刑務所で7年の服役中、2020年1月31日に急死した。64歳だった。

肖さんの家族は2020年1月31日午後4時頃に刑務所から電話を受け、肖さんがシャワーを浴びている間に倒れたと告げられた。「救急車を待つ間、刑務所で応急処置を受けているのだ」と言う。10分後、刑務所は再び家族に電話をかけ、肖さんが病院へ向かう途中で亡くなったと伝えた。遺体は2月1日に荼毘に付された。

家族は、肖さんが刑務所で虐待されたのではないかと疑った。なぜなら刑務所では、多くの学習者が殴打、睡眠不足、電気ショックなどさまざまな拷問を受け、障害を負い、死亡しているからだ。

#### b. 逮捕から16日後に撲殺された女性<sup>44</sup>

山東省蓬萊市大張家村の李玲さんは2020年6月28日、法輪功に関する資料を所持していると通報され、村の役人と民兵組織に取り押さえられた。李さんが誰から法輪功の冊子を手に入れたのかを明かすことを拒むと、山間部の空き家に連行され、拷問された。2人の兵士が李さんを服従させようとして殴りつけ、李さんの口を傷つけ、数本の歯を折った。李さんは、全身に打撲を負った。見張るように言われた年配の村人によると、兵士の1人が李さんの胸を棒で刺したという。

それでも李さんは修煉をやめず、質問に答えることも拒んだ。李さんを苦しめていた1人が「直してやる」と言い、李さんを外に連れ出した。そこであまりにも激しく蹴られた李さんはバランスを崩し、臀部が石に当たった。雨が降り出すと、彼は李さんを雨の中に長時間立たせた。李さんは虐待に抗議するため、ハンストを行った。

李さんは7月13日に「蘇生」のために民間の診療所に緊急搬送されたが、医師はすでに死亡していることに気づいた。当局は、その日のうちに遺体を火葬するよう家族に強要した。着替えさせると、親族は李さんの眼球が突出していて、異常に大きく見えることに気づいた。

#### c. 治療を施されず、女性が逮捕から8日後に死亡<sup>45</sup>

遼寧省大連市の張思琴さん(69)は、法輪功を修煉していたとして逮捕され、8日後に姚家拘留所で死亡した。

拘留所に入った初日の夜から、張さんには深刻な健康上の問題が現れてきたが、当局は診断もなしに未知の薬を与える以外、一切の治療を施すことを拒んだ。

2年の刑期を務めるため、張さんは2022年1月19日に再び身柄を拘束された。張さ

んは恐怖に怯え、吐き気の波に襲われた。医師は容態を理由に拘留しないよう助言したが、警察は大丈夫だと言い張り、姚家拘置所に連行した。

拘置所での初日の夜、張さんは自力で歩くことができず、眠ることもできなかった。看守は、張さんに食べ物を与えることを拒んだ。翌朝、張さんはとても衰弱していて身支度ができず、同房者に手伝ってもらうことになった。

その後数日間、張さんは食べ物を飲み込むことができず、すべてを吐き出した。看守は、お粥と蒸しパンだけを与えた。張さんは、自力では立てないほど衰弱した。拘置所に収容されたとき、看守は張さんの入れ歯を取り上げた。張さんは何度も返してほしいと頼んだが、返してもらえず、食事はさらに困難になった。

それでも看守は張さんを医者に診せることなく、未知の薬を飲ませるだけだった。張さんの病状は、さらに悪化した。拘禁6日目の1月25日、張さんは震えが止まらなくなり、自力で座ることもできなくなった。同房者が看守に報告したところ、看守は未知の薬を与えようとしたが、一度も医療専門家に診せなかった。張さんが薬を飲めないのを見て、看守は5人の受刑者に命令して押さえつけ、強制的に薬を飲ませた。張さんは身動きが取れず、起き上がる力もなかった。

1月26日午前2時20分、張さんは再び震えが止まらなくなった。同室の収容者たちはみな目を覚ましたが、看守は依然として無視した。午前9時、張さんは車椅子で外に連れ出されたが、10分後に連れ戻された。看守は、張さんに未知の薬を強制的に飲ませ続けた。

真夜中に張さんは熱が出始め、午前2時40分には危篤状態に陥った。それでも看守は病院に連れて行くことを拒み、部屋の収容者たちに監視を続けるよう命じた。朝になると、張さんは介助を受けても起き上がれない状態になった。囚人たちは午前7時7分に状況を報告したが、医師が現れたのは午前7時25分であった。その間、同房者は看守を呼び続けたが、誰も現れなかった。

医師が到着したとき、張さんの呼吸が止まっており、脈もなかった。医師は蘇生を試みたが、反応しなかった。医師は午前7時34分に看守を呼んだが、医師が3回目の呼びかけをするまで、看守は応答しなかった。張さんは午前7時35分に死亡が宣告され、監房から移し出された。

d. 元ラジオ司会者（30）、刑務所で殴り殺された<sup>46</sup>

四川省人民ラジオ放送局の元司会者である龐勳（ホウクン）さんは、法輪功を学んでいたため、四川省嘉州刑務所で5年の刑期を服役中の2022年12月2日、殴打されて死亡した。

内部関係者によると、龐さんの身体は殴られたあざだらけで、電気ショックやロープで縛られた跡もあり、拷問により失禁もしていたという。刑務所は龐さんへの拷問を否定し、甲状腺機能亢進症で死亡したと主張した。しかし、逮捕されたとき、龐さんは健康で持病もなかった。

彼の友人の一人が、「豆板鵝組日報（とうばんがくみにっぽう）」というアカウント名で、龐さんの死についてツイッターに投稿した。この投稿はその後、750回リツイートされ、100万回再生を記録した。その友人はこう語っている。

「12月下旬、私の友人は共産党の刑務所で殴り殺されました。彼の名前は龐勳、30歳、とても陽気でハンサムな若者でした。中国伝媒大学を卒業した後、彼は四川省ラジオ放送局で司会者を務めていました。彼は私が知っている人の中で最も純粋で善良な人でした。彼が逮捕されたのは、彼（と彼の家族）が法輪功を修煉していたからです。私は法輪功を修煉していませんが、彼が修煉しているからといって、中国共産党に殺されてもよい理由には決してなりません！」

2020年7月26日、四川省成都市の自宅にいた龐さんは、誰かがドアをノックしているのを聞いた。警官かもしれないと思い、彼は応じなかった。その直後、職場の上司から電話があり、居場所を聞かれたうえ、すぐにオフィスに来るよう命じられた。龐さんは自分が狙われていることに気づき、行かない理由を伝えた。

誰かがまたドアをノックし、階下の隣人と名乗り、龐さんのアパートから水が漏れていると言った。龐さんはそれでもドアを開けようとしなかった。その後、龐さんのアパートの電気が切れて、彼は廊下で人が歩いたり話したりしているのも聞こえた。翌日、龐さんは出勤するために家を出た際、彼を監視していた警官に逮捕された。

前日には、もう一人の法輪功学習者、成都市民族宗教局の職員である王幼萍さんが逮捕された。2人のケースに詳しい人によると、龐さんと王さんは、警察に監視されていることを知らずに、一緒に法輪功に関する情報資料を配布していたという。

## 2. 高齢者の悲惨な死

### a. 退職したエンジニア 薬物で失明、足を骨折<sup>47</sup>

世界が2022年の元日の到来を祝う中、王柳珍さん（80代女性）は法輪功を信仰していたために数十年間にわたる迫害を受け、不幸な死を遂げた。

王さんは引退した冶金技師で、重慶の長安第二工場に勤めていた。1999年に共産主義政権が迫害を開始した後、2度の強制労働を強いられ、3回も精神病院に収容された。経口・静脈の双方から有毒な薬物を強制的に摂取させられ、その結果として内臓を損傷し、失明した。

居民委員会と江北区610弁公室は王さんの夫に離婚を迫り、離婚しなければ年金を停止すると脅した。王さんの子供たちも、母親を訪問すると仕事を失うという同意書にサインさせられた。

王さんを監視するために、当局は王さんの自宅の外に監視ボックスを設置し、10年以上にわたって24時間監視し続けた。監視していた者は、王さんを殴ったり、暴言を吐いたりすることが多く、ある時は木のツールで王さんの鼻を折った。王さんを苦しめていた1人が、「今夜は殴り殺すぞ！」と怒鳴ったこともあった。

王さんが沈黙を拒み、失明してからも正義を求めようとした時、王さんを監視してい

た者は報復として遠隔地に連れて行き、足を折るほどの暴行を加えた。

b. 3年の服役直後に懲役4年の実刑判決、80歳の男性が獄中で死亡<sup>48</sup>

2021年4月9日、3年の服役を終えたばかりの劉希永さん（80歳男性）の家族は彼を迎えに刑務所に行った時、警察に連行されたと知り、打ちのめされた。その4カ月後、彼はさらに4年の刑期を言い渡された。彼は糖尿病を発症し、胸に液体がたまった。治療中、当局は彼に手錠をかけ、病院のベッドに縛り付けた。

12月9日、劉さんは別の深刻な病状を発症した。病院に向かうワゴン車の後部座席で、彼は金属製の檻の中で車椅子に乗っていた。家族は劉さんの顔や手足が腫れ上がっているのを見て驚いた。彼は体が不自由なようで、はっきりと話すこともできなかった。孫娘が彼のマスクを整えようとしたとき、看守は彼女を威嚇し、家族が近づくことを許さなかった。

看守は、劉さんの家族に医療費を全額支払うよう要求した。彼は逮捕される前から健康状態が悪く、自分たちには責任がないと主張したのだ。そして家族が繰り返し求めている医療仮釈放も認められなかった。

劉さんは、12月29日に病院で亡くなった。刑務所は息子に遺体を引き取らせず、家族から告訴されることを恐れ、自ら葬儀社に持ち込んだ。1月1日に火葬されるまで、警察は劉さんの遺体を見張っていた。

1999年に迫害が始まって以来、劉さんは信仰を守り、迫害について人々に知らせたために繰り返し投獄された。2002年4月に逮捕された後、彼は2年間の強制労働を命じられ、2008年7月24日の再逮捕の際、3年半の刑を宣告された。最終的に2018年4月9日に逮捕された際、彼は再び裁判なしで3年の刑を言い渡された。彼の妻が地元の警察署で必死に釈放を訴えていたとき、ある警官から「今回こそ、中で死なせてやる！」と言われた。

c. 77歳の危篤男性が医療仮釈放を拒否され、数カ月後に死亡<sup>49</sup>

河北省冀東第5刑務所は2022年4月14日、河北省保定市在住の韓俊徳さんが同日午前10時35分に死去したと家族に通知した。韓さんは、法輪功の原則である「真・善・忍」を瓢箪の工芸品に刻んだことで懲役8年半の刑を言い渡されていたが、服役して3年も経たないうちに死亡した。

韓さんが収監された後、看守は彼に有罪を認め、法輪功を放棄するよう繰り返し命じた。しかし彼が応じなかったため、家族に会うことも、電話することも、手紙を書くことも許されなかった。韓さんの家族は後に、彼が刑務所での虐待により重度の貧血を発症したことを知った。彼は片目が見えなくなり、車椅子を使わなければならなくなった。家族は医療仮釈放を申請したが、医師が仮釈放に値すると判断したにもかかわらず、競秀区司法局は申請を却下した。

韓さんは2022年初めに重体となり入院し、退院後もドレナージチューブを装着して

いた。2022年4月5日に再び病院に搬送された際、彼は自力で呼吸ができなくなり、人工呼吸器を装着され、その9日後に亡くなった。

### 3. 引き裂かれた家族

#### a. 3人兄弟とその父、信仰により迫害を受けて死亡<sup>50</sup>

河南省三門峡市に住むある母親は、末っ子の陳孝民さんが法輪功を修煉したために拘束され、その後釈放されて2カ月も経たない2020年3月10日に亡くなったことで、さらなる打撃を受けた。

中共が法輪功への迫害を始め、学習者だった陳孝民さんと2人の兄は繰り返し逮捕、拘禁、拷問された。彼らの父親は、法輪功を修煉する権利を訴えて北京で逮捕された息子たちの釈放を求めているが、途轍もないストレスに耐えながら2001年に他界した。

陳さんの長兄・陳躍民さんは、2011年4月26日に亡くなった。彼は信仰のために新密刑務所で5年間服役している間、拷問を受け、未知の薬物を注射された。釈放された彼は体が麻痺し、しばしば激しい背中の痛みに襲われていたにもかかわらず、警察は最後まで彼に嫌がらせを続けた。亡くなったのは48歳の時だった。

陳孝民さんと次兄の陳少民さんは、それぞれ2016年6月6日と7日に職場で逮捕された。彼らは三門峡拘置所で1年以上にわたって隔離拘禁された。当局は2017年7月、秘密裏に兄弟に実刑判決を下した。その刑期は未だ不明である。彼らは新密刑務所に連行された。同じ刑務所で服役していた学習者によると、兄弟は信仰を放棄しなかったために激しい拷問を受けたという。

陳少民さんは2018年に医療仮釈放された。彼は複数の健康問題を抱えており、自分の面倒を見る能力を失っていて、2019年5月14日に亡くなった。彼の肺は完全に悪化していた。陳孝民さんは2020年1月18日に釈放された。彼は重体でやせ衰え、食べることもできなくなり、2020年3月10日に51歳で死亡した。

#### b. 息子が信仰を理由に収監中、母親（84）が警察による2カ月に及ぶ嫌がらせの後に死亡<sup>51</sup>

息子が法輪功を修煉したために5年の刑に服している一方、遼寧省營口市で一人暮らしをしていた母親の付樹勤さん（84歳）は、2020年4月から警察による嫌がらせを受け、その2カ月後に亡くなった。

付さんは自宅に来た3人の警官に、自分は迫害が始まる前に法輪功を習い、心臓疾患、糖尿病、高血圧などの多くの病気がすべて治ったと話した。警察は法輪功の修煉をやめるよう彼女に圧力をかけ、用意された信仰を放棄する3つの声明書にサインするよう騙そうとしたが、付さんは署名を拒否した。

4月の嫌がらせの前に、警察だけでなく彼女の家族までもが、息子の靳付章さんに法輪功への信仰を放棄するよう説得すべきだと付さんに圧力をかけた。靳さんは2016年6月28日に逮捕され、後に5年の刑を言い渡された。付さんは息子を支持し、法輪功



を堅持することは何も間違っていないと主張した。

しかし警察からの嫌がらせで、付さんはトラウマになった。彼女はカーテンを閉めたままにして、友人にも当分会いに来ないように頼んだ。彼女は食欲を失い、歩くのも困難になった。そして日を追うごとに体調が悪化し、2020年6月6日に亡くなった。その間、嫁は何度も大連刑務所に電話をかけ、息子の靳付章さんが重病の母親と面会できるよう刑務所当局に要請したが、無駄だった。

c. 夫と妻、1年違いで死亡<sup>52</sup>

法輪功を修煉していたことで長年政府から嫌がらせを受けていた管鳳霞さんが亡くなって1年も経たないうちに、同様に信仰していた夫の代志東さんも、最後に逮捕された1カ月後に亡くなった。

代さんは、黒竜江省大慶石油管理局傘下の水中電動ポンプ会社の元社員で、ガソリンスタンドで別の学習者とともに法輪功について書かれたパンフレットを配ったとして2022年1月8日に通報され、逮捕された。警察は彼の自宅を捜索して逮捕した後、1万元の保釈金で釈放した。

代さんは妻の医療費の完済に追われ、経済的に大きなプレッシャーを抱えていた。警察に5千元ばかりの貯金を没収され、息子が1万元の保釈金を払ってくれた後、彼はすべての借金をどう返済していくのか心配になった。一方で警察は、自分が迫害されている状況を明慧ネットに報告しないよう代さんに警告した。そうしたストレスで健康を害し、代さんは2022年2月11日にこの世を去り、享年60歳であった。

迫害が始まって以来、代さんと管さんは法輪功のために声を上げたことで繰り返し逮捕された。管さんは2年間の強制労働を、代さんは7年の刑を言い渡された。2人とも、信仰を放棄しないことを理由に、殴打や睡眠を奪われるなどの拷問を受けた。

釈放後も当局による嫌がらせが続き、夫妻は精神的に大きな苦痛を受けた。続く迫害は、管さんの健康に打撃を与えた。子宮筋腫ができ、不正出血が起こるようになった彼女は食事のままならず、やせ衰えた。2021年3月5日、彼女も同じく60歳でこの世を去った。

d. 拘禁中の母親が不審死を遂げ、娘は刑務所で虐待される<sup>53</sup>

付貴華さんは、7年半の刑期のために刑務所に入れられた2カ月後に亡くなった。当局は家族に遺体を見せることを拒否し、通知もせずに葬儀場に移し、看守が立ち合えない限り家族が遺体に会うことも禁じた。家族が彼女の死を調査するよう何度も求めたにもかかわらず、刑務官は遺体を一刻も早く火葬するよう圧力をかけた。

付さんは2019年8月15日、法輪功を信仰していることを理由に、夫と長女、2人の娘婿とそれぞれの両親とともに逮捕された。次女は生後3カ月の赤ちゃんがいたため、逮捕を免れた。夫と次女の義母は15日間拘留された後釈放されたが、他の者は2021年2月に7年または7年半の懲役を言い渡された。

付さんと長女は 2021 年 5 月 27 日、吉林省女子刑務所に収監された。彼女たちは第 8 区に收容され、「厳重な管理」の下に置かれた。毎日、彼女たちは長時間小さなスツールに座らされ、弁護士や家族との面会も拒否された。

## 第7章 実刑判決

2020年1月から2022年12月までの間に、合計2,427人の学習者が実刑判決を受けた(月平均67人)。

中国では厳しい情報検閲が行われているため、学習者は協力し、人々の迫害に対する認識を高めようと様々な手段を考案している。しかし警察に発見されると、大量逮捕や判決につながることが多い。2021年、当局は最長で13年に達する刑を多く言い渡した。パンデミック時の北京市内の人影のない通りの写真を海外メディアに送ったとして逮捕された11人のジャーナリストには、北京冬季五輪前に2年から8年の刑が下された。

河南省南陽市の裁判所は2021年、41人の学習者に実刑判決を下した。その全員が、2019年8月30日に行われた100人以上の学習者の一斉逮捕で標的となった。彼らの刑期は、7カ月から13年であった。

判決を受けた学習者の多くは、看守が信仰を放棄させようとしたため、刑務所で虐待を受けた。洗脳の一環として、仏教を勉強させられた学習者もいれば、飢えに苦しみながら無給の重労働を強いられた学習者もあり、他の数多くの学習者は絶え間ない殴打、睡眠の禁止、電気ショック、そして性的暴行を受けていた。

彼らの意志を弱め、家族に怪我を見られないようにするため、当局はしばしば学習者の家族との面会を拒否する。脚に障害のある68歳の男性、腎・心不全の49歳の男性、および脚に障害があり聴覚障害もある84歳の女性の3人がその例である。

ほとんどの学習者は、家族との文通を許されなかった。山東省のある女性の家族は、彼女に書留で何通もの手紙を送った。郵便追跡システムには手紙が受け取られ、署名もされていることが示されていたが、王翠英さんは後に、1通の手紙しか受け取っていないと家族に話した。同じ頃、家族の手元には、刑務所と看守を称賛する王さんを装った下手な手紙が届いた。

### 1. 家族と一緒に狙われた

#### a. 両親が6年違いで亡くなり、娘は7年の刑を下された<sup>54</sup>

孫玉嬌さんは、山東省蒙陰県に住む30歳前後の学習者である。法輪功に対する迫害で両親を失った。そして2022年3月、孫さん自身も信仰を理由に懲役7年の判決を受けた。孫さんは2021年6月10日、自宅で逮捕された。警察は彼女の家に押し入り、家宅捜索を行った。そして孫さんと父親の法輪功の本や資料、パソコン、プリンターが没収された。彼女はまず警察署で取り調べを受け、その後臨沂拘置所に移送された。

8日後、彼女の父親である孫丕進さんが職場で逮捕された。翌日、家族は彼が死んだと知らされた。蒙陰県葬儀場で家族が彼の遺体を見たとき、脳液が漏れているように見え、片方の眼球がなく、腹部と頭の半分が沈んでいた。警察は、家族の解剖依頼を拒否した。当局は6月26日、家族に茶毘に付すことを強制したため、彼の死因は謎のままとなった。

彼の死は、妻の于在花さんが同じく法輪功への迫害により亡くなって6年後のことである。彼女は2015年8月19日に47歳で亡くなった。彼の悲劇的な死から9カ月後、娘の孫玉嬌さんは山東省女子刑務所で7年の刑を言い渡された。一部の学習者は、当局が彼女に長い刑期を与えたのは、父親のために正義を求めることを防ぐためではないかと疑っている。

b. 7年から12年の刑を受けた両親と娘<sup>55</sup>

李国慶さんは、天津の電力会社で管制室の責任者を務めていたが、副業として、妻の于波さんと娘の李蕾さんとウェディングビジネスを営んでいた。一家は法輪功を修煉しているため、当局に狙われた。2019年5月15日、妻の于さんと娘の李さんは車で自宅マンションを出た直後に逮捕された。警察は彼らの家を検索し、プリンター、ファックス、3台の車を押収した。李さんもその日のうちに逮捕された。彼の年老いた父親は逮捕を聞いてトラウマになり、脳卒中を起こして入院した。

地元の警察署に拘束されている間、李さんは高血圧、娘の李さんは胃痛に苦しんだ。その後、一家は寧河区拘置所に連行され、2020年3月初めに寧河区検察院によって起訴された。そして寧河区裁判所から李さんは12年、于さんは10年、そして娘の李さんは7年の判決を受けた。

2. 信仰を理由に繰り返し狙われた

a. 元エンジニア、服役で半身不随になるも、信仰を理由に再び刑を宣告<sup>56</sup>

遼寧省大連市の元エンジニアは、10年間の獄中拷問の末に半身不随になったが、法輪功を信仰しているが故に再び刑を受けた。57歳の呂開利さんは2021年6月20日、自宅の門戸の両側に「真善忍を大切にすべきであり、徳を重んじ善行すれば福来る」と貼ってあるのを警察に発見され、逮捕された。

その日は、偶然にも父の日であった。呂さんは何年も前に実の両親を失くしたため、大連にいる身内は妻と80歳代の義父母だけである。彼の逮捕は身内をひどく動揺させた。特に義父は、まだ手術からの回復途中であった。

大連市での5日間の監禁の後、呂さんは姚家拘置所に移送された。当初、看守は健康状態が悪いことを理由に入所を拒否したが、警察が強制的に入所させた。家族が釈放を求めると、警察はこう返事をした。「私に話しても無駄だ。彼は上からの命令で逮捕されたのだ」

呂さんは以前負った怪我で、松葉杖をついて歩けるようになったばかりだったが、まともな逮捕された。拘置所では失禁に加え、松葉杖なしで歩かなければならず、障害のために大変な苦勞をした。脚の痛みで夜に眠れないこともしばしばだった。弁護士が面会に行くと、呂さんは囚人の背中に乗せられて運ばれてきた。

呂さんは2021年12月16日、甘井子裁判所で裁判を受けた。そして8カ月の禁固刑と5,000元の罰金を言い渡されたが、判決を不服として控訴した。

今回の判決の前に、呂さんは強制労働収容所と盤錦刑務所で2つの刑期を服役した。過去23年間のうち、13年以上を獄中で過ごしている。獄中では、彼は「死人ベッド」と呼ばれる拷問器具に縛り付けられ、手錠で吊るされ、電気バットでショックを与えられた。2005年にテレビ放送を電波ジャックし、法輪功を迫害している中共の犯罪を暴露するビデオを放送した後、彼は10年の刑に処された。看守は何時間も電気バットで彼にショックを与えた。2010年、極度の拷問に耐えられなくなった彼はビルの屋上から飛び降り、尾てい骨を負傷し、半身不随となり失禁した。

b. 12年間投獄された寧夏の男性、信仰のためまたも14年の刑に<sup>57</sup>

寧夏回族自治区銀川市の馬智武さんは2020年12月17日、法輪功を信仰していたとして、14年の刑と3万元の罰金を言い渡された。鉄道会社の安全監査室の運転手だった50歳の馬さんは、2020年6月5日に同省の固原市で仕事を探していたところを逮捕された。彼は固原市拘置所でハンストを行い、家族は彼の釈放を求めて地元の警察署や拘置所を頻りに訪れたが、効果はなかった。拘置所は、家族の面会も禁じた。

馬さんの弁護士は7月10日と28日に拘置所に面会に行ったが、いずれも追い返された。8月下旬、警察は馬さんの案件を原州区検察院に提出し、同院は9月2日にそれを固原市検察院に送った。固原市検察院は9月24日に馬さんを起訴し、事件を固原市中級裁判所に移した。11月19日と22日の2回の審理を経て、裁判官は12月17日に14年の判決を下した。馬さんは12月25日に判決を知らされた。

馬さんはそれまでも繰り返し逮捕され、12年間も拘禁されていた。法輪功について請願したことで1999年9月に逮捕されると、馬さんは3年間の強制労働を命じられた。労働収容所に収監された2年目に、地元裁判所は、違法な拘束に抗議してハンストを行った馬さんに懲役6年の判決を下した。

看守は馬さんを「死人ベッド」という拷問器具に40日以上縛り付けたこともある。また、彼はハエの死骸が入った未知の薬物を強制的に飲まされ、その後、体の中が燃えているように熱く感じ、6カ月間立つことも歩くこともできなかった。

馬さんが1999年に初めて逮捕された時、妻は娘を妊娠していた。幼い娘は父親が不在のまま育った。娘が2歳だった2001年11月20日、娘を利用して母親（同じく学習者）に法輪功を放棄させようとして、警察は娘を留置場に連れて行った。

2008年2月に馬さんが釈放された時、娘はすでに8歳になっていた。わずか2年後の2010年9月12日、馬さんは再び逮捕され、3年半の懲役を言い渡された。1年半にわたって、彼は毎日長時間小さなスツールに座らされ、性的暴行を受け、凍えるような寒さに晒された。そして左腎臓を損傷し、肋骨の1本が折れて、血尿が出た。さらに脚がひどく腫れてあざだらけになり、立つこともできなかった。馬さんの服役中、彼の父親は息子のことを常に心配し、2010年に亡くなった。

### 3. 学習者たちへの判決

a. 9人の学習者が逮捕され、判決を受けた<sup>58</sup>

馬民慶さん（52）は2021年12月20日、7年半の懲役と1万元の罰金を言い渡された。彼は、2019年7月9日と10日に逮捕された9人の学習者のうち、海珠地方裁判所で判決を受けた最後の1人である。広東省広州市在住の9人は、地下鉄駅のWi-Fiを通じて法輪功の情報を送った疑いで警察に狙われた。

逮捕された他の8人の学習者は、馬さんの母親である王雪禎さん、林作英さん、曾加庚さん、譚初英さん、呉麗娟さん、梁惠嬋さん、張惠さん、楊志剛さんで、ほとんどが70～80歳代だった。

馬さんの判決に先立ち、林さんは2020年7月13日に懲役1年、執行猶予2年と罰金2,000元の判決、呉さんは2020年後半に1年3カ月の実刑判決を受けた。曾さんは2021年7月28日、5年の刑を言い渡された。譚さんは2021年8月頃に懲役2年、執行猶予3年半の判決、馬さんの母親である王さんは、2021年3月17日に4年の刑を言い渡された。梁さん、張さん、楊さんの判決は不明である。

馬さんの母親である王さん（77）は拘留中、耐え難い腰痛に悩まされ、時には歩くこともできず、床を這わなければならなかった。医者に診てもらいたいと頼んだが、看守は無視した。2020年10月下旬、彼女の状況に詳しい人物が家族に伝えたところによると、彼女は海珠区拘留所で引き伸ばし拷問を受けたという。彼女は、真っ直ぐ立つことも歩くこともできないほどの重傷を負った。2020年11月3日に弁護士が再び訪れた時、彼女は車椅子に乗っていた。

79歳の曾さんは、逮捕から2カ月後に生命を脅かす高血圧と心臓疾患を患った。家族と弁護士は保釈を申請したが、却下された。

b. 黒竜江省の住民7人 電話をかけたとして約11年の刑<sup>59</sup>

黒竜江省大慶市の住民7人は、共産党政権がパンデミックをいかに隠蔽したか、そしてコロナ患者が「法輪大法は素晴らしい、真・善・忍は素晴らしい」と唱えて回復したと電話で人々に伝えたとして2020年4月7日と8日に逮捕された。警察は、彼らが刑法第300条に違反し、すなわち「カルト組織に加担し、法の執行を弱体化させた」と非難した。この言い方はすでに、当局が学習者を犯罪者にするための定番の口実になっている。

学習者たちは2020年12月17日と29日、そして2021年6月22日と10月21日の4回、讓胡路区地方裁判所に出廷した。家族は、愛する人を不当に起訴しようとしたとして、検察官の封氏と裁判官の薛氏を区・市の政府部門および紀律検査部に何度も告訴し、検察官と裁判長の交代も求めた。しかしどの機関も彼らの苦情や要求に応えなかった。薛裁判官は2021年11月17日に以下の判決を下した。

李力壮さん：懲役10年8カ月、罰金8万元

唐竹茵さん：懲役9年4カ月、罰金5万元

趙麗華さん：懲役7年5カ月、罰金4万元

霍曉輝さん：懲役7年3カ月、罰金4万元

丁燕さん：懲役4年2カ月、罰金3万元

焦其華さん：懲役4年、罰金3万元

李艷清さん：懲役1年10カ月、罰金2万元

李さん、唐さんと霍さんは、判決を不服として控訴している。

70歳代でハルビンタングステン・プラチナ材料工場を退職した唐さんは、過去20年間に何度も逮捕され投獄された。彼女が最初に逮捕されたのは、1999年9月に法輪功について請願するため北京に行ったときだった。北京朝陽区拘置所の看守は彼女を拷問し、冷水を浴びせた。

唐さんは2001年4月と2006年8月の2回、計3年半の労働収容所生活を強いられた。万家強制労働収容所では、看守は彼女の脚を縛り、手錠で吊るしあげ、電気バットで頭や腕、手にショックを与えた。左腕と手の傷は治るのに時間がかかった。看守は彼女にこう言った。「我々は上司の命令に従っていて、彼らの道具に過ぎない。正義を求めるなら、江沢民（1999年に迫害を命じた共産党政権の元トップ）と話す必要がある。これは私たちの仕事だ。選択の余地がない」

48歳の元整形外科医である李さんは、法輪功の放棄を拒否したために勤め先の病院を解雇され、二度の強制労働収容所、一度の刑務所懲役、合わせて6年半の刑を受けた。拘束中はひどい拷問と性的暴行を受け、釈放後は路上で服を売って生計を立てなければならなかった。

c. 7人の大家族を含む14人の学習者に7年から9年の刑<sup>60</sup>

2019年8月15日、吉林省長春市の14人の学習者（うち7人が家族）が、警察の掃討作戦により逮捕された。彼らは2020年9月28日、梨樹県裁判所で裁判にかけられた。裁判官は弁護士や家族が弁護することを禁じ、学習者が自己弁護する際も頻繁に遮った。裁判官は2021年2月26日、彼らに判決を言い渡した。

孟祥岐さん（37）と義母の付貴華さん（55）は、ともに懲役7年半の判決を受けた。孟さんの父親である孟凡軍さん（59）、義姉の于健莉さん（30）、于さんの夫である王東吉さん（40）、王さんの両親である王克民さん（69）と王鳳芝さん（69）はそれぞれ、懲役7年を言い渡された。

他の7人の学習者も長い刑期を受けた。江濤さん（46）は9年の刑に処された。侯紅慶さん（49）、韓建平さん（58）、譚秋成さん（44）、張紹平さん（51）、崔桂賢さん（56）、劉冬英さん（崔さんの娘婿の母親、55歳）は、それぞれ7年の刑を言い渡された。

付さんは吉林省女子刑務所に収監されてから2カ月後の2021年7月25日、肝硬変の疑いで死去した。家族はすぐに遺体を確認させてほしいと言ったが、医師は「まずその場所をきれいにする必要がある」と答えた。家族が再三にわたり要求した後、ようやく数日後に遺体を確認することができたが、携帯電話の持ち込みや写真撮影は禁止された。

d. 10人に判決を下した裁判官:「殺人犯は弁護士を雇えるが、学習者は雇えない！」

61

吉林省農安県の住民13人が、法輪功を信仰しているが故に判決を受けた。彼らの控訴は、2021年11月末にすべて却下された。そのうちの1人、孫鳳仙さんは拘留中に脳卒中を起こし、2021年12月15日に亡くなった。刑の内容は以下の通りである。

張秀芝さん(64) : 10年の刑  
 高曉岐さん(56) : 9年の刑  
 蔡玉英さん(66) : 9年の刑  
 馮立齊さん : 9年の刑  
 吳冬梅さん(50) : 7年の刑  
 于姣茹さん(蔡さんの娘、34) : 6年の刑  
 単為和さん : 6年の刑  
 呂相富さん : 6年の刑  
 趙秀蘭さん(67) : 5年の刑  
 孫秀英さん(68) : 4年の刑  
 張敬元さん : 2年の刑  
 孫鳳仙さん(65) : 2年の刑  
 董秀輝さん : 1年半の刑

2021年4月9日、徳恵市裁判所で行われた学習者の初公判に先立ち、王栄富裁判官は、弁護士および弁護士でない家族弁護人が、自らが法輪功を修煉していないことを証明する書類を提出しなかったことを理由に、事件の関連書類の閲覧および公聴会への参加を許可しなかった。

彼は学習者の家族と話す際に侮辱的な言葉を口にし、「すでに上級裁判所に問い合わせたが、これ(弁護士が法廷で学習者を弁護することを認めない)は私が言われたことだ」、「合法かどうかの話はしないでくれ。これが我々のやり方だ。一つ知ってほしいのは、法輪功のケースは特別なのだ」、「弁護できないと言ったら弁護できない。そうだ、私たちは法律に違反している。だから何だ！どこでも好きなところに訴えなさい」などと言い、「殺人犯は弁護士を雇えるが、学習者は雇えない！」と付け加えた<sup>62</sup>。

王裁判官はまた、聴聞会の開催3日前の学習者への法定の通知もしなかった。廷吏は審理当日の朝、農安県拘置所にいる学習者の監房に行き、彼らを車に引きずり込み、裁判所まで連行した。看守は高さんの髪を引っ張り、背中を殴ったため、その痛みが数週間も続いた。于さんは看守に引きずられたため、腕にあざができた。法廷に連行される前、学習者は全員防護服を着用させられた。王裁判官は2021年7月26日に判決を下した。

学習者たちは2020年7月15日に逮捕された。これは、法輪功迫害21周年にあたる7月20日、または7月23日に予定されていた習近平主席の同地域訪問より数日前のこ



とであった。ほかにも、2020年8月上旬に釈放されて1カ月後に死亡した姜全徳さん（孫秀英さんの夫）と、2021年3月4日に容疑が晴れて釈放された任永平さん（張敬元さんの妻）も、同日に逮捕された。

両親の信仰に対する23年間にも及ぶ迫害のため、姜さんの2人の息子は恐怖と屈辱の中で育った。両親が逮捕された後、少年たちは友人や親戚（巻き込まれることを恐れて、しばしば見て見ぬふりをした）に食べ物を乞わなければならなかった。獄中での11年間の拷問と釈放後の嫌がらせに苦しみ、すでに非常に衰弱していた姜さんは、最後の逮捕から1カ月半後の2020年8月26日に亡くなった。

#### 4. 法輪功の修煉で人生が好転し、信仰を貫いた結果、投獄

##### a. 19年間服役した湖北省の男性、信仰のためにさらに3年の刑<sup>63</sup>

かつて強盗犯として有罪判決を受けた李広清さん（67）は、法輪功によって人生が好転したと信じている。しかし、法輪功を修煉する権利を訴えた彼は2000年10月に逮捕され、19年間投獄された。そして2021年8月5日に再び逮捕された彼には、さらに3年の刑が言い渡された。

湖北省應城市出身の李さんは、1979年（当時24歳）に強盗罪で18年の判決を受けた。彼は3度脱走し、刑期が11年延長された。1989年に4度目の脱獄に成功したものの、彼は再び逮捕される恐れに怯えて過ごし、家族のいる家に帰ることもできなかった。

その後、同省の武漢市に住んでいた李さんは1996年6月15日、洪山公園で法輪功の煉功をしていたグループに出くわした。煉功音楽と緩やかな動作に惹かれ、彼はその日から法輪功を習い始めた。彼はほどなく別人のようになり、新たな人生を歩み始めた。

1999年に法輪功への迫害が始まって間もなく、李さんは法輪功について請願するために北京に行き、逮捕された。彼は強盗の罪で服役していた新疆ウイグル自治区の刑務所に連れ戻された。数カ月後、裁判官は、彼の以前の脱獄と法輪功を修煉していることに対し、新たに19年の懲役刑を宣告した。

2019年1月に釈放された李さんは故郷の湖北省應城市に戻ったが、法輪功に関する資料を配布したことで、2021年7月30日に逮捕された。李さんの妻は、面会の権利を拒否された。彼女はその後、67歳の夫が2022年3月3日に裁判にかけられ、3年の刑を受けたことを知った。

##### b. 法輪功を信仰していた夫婦に有罪判決、弁護士との面会も拒否<sup>64</sup>

迫害を避けるために自宅を離れて暮らしていた劉社紅さんと妻の趙秀娟さんは2019年9月4日、湖北省荊州市で逮捕された。そして2020年12月3日、劉さんに7年半、趙さんに7年の刑が下された。

劉さんは16歳の時に学校を辞め、同省武漢市にある木材加工会社で働き始めた。26歳のとき、彼は暴力団に入り、麻薬を始め、薬物、喧嘩、詐欺などの罪で数回服役した。彼は2004年6月に釈放されたが、雇用主は彼を解雇した。数カ月もしないうちに彼は

麻薬に戻り、友人から借金をするようになった。友人は彼にお金を与えることをやめ、彼を避けるようになった。

40歳代に入ると、武漢でのけ者になった劉さんは、2006年12月に故郷に戻った。しかし彼の生活習慣は健康を害しており、顔色が悪く、両足に浮腫みがあって歩くのも困難だった。彼の母親はいつも泣いていて、近所の人たちは、彼が2007年の春節まで生きられないかもしれないと思っていた。彼は近所の人たちから金を借り、また麻薬を買い始めた。母親はとても心配していたが、彼を助けることができなかった。

しかし劉さんは2006年に法輪功を習い始め、その4カ月後に麻薬をやめ、健康を取り戻した。彼はより良い人間になろうとし、「真・善・忍」の原則に従って生きようとした。彼は自分の人生を完全に逆転させた。人に悪態をついたり、争ったりすることもなく、彼は家族や他人を助ける勤勉な人になった。劉さんを以前から知っていた多くの人々は、彼の変化に感銘を受けた。しかし、法輪功によって人生が改善されたことを人々に話したことで、彼は2010年12月に逮捕され、4年の懲役を言い渡された。

c. 進行した歯髄がんが法輪功で治った経緯を他人に話した女性が投獄された<sup>65</sup>

河北省承德市の郭鑫さんは、古代の精神修養法がいかんにして進行した歯髄がんから自分を救ったかを人々に話した。さらに法輪功への迫害について人々に広めたために、2022年2月16日に地方の刑務所に移送され、5年の刑期を務めることになった。

郭さんは2019年1月11日に自宅で逮捕された。その後、拘置所が健康状態を理由に入所を拒否したため、保釈された。そして2019年7月10日に双橋区裁判所に出廷した際、郭さんは自ら弁護した。彼女は自分の歯髄がんが法輪功によって治った経緯を詳しく説明した。かつては歯茎全体に小さな白い膿疱ができ、すべての歯が緩くなっていた、話している間に歯が抜けるのではないかと心配したほどだったという。また、がんのために前歯が突き出て、顔を変形させたという。医師からは余命が2年も超えないと宣告された。

激痛と絶望に苛まれる中、彼女は法輪功を習い始めた。すると短時間で痛みは治まり、感染症も治まった。後退していた歯茎は元に戻り、緩んでいた歯も安定した。郭さんは法輪功が自分の命を救ってくれたことに感謝し、より多くの人々が法輪功の恩恵を受けられるようにと、法輪功の情報を載せてカレンダーを作り配布した。公判中、彼女は自分のしたことはいかなる法律にも違反していないと述べ、裁判官に良心に従い正義を守るよう求めた。

しかし2019年7月23日、裁判官は1万元の罰金と共に、5年の刑を宣告した。裁判所は郭さんが自宅で服役できることに同意したが、双橋区国保大隊副隊長の陶怡博は2021年12月10日、郭さんを服役前の身体検査に連れて行き、その後承德市拘置所に移送した。2022年2月16日、彼女は河北省女子刑務所に移送された。

## 第8章 逮捕

2020年1月から2022年12月までの間に、少なくとも16,033人の学習者が逮捕された（月平均で445人）。警察は、自宅で座禅中の学習者を逮捕したり、搜索令状なしに自宅を荒らしたりと、起訴のあらゆる過程において法的手続きに違反した。また、警察は逮捕の際、頻繁に暴力を振るった。ある警官が学習者の家に押し入って家宅捜索を行う一方、別の警官は学習者を殴り、法輪功を修煉していることで有罪と認めさせようとした。

海南省瓊海市の警察は2021年4月7日午後10時頃、趙鋒慧さんの家のドアをノックした。誰もドアを開けないのを見て、彼らは「爆破させるぞ！」と脅した後、ドアを蹴り続けながら、「これが最後のチャンスだ！今すぐ開けたら大丈夫だが、そうしなければ、侵入するぞ。よく考えろ！」と叫んだ<sup>66</sup>。

趙さんが直面した脅威は、特別なものではなかった。河北省涿水県では、指紋の採取に応じなかった3人の学習者を取り調べた際、警察は「指を切り落としてやる！」と脅した。被害者の1人である70代の張淑平さんは、写真を撮られた際に警察に無理矢理目を開けられ、目の痛みと頭痛が続いたという。また、腕にも痺れが残り、警官の力が強すぎて指も痛かったと語った<sup>67</sup>。

2021年5月11日に逮捕された吉林省舒蘭市の郭秀梅さんは、警察の取調べに協力を拒否したため、警察は彼女の頭を覆って非公開の場所に移し、彼女を殴り、部屋に置かれていた拷問器具で威嚇し、小便を混ぜたワサビ油を鼻に流し込んだ<sup>68</sup>。

吉林省吉林市に住む90歳の蔡秀芳さんは、法輪功について人々に話したとして2021年5月14日に逮捕された。その後、警察は彼女を車に押し込み、鍵を奪って自宅を荒らした。彼女は地元の警察署にある金属製の檻に入れられ、数時間後に保釈された<sup>69</sup>。

陝西省漢中市の張俊秀さんは2021年6月18日、逮捕に抵抗しようとしたところを警察に殴られ、肋骨7本を折った。彼女は住所を明かすことを拒否したが、警察はオンラインデータベースから住所を見つけ、搜索令状なしに彼女の家を荒らした<sup>70</sup>。

鄧傳久さんは法輪功を修煉したとして4年間服役し、2021年10月15日に釈放された後、四川省彭州市の地方市政府に連行された。政府関係者は彼を殴り、冷水を浴びせた。11月22日、警察は再び彼を逮捕し、棒や金属パイプで殴った。強く殴ったために棒が3つに折れ、金属パイプが曲がった。その後別の警官が別の金属パイプと警棒を見つけ、彼を殴り続けた。鄧さんを家に連れて戻ったとき、警察は彼の家を荒らし、「これは始まりに過ぎない。いつでもお前を逮捕し、叩きのめすことができる。今日かもしれないし、明日かもしれない。平穏な生活を送り熟睡できるとは思わない！」と警告した<sup>71</sup>。

迫害は、学習者本人だけでなく、その家族にも大きな苦痛を与えている。

2021年8月20日、湖北省宜昌市の黄文芬さんが洗脳センターに連行されたため、彼女を頼りにしていた96歳の父親は放置されることになった。河南省安陽市の段燕林さんが2021

年6月26日に逮捕され拘束されている間、彼が介護していた寝たきりの母親は逮捕のことでトラウマになり、まもなく亡くなった。警察は段さんが母親の葬儀に出席することを許可しなかった<sup>72</sup>。

北京では2021年1月14日、てんかんを患う12歳の少女が両親と共に逮捕された。警察署に向かう途中、母親の甄森さんは娘の病状を警察に伝え、娘を兄の家へ送ってほしいと頼んだ。しかし警察はその要望を拒否し、さらに娘の前で一晩中、甄さんを尋問した。娘は数時間後に祖母のところに行かされたが、トラウマへの対処に苦み、発作の頻度も増えた<sup>73</sup>。

2021年8月20日、甘粛省蘭州市の鉄道輸送会社に勤務していた寇慧萍さんに嫌がらせをする際、地元警察とコミュニティ関係者は、脅迫を受けて恐怖と苦痛に苛まれている彼女の母親の写真を見せながらこう言った。「お前のお母さんを毎日このように苦しめてやる。彼女はもう年をとっているから、いつか耐えきれずに死んでしまったら、すべてお前のせいだ！」<sup>74</sup>

直近2年間の逮捕のうち、さらに注目すべき幾つかの事例を以下に紹介する。

a. 10年間の獄中拷問で辛うじて生き延びた吉林省の女性、再び逮捕<sup>75</sup>

10年間の刑務所での拷問から辛うじて生き延びた吉林省舒蘭市の宋彦群さん（49歳の女性）が、法輪功への信仰を放棄しないとして、2020年3月26日に再び逮捕された。警官は国勢調査を行うふりをして宋さんを騙し、ドアを開けさせた。彼らは、法輪功への迫害をやめるよう中共の李克強首相に宛てた彼女の手紙が北京から返却され、国家陳情室が宋さんの逮捕を命じたことを告げた。

宋さんは彼らにこう話した。「私は自分の信仰のために正義を求めているだけです。何も悪いことはしていないのに、刑務所で拷問を受けて死ぬところでした。今でも多くの健康問題を抱えており、普通の生活を送ることができません。首相に手紙を書いて何がいけないのですか？」

警察はその場で彼女を逮捕しなかったが、その日の夕方に戻ってきて、宋さんを警察署に連行した。宋さんの法輪功の本と貴重品は没収された。宋さんは現在、吉林市の拘留所に収容されている。

宋さんの父親は彼女の釈放を求めて警察署に行き、「娘は刑務所で受けた10年に及ぶ拷問で心身共にダメージを受けている。帰宅してから何年も経っているにもかかわらず、まだトラウマから回復していない。訴えの手紙を書けば精神的苦痛が和らぐため、毎日手紙を書いている」と警察に話した。

警察は宋さんに同情しながらも、逮捕命令は上から出たもので自分たちにはどうすることもできないと父親に告げ、当局が彼女に再び判決を下す予定であるとも明かした。

b. 2度の強制労働と1度の服役を終え、90度猫背の女性が再び逮捕<sup>76</sup>

山東省済南市の警察は2021年7月22日未明、姜新英さんの自宅に押し入り、逮捕し

た。警察は姜さんの家族に、彼女が法輪功について人に話す様子が監視カメラに撮られていたと告げた。彼女は以前に受けた迫害で猫背になったため、警察はすぐに彼女を特定することができたのだった。

2007年の強制労働期間中、姜さんは肺結核、リンパ結核、脊椎結核にかかった。肺には直径7cmにも及ぶ穴があり、脊椎の数ヶ所が壊死していた。背中の皮膚は黒くなり、腰椎の両側には10センチを超える結核の塊ができていた。歯茎も侵され、臭いを発していた。第3、第4椎骨は結核菌に大きく侵されていて、死んだ椎骨が神経を圧迫し、足を動かすと耐え難い痛みを引き起こした。そして3週間後に手術を受けたにもかかわらず、背筋を伸ばすことができなかった。時間が経つにつれ、彼女の猫背はますますひどくなった。

## 第9章 高齢者をターゲットに

高齢の学習者も迫害を免れず、しばしば当局から残忍な扱いを受けている。逮捕、嫌がらせ、拘禁に加え、一部の学習者は年金の支給を停止され、過去の服役中に受け取った年金の返還をも命じられたことで、経済的打撃にも直面している。これらの懲罰的な財務上の政策は、日々の生活を年金に頼っている高齢者に不釣り合いな形で適用されている。

2020年9月4日、重慶市出身の雷正夏さん（74）が陝西省西安市にある娘の自宅で逮捕された後、警官に取調室の隅に押し込まれた。胸を殴打された上、手の端で首を打たれ、頭を壁に叩きつけられた。別の警官が雷さんの太ももに膝を打ち付けようとした際、一緒に逮捕された雷さんの妻に制止された<sup>77</sup>。

遼寧省本溪市の趙鳳蘭さん（82）は2020年6月21日、自宅で逮捕された。彼女は歩行や会話に支障があったため、警察は彼女を階下に運び、警察署に着くと椅子に座らせ、2階の取調室まで運んだ。警察は、趙さんが以前逮捕されたときの保釈条件に違反したとして、彼女を指名手配していた。趙さんは取り調べに怯え、その日のうちに帰宅させられた後も、衰弱しきっていた<sup>78</sup>。

新疆ウイグル自治区石河子市の嚴宜学さん（90）は、2020年5月22日の中共の政治会議に先立って逮捕され、8月上旬まで隔離拘束された。釈放されたとき、彼女はやせ衰え、激しい腰痛を患っていた<sup>79</sup>。

重慶大学を引退した82歳の谷九寿元教授は2021年11月9日、バス停で法輪功について人々に話した際に通報され、逮捕された。警察は彼を車に引きずり込み、手錠をかけ、ダウンジャケットとインナーを捲り上げ、ベルトをはぎ取った。警察署では、彼は金属製の椅子に座らされた。釈放前、警察は谷さんの身長を測り、正面と両側から写真を撮った。この辛い体験の後、彼は疲れ果てて、息子たちに支えられて警察署を出た<sup>80</sup>。

### 1. 迫害の事例

#### a. 李登臣さん（82）、懲役10年の判決<sup>81</sup>

河北省深州市在住で定年退職した教師の李登臣さんは、何度も逮捕・釈放を繰り返した後、法輪功を信仰していたとして、2021年1月に10年の刑を言い渡された。彼は2018年10月22日、自宅で初めて逮捕された。警察は彼の住居を荒らし、15万元相当の貴重品を没収した。しかし高血圧だったため、深州市拘置所は彼の入所を拒否し、釈放された。翌日、李さんは警察署に戻り、没収された財産の返還を要求したが、無駄だった。

数日後、李さんは外出中に何者かが自宅の塀を乗り越え家に入った痕跡に気づき、警察がさらに法輪功の物品を探しているのではないかと疑った。更なる迫害を避けるため、彼は家を離れて暮らすことにした。しかしわずか1カ月後の11月23日、彼は再び逮捕され、深州市拘置所に収容された。2度目の逮捕の際、警察は彼の家族から「身体検査

料」として1,700 元を巻き上げた。

李さんは肺を含む重度の病状を発症し、2019 年に集中治療室で治療を受けることになり、4月26日に保釈された。その頃の彼はやせ衰え、失禁し、自分の世話ができない状態になっており、脚も腫れ上がっていた。しかし自宅で法輪功の煉功を再び始めた後、彼は徐々に回復した。

一方、当局は李さんを標的にすることをやめなかった。2020年7月下旬、彼は裁判所への出廷通知を受け取った。警察から隠れるため、彼はまたも1カ月間家を出た。2021年1月に再逮捕された彼は、10年の刑を言い渡された。服役のため、彼は保定刑務所に連行された。

b. 担架で自宅に連れ戻された北京の女性、数日後に実刑判決<sup>82</sup>

王朝英さん(67)は逮捕され、半年間拘留された。2021年4月20日、彼女は救急車で自宅に連れ戻された。彼女はやせ衰え、座ることもできない状態だった。10日後、警察と裁判所の代表者3人が彼女の自宅に出向き、北京在住の彼女に2年半の懲役と罰金5,000 元の判決が下ったことを告げた。

彼女は拘束されていた6カ月間の拷問によって衰弱し、健康状態も悪化したのに、「なぜまだ判決を下すのか」と王さんの家族は裁判所の代表者に尋ねた。すると代表者は判決文を投げ捨て、パトカーに逃げ込んだ。さらに家族が警官に「彼女は拷問で既にこんな状態になっています。あなたたちは彼女を見もせずにもたまたま判決を下しました。彼女に死んで欲しいのですか?」と聞くと、警察は「上司の命令に従っただけだ」と言い、急いでパトカーに乗り込んだ。

c. 80歳代の朱玉貴さん、家から追い出された<sup>83</sup>

重慶市九龍坡区の当局は、2020年10月から12月にかけて、養子と嫁と暮らしていた80歳代の朱玉貴さんを訪問した。地元警察と居民委員会の職員は、法輪功をもう修煉しないと同意する書類に署名するよう彼女に要求した。しかし彼女は、断固として拒否した。

その後、警察が何度か彼女の家に行ったが、彼女はドアを開けなかった。数日後、居民委員会の職員は彼女の息子にドアを開けさせ、彼に母親が信仰を捨てるための保証書を書くよう説得することを命じ、母親が拒否すれば彼は仕事を失うと脅した。迫害されていた母親と仲が良かった彼は、母親に家を出るように言った。こうして、朱さんはホームレスになった。

d. 裁判官、判決文で84歳を75歳に変更<sup>84</sup>

四川省営山県出身の蔡澤芳さんは2021年1月29日、法輪功について人々に話したとして逮捕された。彼女を監視していた県警は彼女を自宅に連れ帰り、法輪功の本、法輪功の情報が印刷された現金2,000 元、その他の法輪功に関する資料を押収した(中国で

は厳しい検閲が行われているため、多くの学習者は紙幣に情報を記載するなど、人々に迫害を伝えるために工夫を凝らしている)。

警察は、蔡さんを警察署で数時間に亘って尋問した。彼らは彼女の案件を検察に提出し、嫌がらせを続けた。3月、彼女の甥が、彼女に代わって保釈書類にサインするよう、検察庁で命じられた。10月29日、4人の警官が蔡さんの自宅に押しかけ、書類に署名するよう命じたが、蔡さんは拒否した。彼らは1時間滞在した後、毎日来ると脅した。

蔡さんは2022年1月3日、裁判所に出廷した。裁判官は2月9日に彼女を召喚し、懲役1年半と罰金3千円の判決を言い渡した。蔡さんが裁判官に、判決文の年齢が84歳から75歳に変更された理由を尋ねると、裁判官は「75歳も80歳も同じだ」と答えた。

e. 73歳の老人、信仰を理由に4年半の服役<sup>85</sup>

黒竜江省タバコ研究所を退職した上級農学者である王新民さんは2021年6月10日、警察の一斉検挙で逮捕された。当局は、この目的は7月1日に予定されている中共100周年記念式典前の「治安維持」だと主張した。

王さんは牡丹江拘置所で極度の高血糖に苦しんでいたが、当局は保釈を拒否した。愛民地裁は2021年10月29日、王さんを裁判にかけた。彼は自己弁護を行った。裁判所が指名した弁護士は、彼のために有罪答弁をした。裁判官は2021年11月、懲役4年半と罰金5,000元を言い渡した。王さんは牡丹江市中級裁判所に控訴したが、裁判官は元の判決を支持する裁定を下した。

今回の判決に先立ち、王さんは法輪功を修煉したとして14年間服役していた。2003年10月22日、王さんは妻の汪桂珍さんと娘の王維麟さんと共に、愛民警察署の警官に逮捕された。妻と娘は後に釈放されたが、王さんは牡丹江刑務所での14年の刑を宣告された。

牡丹江刑務所の看守はしばしば学習者を殴り、電気警棒でショックを与えた。また、彼らは睡眠を奪い、服を脱がせ、気温が氷点下でも冷水を頭から浴びせた。2009年7月4日の拷問で、王さんは夜中まで手首から吊るされていた。この拷問により、王さんは2014年初めに重度の肺炎を発症し、同年6月に医療仮釈放で釈放された。しかし完全に回復していない2015年6月4日、彼は刑務所に連れ戻され、2016年6月23日の刑期満了日まで拘束され続けた。

f. 80歳の老人、逮捕されて自宅が荒らされた<sup>86</sup>

貴陽市白雲区の学習者の蔣朝林医師(80歳)は2022年5月12日、観山湖区国保大隊の警察と楓林路警察署の警官によって逮捕された。逮捕にあたっては10人以上の警官が道路を封鎖した。その後、彼らは蔣さんの自宅を捜索した。44時間の拘留中、蔣さんは尋問を受け、ビデオ撮影をされた。翌日、彼が市内の病院に連行されて検査を受けたところ、心臓病、糖尿病、高血圧、脳と肺に問題があると判明した。5月14日、警察



は彼を三江拘留所に連行したが、健康状態を理由に入所を拒否された。蒋さんは保釈された。

蒋医師は以前、法輪功を修煉したことで何度も迫害された。2001年、法輪功への迫害に関する資料を配布したとして逮捕され、強制労働収容所に2年間入れられた。2004年にも同じ理由で再逮捕され、中八強制労働収容所に3年間収容されたが、そこでは定期的に長時間立たされるなどの虐待を受けた。

近年、蒋医師は当局から度々嫌がらせを受けていた。2019年2月10日、雲南省の昭通に住む90歳の義兄を訪ねた後、列車で帰宅しようとした蒋さんは、昭通駅の警察に不法に拘束された。そして取り調べを受け、ビデオ撮影された。2020年3月13日、蒋さんは長寧コミュニティ居民委員会の事務所でバスのシニアパスを申請していたところ、党書記が巴巴坳警察署の警官を呼び、彼を撮影し尾行させた。

2021年11月23日、法輪功のパンフレットを受け取った大山洞コミュニティの住民が大山洞警察署に持参し、学習者を通報する報酬を受け取った。警察は、ぼやけた監視カメラの映像で、蒋さんがパンフレットを配ったと結論づけた。11月26日、白雲区公安局、国保大隊、大山洞警察署は蒋さんが住むコミュニティに機動隊を派遣し、4~9人体制で1日8時間張り付き、蒋さんを監視した。さらに、コミュニティの職員と100台以上の監視カメラも、24時間体制で蒋さんを監視していた。また、蒋さんがコミュニティを離れる度に、私服警官が派遣され、彼を追跡した。12月6日、大山洞警察は蒋さんを逮捕し、法輪功の情報を流したとして強硬に尋問し、当日の夜に蒋さんの自宅を捜索した。それ以来、地元警察とコミュニティ関係者は、しばしば蒋さんの自宅で嫌がらせを行った。

## 2. 経済面での迫害

急速に進む高齢化と汚職公務員による退職積立金の横領により、中国の社会保障局は年金支給義務の履行において大きな困難に直面している。中共がそのギャップを埋める方法の一つは、服役後又は服役中の退職者に年金を支給しないことである。法輪功への迫害が続く中、信仰を守ったために投獄された学習者はさらなる犠牲を強いられ、苦勞して得た年金を取り上げられている。

明慧ネットが収集した情報によると、遼寧省錦州市の学習者30人以上が、服役中または服役した刑期のため、2016年12月以降、年金給付が保留されることになった。服役中に定年を迎えていない学習者については、雇用主は勤続年数から刑期分をカットし、出所後の年金を再計算している。

また、警察が政府による身分証明書の発行を拒否したため、自分の年金を得られない学習者がいれば、何年も前に退職したのに、当局による年金申請の処理が進まない学習者もいる。さらに、迫害のために仕事を解雇され、年金を受け取る権利まで失った学習者もいる。

2020年、錦州社会保障局は、刑期中に年金を受け取ったかどうかにかかわらず、判決

を受けた学習者全員の年金を停止し始めた。一部の警官は、年金の停止を命じたのは警察と政法委員会であると明らかにした。ある警官は学習者に「判決を受けたなら、年金をもらうことを忘れた方がいい」と言った。また、収監中に受け取った年金の返済を命じられ、それを拒否すれば逮捕されると脅された学習者もいた<sup>87</sup>。

a. 退職した薬剤師、12年間服役した末、年金を失う<sup>88</sup>

江西省永修県に住む葛玲さん（71歳女性）は、退職した薬剤師である。法輪功への迫害によって12年間、刑務所や強制労働収容所で過ごしてきた。葛さんは、自分を治した精神修養法である法輪功を放棄することを拒否したため、執拗な拷問を受けた。葛さんは現在、監禁中に受けた虐待の結果、身体に障害を負っている。彼女の家族も多額の経済的損失と精神的トラウマを抱え、貧困の中で暮らしている。

葛さんが最後に逮捕されたのは2016年4月21日である。彼女は江西省女子刑務所で4年間の拷問に耐え、足を切断された。葛さんが出所した翌年の2021年4月20日、地元永修県社会保障局は葛さんの元雇用主である永修県漢方病院に対し、彼女の年金と医療保険を停止すると共に、彼女が服役中の2014年10月から2021年4月までに彼女に支給された年金27万741元の返還を求めると通知した。

b. 退職した大学教員、50万元近い年金の返還を強制<sup>89</sup>

淮陰工業大学を退職した王景玲さんは、法輪功に関する情報資料を配布したとして通報され、2012年5月27日に逮捕された。彼女は3年の刑を宣告され、2015年に釈放された。

2019年11月、王さんの家族は、大学の人事部副部長である管勇剛から電話を受けた。管副部長は、実刑判決により、2019年12月から王さんの年金が停止されるべきと主張し、さらに、逮捕翌月の2012年6月以降に学校から受け取った年金351,439.45元の返還を求めた。結局、王さんは計496,264.40元を支払うことを余儀なくされた。

c. 76歳の女性、過去の不当判決により年金停止<sup>90</sup>

上海市の尤秀英さん（76）は2020年11月下旬、社会保障局から、法輪功を修煉したために投獄されたことを証明する書類を添えて、5日以内に報告するよう通知を受けた。通知では、2016年の1年間の実刑判決を本人が期日以内に確認に行かなければ、年金が停止されると警告されていた。

5日間という期限は言い訳に過ぎず、行っても行かなくても年金が停止されることになる分かっているながら、尤さんは社会保障局に出向いた。彼女は彼らにこう言った。「私は一連の迫害に直面しています。あなたたちは私を不当に逮捕し、不当な判決を下し、そして今、私の年金までも不当に取り上げようとしています」。尤さんがいくら訴えても、社会保障局の職員は上司の命令に従わなければならないと主張し、彼女の年金を停止した。

## 第10章 中国国外の学習者の中国にいる家族を狙う

中国国外にいる学習者の多くは、24年前に迫害が始まって以来、中国にいる家族の元へ帰ることができない。この別離は、学習者の中国にいる家族が当局によって虐待されたり、投獄されたりすると、より辛いものになる。そのような事態が発生した場合、中国国外にいる学習者はしばしば公開イベントを開催し、親族の窮状への注意を喚起し、選挙で選ばれた議員に助けを求める。

### 1. イギリス在住の学習者の母親、継続的な嫌がらせと監視に直面<sup>91</sup>

法輪功を修煉していたとして逮捕された北京在住の韓非さんは、翌日に釈放されたものの、引き続き監視されていた。2022年4月22日に逮捕されるまでの3年間、信仰を堅持する彼女は繰り返し嫌がらせを受けた。韓さんの娘の李慧さん（イギリス在住の学習者）は中国当局に対し、母親への嫌がらせをやめるよう呼びかけた。

朝陽区国保大隊と平房郷警察署の警官は4月22日、韓さんの自宅に押し入り、法輪功の書籍や電子機器、携帯電話、iPad、コンピューター、および現金300元も押収した。数人の警官が韓さんに手錠をかけ、病院に連れて行き、身体検査とコロナの検査を受けさせた。彼女が協力を拒否すると、警察署長の張浩は医療従事者に力づくで検査するよう命じた。彼女の血液サンプルを採取するために、警察は、後ろ手に手錠をかけられている彼女の首を締めた。彼女は窒息しそうになった。韓さんの抵抗を無視し、警察は検査が確実に行われていることを確認し、その全過程をビデオに撮った。

警察はその後、韓さんの夫に電話をかけ、仕事が終わったら警察署に出頭するようと言った。彼が警察署に着くと、警察は彼に、韓さんといつ結婚したのか、韓さんは毎日何をしているのか、誰と連絡を取っているのか、同じく法輪功を修煉している娘の様子などについて質問した。その日の夜、娘の李さんは母親の携帯電話（韓さんの夫に返された）に電話すると、父親から母親が逮捕されたことを聞かされた。李さんは、父親が警察から脅迫され、大変なプレッシャーを受けていると感じた。

翌朝、警察は韓さんに保釈保証人となる親族を特定するよう要求した。彼女は、警察がずっと法に違反していたとして、保釈も逮捕も認めなかった。警察はその後、彼女が住むコミュニティの職員を見つけ、彼女の書類にサインしてもらい、午後4時頃に彼女を釈放した。警察は韓さんを釈放した後も、彼女の家の外に毎日来て監視していた。

警察が韓さんを逮捕したのは、韓さんが朝陽区警察署長に法輪功への迫害に参加しないように促す手紙を書いたためだと伝えられている。彼女が逮捕された時、ある警官は彼女に「あなた（学習者）が良い人であることは知っていますが、それでも私たちは（あなたを逮捕することを）しなければなりません。私がやらなくても、他の人がやります」と言った。

北京で冬季オリンピックが開催されていた2022年1月から2月にかけては、嫌がらせや監視がさらに激しくなった。韓さんは娘に「家の外で、誰かが24時間常駐してい

る」と話した。彼女が外出すると、私服警官は後をつけ、写真やビデオ撮影をした。冬季五輪前後の嫌がらせだけでなく、韓さんは2008年の北京五輪の際にも逮捕されており、2年間の強制労働を科された。

## 2. イギリス在住者の母親に実刑判決<sup>92</sup>

63歳の母親が法輪功を修煉した故に懲役4年の判決を受けたことで、両親に会いたいという于銘慧さんの願いは再び打ち砕かれた。1999年に迫害が始まって以来、于さんと黒竜江省牡丹江市に住む両親と一緒に過ごした期間は2年も満たない。彼女の父親は2001年に逮捕され、15年の刑に処された。そして母親は2003年に逮捕され、11年の刑を言い渡された。

10代の頃、于さんは一人で生きていくのに苦勞した。ファッションデザインを学ぶために、2010年にケンブリッジ・スクール・オブ・ビジュアル&パフォーマンス・アーツに入学した彼女はイギリスに渡り、中国に戻るができずにいた。母親が空っぽの家に戻った2年後の2016年に父親も釈放され、彼らは娘を訪ねようと、イギリスに旅行するパスポートを申請した。しかし、警察は申請を却下し、パスポートが承認されることは永遠にないと告げた。

2020年3月31日、于さんの母親で地質学エンジニアの王楣泓さんは、法輪功のことを人に話したとして再び逮捕された。1年間の拘留の後、彼女は2021年5月上旬に4年の刑を言い渡され、黒竜江省女子刑務所に収容された。

## 3. 米国居住者の夫、懲役10年の判決<sup>93</sup>

現在ニューヨーク在住の王晶さんは、2020年6月26日に夫の任海飛さん（未だ中国在住）が賃貸マンションで逮捕されたことを知り、打ちのめされた。警察は彼の55万円の現金のほか、20万元以上のデジタルカードや電子製品を押収した。

1年以上拘留された後、任さんは2021年9月8日と9月23日、甘井子地方裁判所に2度出廷し、10年の懲役と罰金10万円を言い渡された。拘留中、任さんは重度の心臓疾患と腎不全を発症した。妻は、彼のことをとても心配している。

任さんが迫害を受けたのは、今回が初めてではない。2001年、彼は法輪功について人に話したとして逮捕され、7年半の実刑判決を言い渡され、拷問も受けた。

## 4. カナダ居住者の母親、懲役3年半の実刑判決<sup>94</sup>

雲南省の元英語教授で、トロント在住者の母親でもある劉艶さんは2022年4月、法輪功を修煉したとして3年半の刑を言い渡された。劉さんは雲南文理大学外国語学部の主任兼副教授であった。2021年9月29日、彼女がタクシーに乗った際、羅という名の運転手は好ましくないやり方で彼女に言い寄った。劉さんは断固として拒否し、自分が法輪功を修めており、その原則である「真・善・忍」に沿って生きていると告げた。羅は、報復として劉さんを警察に通報した。

翌日、劉さんが夫と共営している環境保護美術館で働いていた際、五華区国保大隊の丁劍峰と郭宏偉を含む十数人の警官が彼女を逮捕した。劉さんは昆明市拘留所に収容され、弁護士も家族も面会を許されなかった。

五華地方裁判所は2月25日の審理を経て、2022年4月に劉さんに懲役3年半と罰金5,000元を言い渡した。彼女は、中共が学習者を犯罪者扱いするための標準的な口実である「カルト組織に加担し、法の執行を弱体化させた」罪で起訴された。彼女は現在、判決に不服として控訴している。

劉さんの娘で、トロントのシェリダンカレッジでコンピューターアニメーションを専攻している劉銘園さんは、昨年10月から記者会見を開き、政府関係者に手紙を書き、母親の即時釈放を求めている。

#### 5. 「私が死んだら、それは拷問の結果だ」<sup>95</sup>

季雲芝さんの死後まもなく、リック・スコット米上院議員は2022年3月29日のプレスリリースで、季さんの息子で米国在住のサイモン・チャンさんに哀悼の意を表明し、季さんのような学習者に対する中共の残酷な扱いを非難した。「この悲劇的で無意味な喪失に直面しているサイモンさんと彼の父親を思うと、心が痛みます。学習者に対する中共政府の大規模なキャンペーンはあまりにも長く続いており、その新たな犠牲者は、共産主義中国の抑圧的な権威主義体制に直面し、ただ自分の信念を貫いていた罪のない女性です。中共政権の悪党たちがサイモンさんのご家族に嘘をつき、彼の母親を拷問していないと主張したことは分かっています。そして、中共当局は、この無実の女性が夫と最期を共にするために家に帰ることを拒否したことも分かっています。最低で非人道的な行為です」

内モンゴル自治区赤峰市巴林左旗林東鎮の学習者である季さん(66)は、2022年旧正月の2月1日に逮捕され、7週間後の3月21日に巴林病院で死亡した。拘留中、彼女は看守や受刑者に死ぬ寸前まで殴られた。「私が死んだら、それは拷問の結果だ」と、季さんはかつて、同房者に語ったことがある。

2月1日、巴林国保大隊(警察署内の一部署)の警官9人が季さんの自宅に押し入った。徐劍峰隊長と韓東棟副隊長の指示により、警官らは彼女を逮捕し、身体検査のために巴林第二病院に連行した。その時、季さんはすでに痙攣を起こしていて、立つことも話すこともできず、絶えず嘔吐していた。にもかかわらず、警察は彼女を冷たいタイルの床に長時間座らせ、「症状を演技している。偽りだ」と嘲笑した。

季さんはその後、巴林左旗拘留所に連行され、虐待に抗議するためハンストを行った。拘留所所長の高永剛、医師の田志軍をはじめ、看守や受刑者たちは彼女を殴り、罵り、辱めた。高の指示を受けた田医師は、鼻腔チューブで季さんに対し強制灌食を行い、何度も顔を平手打ちした。

看守は囚人たちに季さんを拷問するよう命じた。彼らは何度も彼女を独房から引きずり出し、殴打した。虐待の結果、健康が著しく損なわれた彼女は別の監房に移されたが、

そこでも監房頭の宋長影が囚人たちに虐待を続けるよう命じた。そしてついに、看守は季さんが息もできず瀕死状態にいることに気づいた。彼らは彼女を巴林病院の救急室に運んだ。

3月20日の朝、警察は季さんの夫に電話をかけ、病院に行くように伝えた。そこで夫は、医師たちがすでに蘇生を始めているが、樂觀視できないと告げられた。巴林病院から赤峰市立病院に転院する計画も立てられたが、季さんを診察するために巴林病院に来ていた市立病院の専門家は、もう手遅れで移送の必要はないと告げた。彼女の夫は何度も釈放を求めたが、徐劍峰は上層部の承認が必要だとして拒否した。

翌日、家族は季さんの死を知らされ、病院での最後の面会を求めたが、警察に止められた。病室の窓から家族に見えたのは、食道が切り開かれ、顔と肩に血が滲んでいる様子だった。廊下には、たくさんの警官が立っていた。彼らは季さんの家族をビルのその階から追い払い、その階に止まるエレベーターを閉鎖し、誰もそのエリアに近づけないようにした。

家族が去った後、警察は巴林火葬場に電話し、季さんの遺体を引き取る車を手配した。家族が火葬場に到着しても、法医学調査員は彼らを入れなかったが、警察に懇願した末、やっと一人ずつ中に入り、遺体をざっと見ることを許された。40人以上の警察が遺体の警備に派遣されていた。

季さんの自宅は、SWATチーム、警察官、私服警官に囲まれていた。警察は季さんの夫に「交渉」を求め、事態の收拾を図ろうとしたようだが、その交渉が季さんの死に対する和解なのか、それとも黙秘を求める脅迫なのかは不明である。

今回の逮捕以前にも、季さんは信仰のために2度も強制労働所に収容されたことがある。その際、看守は彼女に高圧電気警棒で長い間ショックを与え、心臓病の症状を引き起こした。急ぐ度に動悸がしたという。また、拘留されていなかった2021年9月9日にも警察に自宅を荒らされるなど、彼女は当局から数え切れないほどの嫌がらせを受けた。

#### 6. 退役大佐が服役中に死亡、遺族は不当な暴行を疑う<sup>96</sup>

2017年10月26日、サンフランシスコで行われた公丕啓さんの釈放を求める集会で、公さんの娘の公暁燕さんは、法輪功への迫害は学習者だけでなく、その家族や友人、そして加害者にも害を及ぼすと述べた。

2021年4月12日の夜、刑務所の看守は公さんの家族に電話をかけ、山東省青島市の66歳の退役大佐が蘇生のため、只今病院に運ばれたと知らせ、しばらくしてから再び電話をかけ、公さんが脳卒中で死亡したと告げた。

翌朝、家族が病院に行くと、医師と刑務所当局は公さんの遺体を見せることを拒んだ。家族が抗議すると、ようやく公さんの兄と甥は面会を許されたが、写真やビデオ撮影は禁止された。兄は、公さんの頭が傷つき腫れていて、耳の中に血があるのを見た。

後に公さんの家族に提供された監視カメラの映像によると、彼は亡くなる前夜、ベッ

ドで寝ていた。刑務所の医師は血圧を測ったが、治療はしなかった。午後8時32分頃、公さんはベッドから床に落ち、動けなくなった。救急車が到着したのは、午後9時だった。家族は「なぜ救急車が来るのに30分もかかったのか」と尋ねた。

家族に電話した看守は、公さんが高血圧の治療に従わなかったために致命的な脳卒中を引き起こしたと主張したが、家族は「なぜ刑務所はもっと早く彼の病状を知らせず、あるいは医療仮釈放で釈放しなかったのか」と尋ねた。

公さんは2017年10月、警察の一斉検挙で逮捕され、2018年7月20日に7年半の懲役と罰金2万元を言い渡された。2020年以降、山東省刑務所当局は新型コロナウイルスのパンデミックを理由に、公さんの家族との接触を一切認めなかった。家族は、彼がどうなっているのか全く分からなかったという。2020年後半から、看守は受刑者らに、朝5時から夜7時か9時まで、ほとんど休憩なしで働かせるようになった。公さんと他の学習者が無給労働を拒否すると、部屋に監禁され、法輪功を中傷する映画を見させられた。

その頃、公さんはすでに高血圧になり、常にめまいを感じていた。壁にもたれかかる公さんを見て、受刑者の李峰はこう揶揄した。「どうしたの？ 気分が悪いのか？ ふりするな。お前は死なない」。李はしばしば受刑者たちに、「公丕啓は（死にそうな）ふりをしているだけだ。本当に死んだら、それはそれで素晴らしいことだ」と言った。

## 第11章 香港の学習者への絶え間ない攻撃

香港ユースケア協会（HKYCA）は、610 弁公室の香港支部であった。2012 年に梁振英元行政長官が任命される直前から、学習者をターゲットにした活動を始めた。その後、HKYCA は路上で学習者に嫌がらせをしたり、彼らの中傷する横断幕を掲げたり、学習者が中国での迫害を知らせるために設置した情報ブースを破壊したりした。2021 年の初日に HKYCA は活動を停止したが、中共の工作人員による香港の学習者への身体的な攻撃は 2021 年、2022 年にも続いている。

### 1. ユースケア協会は解散するも、止まない法輪功への攻撃<sup>97</sup>

2020 年末、HKYCA は突如解散した。この情報は、12 月 19 日にある親民主主義推進派から初めてもたらされた。彼は、HKYCA の最終日である 12 月 31 日の午後、銅鑼湾にある法輪功のブース付近に主要メディアを招いてこの解散を発表した。一方、新界地区の元住民もメディアに解散を認めた。

目撃者によると、HKYCA の指導者数人が法輪功のブースがある SOGO 付近に出向いたという。指導者には、洪偉成（HKYCA 会長）、肖曉容、陳進寶がいた。午後 3 時、これらの指導者と HKYCA メンバーは、長年掲げてきた法輪功の中傷する横断幕を撤去し、静かに去った。

ロイターが 2014 年 7 月に掲載した「特集：香港の魂を賭けた戦い」と題する記事によると、「警察や企業の提出書類によれば、洪は新界の大きな一族の理事である。研究者らは、この一族が中国国境に近い市の北辺における中国の統一戦線作戦の中核をなすと考えている」

HKYCA は、旺角やホンナム、尖沙咀、湾仔など、他の場所の展示物も解体した。メンバーたちはほぼ同時に、バナーやポスター、テーブルや金属ケースも撤去した。

しかし、HKYCA の解散は、香港の学習者への攻撃の終わりを告げるものではなかった。HKYCA が活動を停止する約 2 週間前の 12 月中旬、別の親中共グループが法輪功のブースを破損させた。2 週末連続で、計 6 つのブースがターゲットとなった。12 月 19 日、黄大仙にある法輪功のブースでは、男が横断幕やポスターを引き裂いた。彼は問いたが学習者にも答えず、無言で立ち去り、逃げようとして転びそうになった後、高速道路を横断した。一緒に来た少なくとも 6 人の女性が近くに立ち、携帯電話で現場の様子を写真やビデオに収めた。

動画はその後、「香港同心総会」という団体によってソーシャルメディアに投稿された。映像には、同じ男が旺角にあった法輪功のポスターにペンキを吹き付け、尖沙咀、銅鑼湾、黄大仙にあった学習者のポスターを引き裂く様子が映っていた。

調査の結果、この男は中国本土で軍事訓練を受けたことがあり、「符」を姓とする簡体字で登録されたフェイスブックのアカウントを持っていることが判明した。11 月 11 日、中国政府が香港の立法会から独立支持者を排除する新法を可決した後、4 人の民主



派議員は数分のうちに香港政府によって資格を剥奪された。中国政府のこの動きに賛同した親中議員の何君堯が主催したイベントでは、法輪功の横断幕を破った男も参加者として目撃された。

2020年1月に発足した香港同心総会は、警察の力を通じた中共による民主化運動団体へのより厳しい措置を支持してきた。その親中活動には、香港大学の民主化運動を支持するレノンの壁の取り壊し、香港の自由を支持する裁判官への攻撃、および中国本土からの団体への支援などがある。

## 2. 情報ブースを破壊した容疑者8人を逮捕<sup>98</sup>

2021年の4月2日から9日までの週に、少なくとも6つの法輪功の情報ブースが12回もの破壊行為を受けた。中共に雇われたと思われる破壊者による一連の攻撃を受け、香港警察は2021年4月22日、男性8人を逮捕したと発表した。また、破壊行為は最長懲役10年の重大犯罪であることを改めて喚起させた。

警察によると、4月2日と3日に数人から、旺角、黄大仙、ホンナム、湾仔地区の法輪功の情報ブースが被害を受けたとの情報を得たという。また、警察は、逮捕された容疑者のほとんどが組織犯罪と関係があるとしている。この襲撃事件で、約30,000香港ドルの費用がかかった90点以上の看板やパンフレットが被害を受けた。逮捕後、学習者は、より多くの私服警官が情報ブースの周辺をパトロールしていることに気づいた。

陳さん（仮名）は、旺角地区で法輪功の情報ブースが破壊されるのを目撃した。「香港はもう安全ではありません。この人たちが誰なのか分からないので、外に出るのが怖いのです。中共は香港をめちゃくちゃにしました」と語っている。

## 3. 流血事件の共犯者に判決<sup>99</sup>

香港の西九龍裁判所は2022年1月26日、2019年に複数の男が共同して学習者を襲撃し残忍な暴行を加えた犯罪行為について、見張り役を務めた柯衍湛に2年9カ月の刑を言い渡したと発表した。なお、襲撃犯2人は現在も逃走中である。

廖秋蘭さんと他の学習者2人は、2019年9月24日に長沙湾警察署を訪れ、来る10月1日のパレードについて相談した。3人が警察署を出て、廖さんが電話をかけていると、黒服を着た覆面の男2人が廖さんを襲った。1人は廖さんの頭を打ち、もう1人は体を殴った。廖さんはひどい打撲を負い、頭に大量の出血を伴う裂傷を負った。病院に運ばれた後、頭の4~5センチ（2インチ）の傷を閉じるために5針縫った。

柯衍湛の裁判は2021年10月4日に始まり、4カ月近くに及んだ。西九龍裁判所の許肇強副判事は、「故意による障害」として有罪判決を下した。そして2022年1月26日、2年9カ月の刑期が発表された。

22歳の柯は香港の三合会（組織犯罪）のメンバーであり、他の2人の被告、陳嘉明と王述傑と同じバーで働いていた。犯行直前、彼が長沙湾警察署付近をうろついているところを目撃されていた。当日、葵涌で警察官が襲われたため、同僚たちの身の安全を懸

念した警官が、不審な行動をとっていた柯を呼び止めた。

柯が警察署に連行されて1時間も経たないうちに、被害者の廖さんが襲われた。柯の携帯電話から、警官は2枚の被害者の写真を見つけた。WhatsAppにも、Walkie TalkieアプリのZelloにも、「長順街地下鉄駅」や「ターゲットが出てきた」といった不審なグループメッセージがあった。裁判官は、情報が襲撃の時間と場所と一致していると述べた。

また、容疑者の陳と王も当時、警察署の外を徘徊しており、襲撃前に他の警察官からチェックされていた。そして彼らの電話番号も、柯と同じWhatsAppグループに入っていた。しかし、検察は彼らの携帯電話の情報を証拠として提出しなかった。裁判官は判例を引用し、陳と王は柯の携帯電話の証拠だけでは有罪にできないとした上で、一方で陳の行動も怪しく、廖さんの監視に関与している可能性を排除できないと述べた。なお、王は事件の翌日に香港を離れて中国本土に向かった。

廖さんが中共の工作員に狙われたのは、この殴打事件が初めてではない。1999年7月に中共による法輪功への迫害が始まった後、廖さんは香港の学習者を代表して、幾度となく警察署にパレードと集会の許可を申請した。廖さんによると、中共のスパイが何年にもわたって彼女を尾行し、脅迫してきたという。彼女が活動や旅行に出かける度に、誰かに尾行されていることに気づいた。嫌がらせが絶えず、脅迫電話もひっきりなしにかかってきて、家族も嫌がらせを受けた。家族を守るため、廖さんは何年も中国本土に帰国していない。

2016年7月に行われた迫害に対抗するための継続的な取り組みを記念するイベントで、中共の工作員は彼女の頭に赤いペンキをかけた。その後、嫌がらせの電話がかかってきて、「こうした（法輪功の）活動をやめた方がいい。次はそんなに幸運にはならないだろう」、「このままだと、後悔するぞ。もっと強く殴りつける」と言った。

2019年の襲撃後も、廖さんは尾行されていた。脅迫電話も止むことはなかった。中国国家安全局の職員は、中国本土にいる彼女の家族に対して、「香港にいる彼女（廖さん）を逮捕しにいく」と繰り返し脅した。身の安全のため、彼女は香港を離れなければならなかった。

嫌がらせや脅迫にもかかわらず、廖さんは、迫害を知らしめる集会やパレードの許可を申請してきたのは正しいことだと述べた。「法輪功は修煉者に大きな恩恵をもたらしています。どうして声を上げて人々に事実を伝えずにいられるのでしょうか」

香港の他の学習者も襲われていた。2021年5月の「世界法輪大法デー」の記念式典の直前、香港法輪大法学会会長の梁珍さんは覆面の暴徒に殴打された。梁さんは容疑者の車両ナンバーを警察に提供し、監視カメラの映像もあった。しかし警察は容疑者2人を逮捕したものの、関係者によると、起訴するには十分な証拠がなかったという。

他の暴行事件では、法輪功について通行人に話した高齢の学習者が、中共の工作員によって地面に押し倒された。また、多くの学習者が、中共の工作員と疑われる人物に尾行されたり、監視されたりしていた。

# 第三部

## 迫害に 立ち向かうべく結集



## 第12章 中国の強制臓器摘出を終わらせる取り組み

2006年3月、ある女性が、自分が勤務していた病院で4,000人もの学習者が臓器のために殺害されたと訴えた。これによって、この信じがたいほど恐ろしい話が初めて明るみに出た。彼女はまた、東北部の瀋陽市郊外にある同じ病院で外科医として勤める夫から、学習者2,000人の生体から角膜を摘出したことを知らされたと述べた。

その1週間後、ある中国軍医が女性の証言を裏付け、さらにこのような残虐行為が全国36箇所の強制収容所で行われていると主張した。最大で12万人が収容されていたという。また、学習者が夜間、厳重な警備の下、牛を運ぶ列車で全国に移送されるのを目撃したという。

海外の研究者や人権活動家は、直ちにこの疑惑の調査を始めた。彼らは腎臓や肝臓の買い手を装って中国の病院に電話をかけた。恐ろしいことに、医師は次々と、学習者から臓器を摘出し、患者は最短1週間で移植を受けられることを公然と認めた。

臓器提供システムが確立されている国でも、患者は通常、新しい臓器を手に入れるまで何年も待たなければならない。そして中国では、自発的な臓器提供がほとんどなく、公的な臓器提供者（以前は死刑囚、現在は自発的な臓器提供者）の数は、移植件数のごく一部に過ぎない。複数の研究者は、移植に使われる臓器の大部分は良心の囚人から採取され、その過程で殺害されたと独自に結論付けている。

自国民がこうした臓器狩りの犯罪に加担することを防ぐため、多くの国では、不正なルートによる臓器移植を受ける目的での海外渡航を禁止する法律が制定されている。少なくとも2つの医学雑誌が、研究に使用された臓器が倫理的に調達されたものであることを証明できなかった中国人医師の論文を撤回した。しかし、こうした国家公認の臓器犯罪を終わらせるためには、国際社会がより広範に、より強く、より統一的に対応することが必要である。以下では、この分野で過去2年間に起こった幾つかの新しい動きを要約する。

### 1. 中国・民衆法廷、判決の全文を公開

2018年12月から2019年4月にかけて、「中国・民衆法廷」としても知られる「中国における良心の囚人からの強制臓器狩りに関する独立法廷」は、ロンドンでの一連の公聴会で数十人の証人、専門家、捜査官から証言を聴取した。同法廷の議長は、国連旧ユーゴスラビア国際刑事裁判所の元主任検察官であるサー・ジェフリー・ナイス QC が務めた。

2019年6月、同法廷は「強制的な臓器狩りは中国全土で何年にも亘ってかなりの規模で行われており、学習者が臓器供給源の一つであり、おそらく主要な供給源であった」と結論付けた。その後、同法廷は2020年3月1日に判決の全文を公表し、その中で根拠の完全な分析を提供した。

特に同法廷では、中国政権が法輪功とウイグル族に対する迫害において、「殺人、絶

滅、国際法の基本的な規則に違反する監禁またはその他の重度の身体的自由の剥奪、拷問、強姦その他同等の重大性を有する性的暴力、国際法上許されないと普遍的に認識されている人種、国家、民族、文化、宗教上の理由による迫害、および強制失踪」を含む拷問と人道に対する罪を犯したと合理的な疑いの余地なく認定した<sup>100</sup>。

## 2. ハドソン研究所フォーラム、「中国の宗教戦争」を取り上げる

ワシントン D.C. のシンクタンクであるハドソン研究所は 2021 年 10 月 18 日、「宗教における中国の戦争」と題するオンラインフォーラムを開催した。中共によるウイグル人、イスラム教徒、キリスト教徒、学習者、チベット仏教徒への厳しい迫害を踏まえ、フォーラムでは、米国や他の民主主義諸国が中国における宗教の自由と人権の拡大をどのように支援できるかを議論することになった。

ハドソン研究所宗教自由センターのニーナ・シェイ上級研究員兼所長が司会を務め、パネルにはワシントン D.C. の法輪大法学会のスポークスマンである林曉旭氏、米国カトリック大学法学部教授で元国務省民主・人権・労働担当補佐官のロバート・A・デストロ氏、ハドソン研究所の上級研究員であるヌリー・ターケル氏が参加した。シェイ氏は、中共が中国で行っている生きた学習者からの強制的な臓器摘出について話すよう、林氏を特別に招待した。

林氏は、学習者やウイグル人を含む中国の多くの良心の囚人が、あたかも臓器農場のようなものを構成していると説明した。中共は、被収容者の血液型や臓器・組織の情報を収集することで、臓器移植センター用の大規模なデータベースを構築した。特定の臓器が必要な場合、当局はデータベースを検索して特定の被拘禁者を探し出し、その人を殺害して臓器を提供することができる。

このようなサプライチェーンは、医療ネットワークだけでなく、中国の警察、検察、裁判所、司法制度を含む高度に連携したネットワークによって実現可能になったと林氏は説明した。中共幹部は学習者の自宅に行き、どんな口実でも、あるいは何ら言い訳をしなくても、その人物を逮捕し、拘束後に臓器を摘出することができたという証拠もある。

この残虐行為を阻止するために、デストロ氏は、強制臓器摘出に関与した中国人医師の欧米への入国禁止、医学雑誌への論文掲載禁止などの制裁を提案した<sup>101</sup>。

## 3. 中国の外科医が「デッド・ドナー・ルール」に違反

米国移植外科学会 (ASTS) と米国移植学会 (AST) の機関誌「アメリカ移植ジャーナル」は 2022 年 4 月 2 日、「臓器調達による処刑：中国におけるデッド・ドナー・ルール違反」と題する論文を掲載した。著者であるオーストラリア国立大学のマシュー・P・ロバートソン氏と、テルアビブ大学シェバ医療センターのジェイコブ・ラヴィー氏の両氏は、「中華人民共和国の医師が臓器摘出による処刑に加わった」ことを示唆する証拠を発見した。

デッド・ドナー・ルール (DDR) は、移植倫理の基本である。「このルールは、臓器調達はドナーが死亡し、正式にそう宣告されるまで開始してはならず、同様に、臓器調達はドナーの死亡を引き起こしてはならない」と著者は記している。「医療行為の別の領域では、[死刑囚]の処刑に医師が加わることをめぐって激しい論争があった」

著者は、法医学的検討のために、124,770 件の中国移植出版物のデータベースから 2,838 件の論文を対象にコンピューターによるテキスト分析を行った。「我々のアルゴリズムは、臓器調達時の脳死宣言に問題がある証拠を検索した」と著者は書いている。「これらの論文のうち、脳死が適切に宣言されなかった可能性がある証拠を 71 件発見した。これらは、中国で全国的に広がっていた」

「これらの報告から、臓器調達前にドナーが脳死状態にあったはずがないことを考えると、脳死宣言は医学的に妥当なものではなかった可能性がある。よって、DDR 違反が起こったと推論する。これらのケースでは、外科医が臓器を調達することによって死亡が引き起こされたに違いない」と著者は結論付けた。

1980 年から 2015 年までの医学文献によると、中国はその圧倒的な移植量に基づき、世界で 2 番目に多い数の移植を実施している。しかし人権研究者は、中国における実際の臓器移植件数はもっと多いことを発見した。「中国の病院は、移植の待ち時間を数週間と宣伝し続けているが、米国では待ち時間は数カ月から数年単位で計測されている」と、著者は書いている。これらの臓器ツアーの広告は英語、ロシア語、アラビア語および他の言語でウェブサイトに掲載されていた。

この不可解な状況に拍車をかけたのは、中国には自発的な臓器提供制度がなく、つまり自発的なドナーが非常に少ないことであった。論文によると、現在の移植部門のリーダーを含む 3 つの公式ソースによると、2009 年時点での中国の自発的な（すなわち、囚人ではない）臓器提供者の累積数は、同時期の公式に報告された 12 万個の臓器の約 0.3% 程度にすぎない。また、中国の移植部門のリーダーは 2007 年に、全臓器移植の 95% が囚人からのものであると書いている。これらを総合すると、「論理的には、我々が検討した論文にある臓器移植のほとんどは、囚人からのものであったに違いない。恐らく、死刑囚と良心の囚人の両方が含まれている」と著者は書いている<sup>102</sup>。

#### 4. 米国議会公聴会、強制臓器狩りに焦点

ロバートソン氏とラヴィー氏による論文が発表された後、米国下院の超党派議員連盟であるトム・ラントス人権委員会 (TLHRC) は 2022 年 5 月 12 日、中国における強制臓器狩りに焦点を当てた公聴会を催した。共同議長のカリスタ・スミス下院議員とジェームズ・マクガバン下院議員が主催したこの公聴会では、中国・民衆法廷のサー・ジェフリー・ナイス QC、オーストラリア国立大学のマシュー・ロバートソン氏、作家のイーサン・ガットマン氏、アニ瓦尔・トフティ・バグダ医師、および元国務長官補佐官のロバート A. デストロ教授も登壇した。

スミス議員は開会の辞で、「良心へのショックをさらに増幅させているのは、（共産

主義中国によって) 国家の敵であると宣告された人々が、移植の必要性に応え特定の臓器を提供するために処刑されていることだけではない。これは明らかな刑罰であり、国家が『望ましくない』と判断した少数集団を淘汰するための大量虐殺の手段でもあるということだ。宗教的反体制者、とりわけ法輪功のような平和的な瞑想と煉功をする人々が、不幸にも臓器の収奪対象とされたのだ」と述べた。

公聴会では、腫瘍外科医のアニワル・トフティ・バグダ氏が、1995年に中国政府から生体臓器摘出を命じられた際のエピソードを披露した。「メスで彼の皮膚を切ると、血が見えた。それは心臓がまだ血液を送り出していて、彼がまだ生きているということの意味するのだ！ 主任は私に『早くしろ！』と囁いた。彼の言葉は命令であり、また、私は彼の命令でやったという一種の保証のようなものを感じた」。手術は30~40分ほどで終了し、主任たちは喜んで臓器を受取り、そのうちの1人がバグダ氏にこう言った。「今からチームを連れて病院に帰っていいよ。覚えておいてくれ、今日は何も起こらなかったのだ」

ロバート・デストロ教授は公聴会で、「パネリストの皆さんは、提出された証拠と、その証拠を収集するために使用される方法の両方について認められた専門家であるため、私は証言を非常に単純な質問に絞る。政府公認の臓器狩りという信頼できる証拠を提示された場合、米国政府関係者は何をすべきだろうか？」と述べ、「まずは、外交テーブルの向こうに誰が座っているのかを知り、理解しなければならない。ソーラーパネルや電気自動車の取引であれ、他の商取引であれ、取引の相手が自国民を『商品』に変え、人間を自動車の『チョップ・ショップ(盗難車を解体して部品を売る店)』にあるものと同等に扱っているならば、信頼してはならない」と続けた<sup>103</sup>。

##### 5. 台湾の病院、中国での強制臓器摘出に関与した2人の外科医との契約更新を拒否

台湾中部最大の医療システムを構成する彰化基督教病院は2022年6月10日、中国で強制臓器摘出に関与したとされる2人の外科医との契約を更新しないと発表した。同病院の肝臓移植チームのメンバーである陳堯俐と柯志燃の2人は、同病院に通知することなく、何度も中国本土を訪れて臓器移植手術を行ったとされている。中国の臓器供給源が問題視されていることから、この医師たちの活動は、臓器調達の透明性とトレーサビリティ(追跡可能)に関する台湾の規則に違反している。

こうした医療倫理違反の懸念から、同病院は6月30日の契約満了に伴い、彼らとの契約を更新しないことを決定した。同病院は、中国における強制的な臓器狩りの犠牲者には、チベット人、ウイグル人、キリスト教徒、学習者が含まれていると指摘した<sup>104</sup>。

##### 6. 日本の評論家、学習者が臓器狩りのために殺害されたと公表

2022年6月20日、菅原潮氏はエポックタイムズとのインタビューで、2007年に友人の兄が中国で臓器移植を受けるのを手伝う際、生きている学習者からの強制的な臓器摘出について知ったことを明らかにした。菅原氏はかつて、日本最大の暴力団である六代

目山口組に所属していたが、2015年に脱退し、現在は日本で著名な経済評論家として活躍している。

菅原氏はこう語った。「2007年、友人の兄は肝臓が悪化の一途を辿っていた。医師からは残された時間があまりなく、彼を救う唯一の方法は臓器移植しかないと言われた。当時、肝臓移植はアメリカかフランス、または中国でしか受けられなかった。しかし、アメリカやフランスでは待ち時間が非常に長く、値段も高かった。また、非常に厳しい法的制限もあった。その結果、彼は移植のために中国に行くことを選んだ。北京武装警察総合病院は、サウジアラビアやドイツのほか、日本人患者も受け入れていた。同病院の中国人医師は、ドナーはすぐに見つかり、費用は3000万円（約255,000米ドル）になるだろうと言った」

そのわずか1カ月後、「2007年8月、医師から適合するものが見つかったので、いつでも手術ができると言われた」と菅原氏。手術に必要な病院支給のアルブミン蛋白が基準に達していなかったため、日本でアルブミン溶液を購入して中国に持ってくるように言われた。北京に降り立った彼を迎えに来たのは、軍の高級将校であった。彼は手術の前日に友人の兄を訪ねることができた。

「日本に留学していて日本語が堪能な医師が、ドナーが隣の部屋にいるから見てみないかと言ってきた」と菅原氏は記者に語った。「彼がカーテンを上げると、若い男性がベッドに横たわっているのが見えた。21歳だそうだ。麻酔薬を注射したため、反応がなかった。（医師は）ドナーはとても悪い人で、死刑を宣告された犯罪者で、遅かれ早かれ死ぬのだから、死ぬ前に臓器を提供すればいくらか貢献できると言った。医師は私に『彼はとても若く、とても健康な肝臓を持っている』と言った。私は医師に、この青年は何をして死刑判決を受けることになったのかと尋ねた。彼は、テロ組織のメンバーだと答えた。具体的に何をしたのかと何度も尋ねたところ、医師は『法輪功』だと言った」。結局、菅原氏の友人の兄は手術中に亡くなった。

記者が青年の様子を尋ねると、菅原氏は「前日に手足の腱が切られたため、手足は包帯で巻かれていた。医者が言うには、逃げないようにするためだそうだ。また、人は恐怖を感じると体を丸めてしまい、摘出時の臓器の質に影響を与える。だから、彼にそんなことをしたのだ」と答えた。

その後、菅原氏はこう明言した。「彼を見た時、まだ生きていた。でも、臓器を取り出されたら死ぬだろう。臓器の摘出と同時に移植するのが一番成功率が高いと言われている。臓器が摘出された後に彼がどうなったかに関しては、私は分からない」<sup>105</sup>

## 7. ワシントン D.C. で開催された国際宗教自由サミットで臓器犯罪がクローズアップ

2022年6月28日から30日にかけてワシントン D.C. で開催された国際宗教自由サミット（IRF）の複数のセッションで、中共による強制的な臓器摘出が取り上げられた。サミットでは、このテーマに関するドキュメンタリーが上映され、多くの観客がソーシ



ヤルメディアでこの映画をシェアした。

ハドソン研究所上級研究員で宗教自由センター所長のニーナ・シェイ氏は、強制的な臓器狩りに関する2つのセッションを主催した。一つは6月28日の「中国の強制臓器狩りに関する恐ろしい科学」で、もう一つは6月30日の「中国の強制臓器狩りは続いている」であった。彼女は、2006年に初めてこの犯罪が明らかにされて以来、この犯罪に対して行われてきた独立した調査の経緯を紹介した。

現在米国に住む韓雨さんはサミットで講演し、自分の父親が強制臓器狩りの被害者であった可能性が高いと述べた。彼女の父親である韓俊清さんは北京市房山区に住む学習者で、2004年3月に逮捕され、房山拘置所に収容されていた際、10人以上の警官に殴打された。彼は3カ月も経たないうちに亡くなり、遺体はすぐに火葬された。

「火葬される前の彼の遺体を見た」と、彼女は言った。「彼はひどく痩せていて、全身に打撲を負っていたが、喉から腹部にかけて切開の跡があった。黒くて太い糸で縫い合わされた腹部辺りを触ってみると、皮膚の下に硬い氷の塊があるのを感じた」

韓さんの話は、多くの人々の注目を集めた。彼女はクリスチャン・ブロードキャスティング・ネットワークのインタビューも受けた。ハドソン研究所が主催した分科会セッションでは、ニーナ・シェイ氏は彼女の話を取り上げながらセッションを始めた<sup>106</sup>。

## 第13章 決議と立法

2020年から2022年にかけて、世界のあらゆるレベルの政府機関が、中共による法輪功への迫害に対して声を上げ、臓器ツーリズムを通じて中国政権の犯罪に加担する危険性を自国民に認識させる活動を続けている。

1. 米国バージニア州の地方自治体、中国での強制臓器狩りを非難する決議案を可決  
2021年に入ると、バージニア州の23の地方自治体が、中国による良心の囚人からの強制的な臓器摘出を非難する決議を可決した。最近ではエセックス郡、ストーントン市、フルバナ郡がこのような決議を可決している。

2021年11月3日にフルバナ郡監督委員会が全会一致で可決した決議は、臓器移植のために中国に行けば、罪のない命を殺す共犯者になりかねないと市民に注意を促すものであった。決議文には「広範かつ信頼できる報告によると、中華人民共和国では良心の囚人、主に法輪功の精神修養法を実践している学習者、および他の宗教的・民族的少数派グループが、移植用の臓器を得るために大量に殺害されていることが明らかになっている」と書かれている。

決議文はさらに、「委員会は、中共政権が現在行っている法輪功への迫害とすべての良心の囚人に対する国家主導の臓器狩りを最も強い言葉で非難する」と述べている。また、米国政府に対し、中国における臓器移植の実態を徹底的に調査し、強制的な臓器狩りを終わらせるためにあらゆる合理的な手段を講じるよう求めている<sup>107</sup>。

2. オーストラリア、人権擁護法案を可決

オーストラリアの上下両院は2021年12月初め、オーストラリア版のマグニツキー法を可決した。この法案は、「自律的制裁改正（マグニツキー式およびその他のテーマ別制裁）法案2021」として知られている。

明慧の特派員は、オーストラリアとニュージーランドの複数の人権擁護者、専門家、コミュニティリーダーにインタビューを行った。ニュージーランドの著名な人権弁護士であるケリー・ゴア氏は、オーストラリア版「マグニツキー法」の成立に勇気づけられたという。彼は、「ニュージーランド議会も、同様の法律を制定するよう促されているはずだ」と述べた。

「この種の法律は、外国政府機関とそのメンバー、または海外の他の個人や団体に自律的な制裁を適用することを可能にする。例えば、中国における学習者や他の良心の囚人に対する迫害に加担した個人など、重大な人権侵害または人権濫用に関与した者は、この自律的制裁の対象となりうる」

「これは最も歓迎すべき法整備であり、ニュージーランドも同様に立法するのが良いだろう。これは、迫害を終わらせるための戦いにおいて、法的武器の重要な追加となるだろう」とゴア氏は述べた<sup>108</sup>。

### 3. 欧州議会、強制的な臓器狩りを非難する新決議案を可決

欧州議会は2022年5月5日、「中華人民共和国の囚人、より具体的には学習者やウイグル人、チベット人、キリスト教徒などの少数派から、継続的で組織的、非人道的な国家公認の臓器狩りが行われているという報告に対し、深刻な懸念」を表明する決議を採択した。

中国政権は、学習者が臓器提供のために殺害されたという疑惑を繰り返し否定しているが、この決議文は、「囚人または被拘禁者が臓器提供について有効な同意をしているかどうかについて、独立した監視がない」、「死亡した被拘禁者および囚人の家族が遺体を引き取ることを妨げられているという報告について、中国当局から情報が無い」と指摘している。

また、決議は「EUとその加盟国に対し、あらゆる人権対話の場で中国における臓器狩りの問題を提起し、中国における臓器移植の暴行を公に非難することを求め、また加盟国に対し、自国民による中国への移植ツーリズムを防ぐために必要な行動を取り、中国に渡航する自国民にこの問題に対する認識を高めてもらうよう呼びかけた」

109

### 4. イギリス、中国の国家公認の臓器狩り犯罪に対し立法措置

2021年医薬品・医療機器法は、中共による学習者や他の良心の囚人からの臓器摘出に対応した、イギリス政府による最初の立法措置である。従来の「医薬品・医療機器法」を改正したもので、イギリスの医療機関や医療従事者が中共の国家主導の臓器犯罪に加担することを防ぐ規制を制定する権限を大臣に付与している。

改正案はマリー・リマー議員によって最初に提出されたが、下院で否決された。しかし2020年6月、キングス・ヒースのハント卿が貴族院で改正案を再提出したところ、ランダフのフィンレイ男爵夫人、ノースオーバー男爵夫人、リベイロ卿、ベテル保健大臣から圧倒的な支持を得た。2021年1月12日の貴族院における討論では、複数の貴族がこの法案を支持すると発言した。その多くは、改正案が、イギリスはこうした残虐行為をこれ以上見て見ぬふりをせず、それを阻止するため具体的に行動すると決めたというシグナルを、世界に発信することになるだろうと述べた。

イギリスの元保健大臣で、国民保健サービス（NHS）の元管理者であるハント卿は、中国・民衆法廷の最終判決を引用し、今回の改正は、現行のイギリス医療法の部分的かつ慎重な修正に過ぎないと述べ、「大臣に規制を制定する権限を与えることで、私が以前話した中国での忌まわしい行為に対し、イギリスが特別な行動を取ったことになる。しかし国際的には、イギリスの行動は他の国々への目印となり、真のシグナルとみなされるだろう」と語った。彼はまたイギリス政府に対し、世界保健機関（WHO）に中共の強制臓器摘出を真剣に受け止めるよう圧力をかけることを促した。

政府の鞭も務めるペン男爵夫人は、「人権侵害によって調達されたヒトの組織や細胞の使用によって、イギリスの医薬品産業が侵害されることを望まない。この点は、全員が一致している。この改正により、イギリスの医薬品に使用される組織や細胞の完全性を保証するために、必要に応じて、2012年のヒト医薬品規則または2004年のヒト用医薬品（臨床試験）規則の医薬品におけるヒト組織の使用を規定する条項を修正または補足する措置を講じる権限を確保できる」と述べた。

ハイベリーのコリンズ男爵は、中共の臓器狩りの残虐行為に関する証拠が積み重なってきているにもかかわらず、中共はすべての疑惑を否定し、WHOがその不正行為の疑いを晴らしてくれることに依存してきたと指摘し、「WHOには独立した専門家によるコンプライアンス評価メカニズムがなく、『そんなことは起こってない』とばかり言う中国政府と中共に頼っている」と述べた。

コリンズ男爵はさらに、「この改正案の重要性は、単にそこに並べられている具体的な法律事項ではない。この改正案と今夜の討論で最も重要なことは、我々はこのような人道に対するおぞましい行為を容認しないという非常に明確なメッセージを、中共のためではなく、中国の人々のために送ることである」と説明した<sup>110</sup>。

#### 5. カナダ議会、臓器売買撲滅法案を可決

カナダ下院は2022年12月14日、違法な人間の臓器狩りと不正取引に対抗するための法案S-223を324票賛成という全会一致で可決した。この法案は、カナダが強制的な生体臓器狩りを取り締まるための重要な法的根拠となると考えられている。

法案S-223は当初、サルマ・アタウラジャン上院議員が提出したものである。同議員は過去5年間、4回も同様の法案の成立を試みていた。この法案は、刑法を改正して人体臓器売買に対する新たな犯罪を設け、その域外管轄権を拡大することにより、カナダの人体臓器売買の規制を強化することを提案している。また、法案は移民・難民保護法を改正し、永住者や外国人がインフォームド・コンセントがないまま臓器摘出や売買を行う目的でカナダに入国することを禁止することも求めている。

「臓器摘出は減るどころか増えており、カナダは同盟国と足並みが揃わない数少ない国の一つだと思う」と、同議員は述べた。「同盟国のほとんどには法律があるが、私たちにはない。この法案は大分遅れているが、ようやくできて嬉しく思う」

法案の第3読会での討論では、国防常任委員会副委員長のジェームズ・ベザン議員が、「我々はこの市場の存在を知っている。違法な臓器売買は、年間10億から20億カナダドルの収入をもたらすと推定されている。12,000件の違法移植は、主に中国からのもので、つまり年間12,000の移植が行われているのだ。これを終わらせなければならない」と述べた。

ガーネット・ジェニユイス議員は法案について、「（すべての人には）神から与えられた人間としての尊厳がある。我々が人権に言及する際にしようとしているのは、すべての人間に生得の価値と尊厳があるという考えを擁護することである。その人間がどこ

に住んでいようと、どんな信仰を持っていようと、大柄な人であろうと小柄な人であろうと、年寄であろうと若者であろうと、独立していようとまいと、その尊厳はすべての人間に固有のものである」と述べた。

ジェニューイス議員は、法案 S-223 は刑法の域外適用であるために特別であると強調し、「我々はこの刑法を通じて、カナダ人が国境を越えて犯した犯罪を起訴する用意ができていと表明しているのだ」と述べた。

アーノルド・ヴィアセン議員は、中国での臓器強制摘出を終わらせること、および連邦政府による対処を求める数百通の請願書を下院に提出したと述べ、強制臓器狩りへの対抗に貢献した元カナダ国務長官（アジア太平洋担当）の故デビッド・キルグアー氏への敬意も表した。「彼は、私がこの問題に取り組むきっかけとなった存在であり、多くの難題をこなされていた。これは、15年以上の歳月をかけて実現したもので、記念すべき日である」とヴィアセン議員は述べた。

法案を支持したマイケル・チョン議員は、「我々は、我々の価値観、民主主義への信念、自由への信念、人権と法の支配への信念を守るために、より強い姿勢を取る必要がある。それを今日、この下院でこの法案のような措置を通過させることによって、国内で始めることができた。同法案は、この国の人々が、（特に政治犯の）臓器摘出という恐ろしい行為に参加することを禁止することになる」と述べた。そして影の外務大臣でもあるチョン議員は、ベルリンの壁崩壊後、西側民主主義諸国が貿易や投資を通じて権威主義体制との関係を深め、拡大したことは間違っていたと述べた<sup>111</sup>。

## 第14章 人権侵害者への制裁

米国では 2016 年に「グローバル・マグニツキー人権説明責任法」が成立し、人権侵害者に対して米国への入国禁止や海外資産の凍結などの制裁ができるようになった。カナダ、イギリス、EU27 カ国もこれに続き、同様の法律を可決した。オーストラリア議会も 2021 年 12 月に同様の措置を取った。

米国はここ数年、法輪功への迫害に加担した者を含めて、より多くの中国の人権侵害者に制裁を加えた。一方、学習者は、中国国内における加害者のリストを世界各国の政府に提出し、「マグニツキー法」に基づき加害者を制裁するよう求めている。

### 1. 米国、法輪功を迫害した中共幹部を制裁<sup>112</sup>

世界人権デーの 2020 年 12 月 10 日、米 국무省は人権侵害を理由に、中国政府高官を含む 17 人の外国人官僚に対する制裁措置を発表した。この動きは、同年夏に香港に課された強権的な国家安全維持法の「策定、採択、実施」に関与したとして、米 국무省が 14 人の中国高官を制裁したわずか 3 日後のことだった。

中国福建省廈門市公安局梧村派出所主管の黄元雄も、その制裁対象者 17 人の中に含まれている。マイク・ポンペオ米 국무長官は声明で、学習者への「重大な人権侵害」に黄元雄主管が関与したため制裁を受けたと述べた。黄とその配偶者は現在、米国へのビザの発給を拒否されている。

制裁対象となった中国高官 14 人は、全国人民代表大会常務委員会 (NPCSC) の副委員長である。彼らは、中華人民共和国香港特別行政区における国家安全保障の保護に関する法律の策定、採択、または実施に関係している。NPCSC は、中共が反体制派を抑圧し、中共の圧政に抗議する者を逮捕するために中国で繰り返し使用してきた国家安全維持法を全会一致で採択した。

制裁を受けた 14 人の NPCSC 副委員長のうち、5 人は香港安全維持法の成立に加え、法輪功への迫害にも参与した。以下は、制裁を受けた数人の高官についての詳細な情報である。このわずかな加害者の事例からも、中共による法輪功への迫害の包括的な性質が伺える。政権は、宣伝部から保健省、政府指導者、そして村レベルに至るまで、国家機構を総動員してきた。

そして米 국무省は 2022 年 12 月、法輪功を迫害したとして、中共幹部 3 人を追加制裁した。

#### a. 王晨、元宣伝部長

王晨 (70) は 2017 年に中共の中央政治局委員を務め、2018 年には中国人民代表大会の副主席を兼任していた。王は記者としてキャリアをスタートさせ、『光明日報』編集長、『人民日報』編集長兼社長、中央宣伝部副部長、中国サイバースペース管理

局長などを歴任し、約 20 年間、党の路線を積極的に踏襲してきた。そして江沢民元党首の法輪功迫害を正当化するため、世論を誘導する記事を数多く書いた。

b. 曹建明、元最高人民法院副院長

曹建明（65）は長年、華東政法学院で教鞭をとっていた。1999 年 7 月に江沢民が法輪功を迫害し始めた後、当時同学院の学長だった曹は、新華社通信に記事を掲載し、法輪功とその創始者を中傷した。曹は 1999 年 11 月に最高人民法院副院長に昇進し、同時に国家裁判官大学の学長にも就任した。

2015 年以降、数十万人の学習者が江沢民（迫害を開始した元中国共産党指導者）に対して、最高人民検察院と最高人民法院に刑事告訴した。曹は規定に違反して告訴状を地元に戻したため、多くの学習者が地元当局に逮捕され、嫌がらせを受けた。中には、江を訴えたために判決を受け、または迫害により死に至った者もいた。

2017 年 1 月 25 日、最高人民検察院と最高人民法院が法輪功を弾圧する司法解釈を発表した後、中国の裁判所はこれをもとに学習者を不当に投獄した。

c. 吉炳軒、黒竜江省党委員会元書記

吉炳軒（69）は、国家新聞出版広電総局の副局長、中央宣伝部の副部長、黒竜江省党委員会書記を歴任した。黒竜江省党委員会書記に在職した当時は、同省における法輪功迫害の主要な責任者であった。入手可能な統計によると、黒竜江省で 14,081 人の学習者が負傷し、傷害を負い、不当な判決を受けた。そのうち 782 人の学習者が拷問を受けて死亡し、省都ハルビンでの死者は 332 人であった。

d. 張春賢、前湖南省書記・新疆ウイグル自治区党委員会書記

張春賢（57）は湖南省書記、新疆ウイグル自治区党委員会書記を歴任した。新疆での就任後、学習者を迫害するために、区内全域で大規模な「転向」教室を実施した。1999 年以降、新疆では少なくとも 41 人の学習者が迫害により死亡した。

張は 2005 年から 2010 年までの湖南省書記としての在任中、中共が学習者を迫害する政策を継続した。湖南省の各地にいる学習者は不法に逮捕され、強制労働収容所に連行され、判決を受けた。610 弁公室は頻繁に学習者の洗脳セッションを開催し、張がこれらの活動の直接的な責任者であった。1999 年以降、湖南省では少なくとも 157 人の学習者が迫害され、死亡した。

e. 陳竺・元厚生省大臣

陳竺（67）は江沢民と同じく、江蘇省の出身であり、フランスで博士号を取得した。陳が 2007 年に厚生省大臣に就任した後、米国の研究者たちは、陳の管轄下にある厚生省による生体臓器摘出の犯罪に疑念を呈した。2012 年 10 月、ミネソタ大学は陳に名誉博士号を授与することを提案した。しかし、同大学のカーク・C・アリソン教授

をはじめとする生命倫理、医学、人権の専門家 21 人は、それが適切ではないと考え、提案に反対する請願書に署名し、スター・トリビューン紙に掲載した。

アリソン教授は、陳が率いる厚生省が臓器移植の監督責任を負う一方、中共の医療従事者は囚人の臓器を繰り返し採取し、違法な移植が横行していた状況の中で、陳に名誉の称号を与えることに疑問を抱いたという。そして中共が死刑囚や学習者といった迫害された宗教団体から臓器を摘出した疑いがあると指摘した。

f. 余輝、成都市 610 弁公室の元主任

米務省は 2021 年 5 月 12 日、四川省成都市にある「異端宗教の防止と対処に関する中央指導グループ」の元主任・余輝に対する制裁を発表した。アントニー・J・ブリンケン米務長官は、この制裁は「重大な人権侵害、すなわち学習者を精神的信条を理由に恣意的に拘束した」結果であると述べた。余とその肉親は米国への入国を拒否されることになる。ブリンケン長官は、「中国や他の地域における人権侵害や人権濫用に責任を負う者に対する責任追及を促進するために、あらゆる適切な手段を引き続き検討していく」と述べた。

余が 610 弁公室の主任として在任中、479 人の学習者が嫌がらせを受け、家を荒らされ、117 人が逮捕された。そして 42 人が起訴され、27 人が判決を受け、3 人が迫害により死亡した。

g. 2022 年の人権デーを前に、3 人の高官が制裁対象に

国連人権デー前日の 2022 年 12 月 9 日、米務省 (DOS) は、汚職や人権侵害に関与したとして 17 カ国の 65 の個人と団体に制裁を科すと発表した<sup>113</sup>。制裁対象者の中には、法輪功への迫害に関与した中共幹部 3 人が含まれていた。

*唐勇 (元重慶地区刑務所の副所長)* : 「第 7031 条 (c) に従い、国務省は、重大な人権侵害、すなわち学習者に対する恣意的な拘禁に関与したとして唐を指定する。これは特に、信教の自由に対する深刻な侵害に相当する」と、国務省のウェブサイトで発表された。

*吳英傑 (チベット自治区党書記)* : 吳が 2016 年から 2021 年にかけてチベットの党書記を務めていた際、同自治区の学習者はその信仰を理由に深刻な迫害を受けた。吳は、明慧ネットに掲載された複数の事例において、主要な加害者としてリストアップされている。

*張洪波 (チベット公安局局長)* : 恣意的な拘束や身体的虐待など、深刻な人権侵害に関与したことで告発された。

2. 学習者は加害者リストを各国政府に提出<sup>114</sup>

法輪功迫害から 22 年目を迎えた 2021 年 7 月、37 カ国の学習者は、中国での迫害に



加担した加害者のリストを各国政府に提出した。そして加害者のビザ申請を却下し、その国にある加害者の資産を凍結するなどの制裁を行うよう各国に求めた。

加害者リストが提出されたのは、米国、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドのファイブ・アイズ同盟、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、オランダ、ポーランド、ベルギー、スウェーデン、オーストリア、アイルランド、デンマーク、フィンランド、チェコ、ルーマニア、ポルトガル、ギリシャ、ハンガリー、スロバキア、ルクセンブルク、クロアチア、スロベニア、キプロス、マルタの欧州連合 23 カ国、および日本、韓国、インドネシア、スイス、ノルウェー、リヒテンシュタイン、イスラエル、ブラジル、メキシコの 9 カ国などを合わせた 37 カ国である。これらの国のほとんどは、以前にもこの問題に関し学習者と協力したことがあったが、インドネシアとブラジルは初めてこの取り組みに参加した。

学習者に対する加害者の犯罪に関するすべての情報は、明慧ネットに掲載された報告に基づいてまとめられたものである。米 국무省の職員は、2 年前に学習者が提供した資料の信憑性を認めた。 국무省の 2 つの年次報告書「人権慣行に関する国別報告書」と「国際的宗教の自由に関する報告書」は、死刑や判決、逮捕、嫌がらせを受けた学習者の数を含む迫害事例および統計を明慧ネットから引用している。

加害者リストには、様々な分野で働き、学習者を迫害する過程で様々な役割を担ってきた中国全地域の中共幹部が含まれている。リストには、趙克志（中共の党中央政法委員会副書記）、杜航偉（公安部副部長）、呉愛英（元司法部長）、各省の PLAC 書記、および各省の裁判所長らが名を連ねている。

2021 年 12 月の人権デーには、36 カ国の学習者が各国政府に追加の加害者リストを提出した。リストには、張軍（最高人民検察院検察長）、陳思源（公安部副部長）、柯良棟（中央 610 弁公室元副主任）、各省 PLAC の党書記、および下級幹部などが含まれている。

これらの制裁の結果、中国国内の一部の警察署は、警察官の写真を壁から撤去した。また一部の組織は、関係者の写真が海外に晒されないよう、ウェブページから削除した。海外からの学習者の電話を受けて制裁を知った中共幹部の中には、態度を軟化させる者もいれば、610 弁公室との関係を否定しようとする者もいて、法輪功迫害には参与していなかったと即座に言明する者もいた。

## 第15章 海外まで迫害を拡大させる中共の取組みに対抗

中共は20年以上にわたり、スパイ活動、プロパガンダの流布、脅迫、さらには組織的な身体的攻撃によって、法輪功への迫害を国外に拡大してきた。例えばフランス軍部傘下の組織であるフランス軍学校戦略研究所（IRSEM）は2021年9月20日、「中国の影響力作戦」（Les Opérations d'influence chinoises）と題する報告書を発表した。同報告書によると、中共は他国のメディアに金を払い、法輪功を中傷する記事を掲載させているという。そうすることで、こうした法輪功に対する否定的な意見が「第三者」によるものであり、より「信憑性が高い」という誤解を生み出している。

あるエージェントは2020年4月、複数のアルゼンチンのメディアの編集長に2万ペソ（約200ユーロ）を提供し、「下手なスペイン語」で書かれた法輪功に関する否定的な記事を掲載させた。標的となったメディアには、*El Cronista Comercial*（日刊ビジネス新聞）、*Diario Popular*、オンラインプラットフォームの *Infobae* などがある。その記事には、法輪功の海外での評判を落とすための偽情報が大量に含まれており、中共が法輪功の名誉を傷つけ、悪者にするためによく使う言葉も含まれていた。つまり、この記事は、海外のメディアを通じて広められた中共のメッセージだ。この事件が明るみに出たのは、エージェントが接触した編集者の1人が、同僚である学習者にこの件について連絡すべきだと考えたからである。この件に関して、エージェントは自分が「中国側」のために働いたと認めた。

海外のメディアに影響を与えるだけでなく、中共は西側諸国の大学キャンパスにある孔子学院を利用して、言語教育や文化交流という名目で中共のイデオロギーを広めている。それに対して世界各国の政府は、自国における中共の宣伝活動の影響力に対抗する動きを強めている。

### 1. 米国、中共のメディア支局を在外公館に指定

米務省は2020年2月18日、中共の公式報道機関5社を「在外公館」に指定した。5社とは、新華社通信、中国グローバル・テレビジョン・ネットワーク（CGTN）、中国ラジオ・インターナショナル（CRI）、人民日報流通有限公司、および人民日報を米国で流通させている海天発展USAをいう。この新たな指定により、上記5社は米務省に対し、米国内にいる自社スタッフの氏名、個人情報、離職率を提供する必要がある。また、米国内の不動産を所有または賃貸しているかどうかの報告、および米国内の不動産を購入する予定がある場合は事前に許可を得ることも義務付けられた。

務省の担当者は、「これら5つの事業体は、すべて中華人民共和国（PRC）の党に管轄される国家宣伝報道機関の一部であることに議論の余地はない。つまり、彼らはトップから直接命令を受けている。我々は見分けがつくように、彼らを在外公館リストに載せているに過ぎない」と述べた。

人民日報、新華社通信、そしてCGTNとCRIを運営する中国中央広播電視総台は、中

共の三大宣伝機関である。英字新聞を主力商品とするチャイナデイリーも長い間、諸外国における中共のプロパガンダの重要な代弁者であった。

人民日報は中共中央委員会の管理下にある。新華社通信は、中国国務院傘下の省庁レベルの事業部門である。ニューヨークにアメリカ本部を置くチャイナデイリーは、中共中央委員会宣伝部が所有し、国務院の情報局が運営している。CGTN は中国中央電視台（CCTV）の外国語チャンネルを起源とし、北米の拠点がワシントン DC に置かれている。CRI はロサンゼルスに制作スタジオを持っている。

マイク・ポンペオ国務長官は声明で、「習近平総書記が明言しているように、中国ではすべてのメディアが中共（CCP）のために働いている。これらの組織は中共のために働いているのだから、国務省の規制対象となる在外公館として扱うのは妥当である」と述べた。

米国が中共のメディアに対し措置を講じるのは今回が初めてではない。米司法省は2018年9月、新華社とCGTNに「外国エージェント」としての登録を要求した。2019年、CGTNは議会のメディア記者資格の更新申請を却下された。ラジオ・テレビ特派員協会（RTCA）は、規制により、外国のエージェント組織には議会にアクセスするメディア資格を与えることができないと述べた<sup>115</sup>。

## 2. 孔子学院、相次ぐ閉鎖

2020年4月、スウェーデン南部の町ファルケンベルグで、スウェーデン最後の孔子教室が閉鎖された。これによって、スウェーデンはヨーロッパで初めて、全ての孔子学院と教室を閉鎖した国となり、意義のある前進を果たした。なお、ヨーロッパで最初に設立された孔子学院もやはりスウェーデンで、2005年にストックホルム大学で設立されていた<sup>116</sup>。

つい数年前まで、米国にはまだ約110の孔子学院があったが、新国防授權法により、孔子学院のある大学に国防総省が資金を提供することが禁止されたため、一部の大学に孔子学院の閉鎖に向けた動きが見られる。例えばメリーランド大学は2020年1月17日、孔子学院を閉鎖すると発表した。2004年に設置されたこの孔子学院は、米国初の孔子学院であった。ミズーリ大学も、2020年8月に孔子学院を閉鎖する予定と発表した。この2年間で、米国内で20近い孔子学院が閉鎖されている。

中共の元宣伝部長である李長春によると、中国のほとんどの人は孔子学院について聞いたことがないが、「中国の海外宣伝体制の重要な一部だ」という。孔子学院は、中国教育部傘下の中国語教育委員会国際部（漢弁）によって運営されている。その公式サイトによると、漢弁は2004年以降、158の国と地域に計541の孔子学院と1,170の孔子教室を設置した。これらは中共政權が「ソフトパワー」を発揮し、世界中に影響力を及ぼすための重要なプラットフォームとして機能している。

こうした学院や教室は、既存の学校や大学内で運営されており、漢弁は教師、教材、そして最も重要な運営資金を提供している。表面的には、中国語の普及と文化交流の促

進が目的であるように見える。しかし、その真の目的は、北京（中共政権）が共産主義イデオロギーを輸出し、現地の学生を洗脳することである。

ラジオ・フリー・アジア（RFA）の報道によると、中国政府は孔子学院のほぼすべての面を管理している。受け入れ校が署名した契約書には、中国と受け入れ国の両方の法律が適用されること、契約の公開が制限されること、受け入れ校が中国政府が認めない行為をした場合は契約が打ち切られることなどが記されている。また、漢弁に採用されたすべての教師は、法輪功の活動に参加しないことに同意する誓約書に署名する必要がある。そして漢弁は、受け入れ校が授業でチベット、台湾、天安門事件、法輪功に関連する話題を避けるよう規定している。

近年、孔子学院はスパイを募集し、また中国人留学生を監視するなど、中国の諜報機関と深く関わっている。ロイターの報道によると、2019年10月、ベルギーはブリュッセルの孔子学院の院長だった宋新寧のビザ更新を拒否した。宋は中国情報機関のスパイとして告発され、ベルギーをはじめ欧州のシェンゲン協定加盟 25 カ国への入国を事実上、禁じられた。

## 第16章 法輪功のために声を上げた官僚や市民

法輪大法が一般に紹介されて30周年となる2022年5月13日、23回目の「世界法輪大法デー」も合わせて記念し、世界各地の1,000人以上の議員が宣言文、表彰状、および祝辞を贈った。彼らはまた、パンデミックでも学習者が隣人を助け、修煉による恩恵を共有し続けたことなど、法輪大法が地域社会に与えたポジティブな影響を賞賛した。

カナダでは、23の都市が法輪功の価値観である「真・善・忍」を祝して旗を掲げ、ランドマークに特別な色を表示させた。米国ペンシルベニア州では、法輪大法を称えてハリスバーグの州議会議事堂に米国旗が掲揚され、トム・ウルフ知事が法輪功の創始者である李洪志氏に星条旗と証書を授与した。カナダのオンタリオ州ブライトン市のブライアン・オストランダー市長は、「私たちは、この旗を掲げることを大変誇りに思う。『真・善・忍』は法輪大法の理念であり、ブライトン市民の願いでもある」と述べた<sup>117</sup>。

これらの表彰は、中共による法輪功への迫害に対抗する上で重要な役割を担っている。このセンシティブなテーマについて、中共政権は一貫して強制力と経済的利益によって世界の指導者を黙らせようとしており、政治家に手紙を送り、法輪功を支持する公的声明や宣言を出さないよう圧力をかけている。つまり、学習者の基本的人権を擁護する発言をするだけでも、何らかの影響があるのだ。

### 1. 政府関係者は迫害を非難、学習者の精神を賞賛<sup>118</sup>

2020年7月18日、30カ国606人の議員が、中共による法輪功への「組織的かつ残忍な」迫害を非難する共同声明に署名した。共同声明は、カナダのピーター・ケント氏とジュディ・スグロ氏の2人の上級議員、およびスウェーデンのアン＝ソフィ・アルム議員によって起草された。共同署名者には、イギリス、ドイツ、フランス、イタリア、デンマーク、アイルランド、オランダ、スイス、ベルギー、ルーマニア、オーストリア、ポーランド、チェコ、スロバキア、イスラエル、オーストラリア、ニュージーランド、ラトビア、ノルウェー、アルゼンチン、日本、台湾、ベネズエラ、チリ、エストニア、ハンガリー、米国、およびインドネシアの現役あるいは元高官が含まれている。

「良心の囚人として『労働による再教育』キャンプや刑務所などの収容施設に拘束されている多くの学習者についての認識を高めたい。拷問や強制的な臓器摘出まで報告されている。そのために、この共同声明が起草されたのだ」とスウェーデンのアン＝ソフィ・アルム国会議員は書いている。「実際、中国における少数派への迫害は、世界がこれまでに経験したことのない最悪の人権に対する犯罪の一つである。一部の国際監視団や司法当局は、ジェノサイドと表現している」

カナダのピーター・ケント議員も同意見だった。「中国政府が国家主導で基本的人権を否定し続けていることを非難するために、私は国際社会に対し、より力強く、より公に声を上げるよう求めている」と書いている。「中国がいつの日か法の支配、言論、集会、宗教の自由を尊重し、天安門広場で法輪功の信条である『真・善・忍』が声高に語

られる日が来ることを願い、私たちは努力を続けなければならない」

それから1年後の2021年7月19日、20の民主主義国の国会議員数百人で構成される「中国に関する列国議会同盟（IPAC）」は、22年目を迎える法輪功への迫害を非難する声明を発表した。声明には「我々は改めて、各国政府に対し、このような弾圧を終わらせるために立ち上がり、声を上げるよう求める」と書かれている。「民主主義国家は、強制的に摘出された臓器の取引と利用を世界的に止めるための行動を取らなければならない。中国政府は、中国のすべての人々の人権を守るために責任を負わなければならない」

米務省のネッド・プライス報道官は同日、声明を発表した。「何千人もの学習者が、自らの信念を平和的に実践しようとしただけで、毎年拘束され、嫌がらせに遭い、拷問や虐待を受けていると報告されている。我々は中国に対し、学習者に対するキャンペーンを直ちに中止し、信条を理由に投獄されている人々を釈放するよう求める」

一方、カナダの35人の議員は、ジャスティン・トルドー首相に共同書簡を送り、カナダ政府に対し、中共による学習者への残虐な人権侵害を非難すると共に、マグニツキ一法に基づき、学習者に対して深刻な人権侵害を行った中国の公務員に制裁を科すよう要請した。「法輪功に対する人権侵害の深刻さと規模を考慮すると、加害者に対する制裁は、国際正義と人権の利益を促進する上で効果的と考える」

迫害の終結を主張するヨーロッパの政治家のうち、ドイツ連邦議会議員のベッティナ・M・ヴィースマン氏は書簡で「中共による学習者への迫害は耐え難いものだ。迫害の終結をドイツの外交政策の課題とするべき」と書いた。スロバキア国家評議会メンバーのピーター・オスースキー議員は演説で「民主主義国家は、貿易や経済的利益のために中共のような悪質な政権に屈するべきではない。そうすることは恥である」と述べた。

オーストラリアとニュージーランドでも、議員が法輪功を支持すると表明した。オーストラリアのエリック・アベッツ上院議員はビデオで、「学習者のような勇敢な人々と一緒に自由のために戦おう」と述べた。ニュージーランドの国会議員であるルイーザ・ウォール氏はラジオ番組で、ニュージーランド国民が中共の強制的な臓器狩りに移植ツアーリズムで加担することを阻止するための新しい法律を提唱した。日本の桜田義孝衆議院議員は、「中共の人権迫害は、米国では『ジェノサイド』と見なされている。中国は一党支配である。人権侵害を解決せず、国際社会から認められなければ、一流国家にはなれない」と述べた。

中共が香港で国家安全維持法を施行した後、厳しい迫害があるにもかかわらず、学習者は信仰を守るために粘り強く努力してきたと、議員たちは称賛した。胡志偉議員は、香港の多くの人々は当初、中共の嘘に惑わされて、法輪功迫害に関する報道の真実性に疑問を抱いていたと述べた。中共が香港の大切な自由を侵害し続ける中、住民は身柄引き渡し法案に抗議するようになった。こうして香港人は、中共の宣伝・洗脳活動の深刻さに気づき始め、法輪功への迫害を通じて中共の本質をより明確に理解するようになったという。

## 2. 世界中の市民が学習者の努力の継続を後押し

迫害について広めるため、学習者は集会やパレードを開催し、情報ブースを設置し、美術展や映画上映会を主催し続けている。パンデミックによる集会の制限があっても、一部地域の学習者は自動車パレードを行い、中共の犯罪に抗議した。フォーラムやウェビナーなどのオンラインイベントも開催した。

カナダのトロント近郊で開かれた集会では、上海から来たアーティストが足を止め、学習者と語り合った。彼は、中国でアーティストとして活動している間は自由がなく、自分の作品のために承認を得なければならなかったと述べ、言論の自由の欠如も嘆いた。「法輪功への迫害は、初めからずっと知っていました。今回のイベントを心から支持します。中共を拒否する人が多くなればなるほど、体制は早く崩壊するでしょう。皆さんがしていることは最も正しいことです。正しい者が勝ちます！」<sup>119</sup>

ウクライナのキーウでは、学習者が2021年8月22日に、迫害で拷問され死亡した中国の学習者を追悼するキャンドルナイトを開催した。カナダのトロント出身のニコライ氏はこう語った。「中共は犯罪組織だ。中国との貿易でお金を稼いでいる人たちは、『私は経済成長を選ぶ。人権なんて誰が気にするのか』と思うかもしれない。しかし、人権をないがしろにする国では、他のすべては見せかけなのだ。なぜなら、共産主義イデオロギーが遅かれ早かれ、形を変えて現れてくるからだ」

「人々は、中国が共産主義政権であり、自国民を抑圧していることを忘れてしまったようだ」とニコライ氏は言う。「その経済発展も他のすべても、砂上の楼閣だ。(中共が) どんなに素晴らしい者であろうと、醜悪な者であろうと、そこに弾圧、他者への虐待や迫害があれば、その体制に何らかのひびが入るだろう。ソビエト連邦の体制はとて腐敗していて、今はもう存在しない。中共体制でも同じことが起こると思う。中国は最終的にこの共産主義イデオロギーを排除するだろう」<sup>120</sup>

ロシアの学習者は、2022年3月6日から8日まで、モスクワで「真善忍国際美術展」を開催した。作品には、信仰の放棄を拒否し大きな困難を経験する学習者の姿を描いたものもあれば、法輪功を実践することの素晴らしさを表現したものもあった。観客の多くは、作品が混沌とした不安な社会に温かさと優しさをもたらしたと語った。また、作品から大きな道徳的力強さが感じられたと言う人もいた。

同美術展の前を通りかかった心理学者で催眠療法士のベロニカ氏は、絵画からの抗いがたいエネルギーに惹かれて中に入ったという。「これらの肖像画は、人間の精神の力をよく捉えている」と述べ、「画家自身も迫害を経験したからこそ、自ら描いたものを理解し、内面の感情を伝えることができたのだと感じられる」と語った。ベロニカ氏はまた、作品から、誰もが必要としている精神的信念と道徳の力について考えさせられたと付け加えた。アンドレという学生の後援者は、「絵画は私たちに優しさと、良心に耳を傾けることを思い出させてくれる」と語った<sup>121</sup>。

## 第17章 目覚めた中国人の増加

中国では、信仰を捨てない学習者に対する嫌がらせや暴行が続いてきた。にもかかわらず、学習者の多くは残忍さに優しきで応えるべく、辛抱強く当局の官僚に語りかけ、迫害に加担しないよう説得している。中には、信仰を理由に投獄されている間に受け取った年金の返済を地元の社会保障局から違法に要求されたが、法廷で自己弁護に成功した学習者もいる。一方、中共からの脱退を選択した中国国民が増えており、学習者を保護する人さえ現れている。

### 1. 学習者から「ゼロ行動」の違法性を聞いて立ち去った当局の担当者

陝西省の学習者は、中共の「ゼロ行動」キャンペーンの一環で信仰を捨てるよう圧力をかけてきた当局の担当者との出会いを次のように語った<sup>122</sup>。

2021年9月7日、3人が突然私の家に現れた。1人は引退した人民武装部の部長、もう1人は地元の治安関係者、3人目は地元の党書記だった。彼らの名前を尋ねるとき、1人がビデオ撮影をしていることに気づいた。カメラの電源を切るように頼むと、彼はすぐに止めた。私が携帯電話で録画しようとする、彼らは顔を覆った。

引退した部長は、「最近出かけていますか？ まだ法輪功をやっていますか？」と何気なく会話を始めた。私は「法輪功を修煉することは、市民としての合法的な権利です。物事がどのように変化しても、真・善・忍という宇宙原則は決して変わることはありません」と答えた。

「法輪功は人々の人生を変えます。高学歴の学生や博士も含めて、多くの人が法輪功を学んでいます。大法の学習者が窃盗、強盗、殺人をしたことなど見たり聞いたことがありますか？ そんな記録がありますか？」と私が言うと、彼らは賛同したようだった。私はこう続けた。「実際、法輪功は平和をもたらします。世界は法輪功を必要としています。今、私たちが直面しているこの疫病は、人々のモラルの墮落によるものです」

「この話はもういい！」と、引退した部長は叫び、「法輪功は党と社会に反するものだ。このような話を続けるなら、（法輪功を放棄する書類に）署名させなければならない」と言った。党書記は、「その書類に署名さえすれば、家で法輪功をやれるし、子供たちに影響（中共の「連座政策」を暗示している）を及ぼすこともない」と付け加えた。

私は毅然とした態度でこう言った。「一度信仰を持てば、他人を大切に、無私な心を持つようになります。子供たちも恩恵を受けます。私の言動は中国憲法に合致しています。中共は22年間にわたって嘘と捏造を広め続けてきて、責任を問われることを恐れています。彼らはあなた達にこうして悪いことをさせようと、ここに送り込みました。あなた達は本当に法輪功の真実を知る必要があります。

あなた達は、いわゆる『ゼロ行動』を実施するために来ましたね。この行動の真の



意味を知っていますか？ 私が受けた不当な扱いを全て帳消しにして、名誉を回復し、給料の減額で被った経済的損失を補填してくれれば、それこそが『ゼロ行動』です。これほど長年の迫害を受けてきた私にとって、この『ゼロ行動』の文書に署名することは不可能です。彼らは返す言葉がなく、足早に去っていった。

## 2. 迫害に加担しないよう説得された村の党書記

別の学習者は、明慧ネットに次のような記事を投稿した<sup>123</sup>。

「ゼロ行動」キャンペーンでは、地元の役人が何度も私の家を訪ねました。8月、ある男女が私の家に来ました。男性は村の党委員会のリーダーで、女性は法輪功への迫害を担当する村の役人でした。

彼らは私の名前を確認した後、まだ修煉しているのかと聞いてきました。私は「はい、私は堅い信念を持つ法輪功の学習者です」と答えました。女性が書類を取り出そうとしているのを見て、私は「やめてください。あなたが私に何を望んでいるか分かっていますが、私は協力を拒否します。私は8カ月間迫害されてきました。いかなる書類にも署名するつもりはありません」と言いました。彼女が「党は、あなたに住む家を提供しなかったのですか？」と言うと、私は「党から何ももらっていません。自らの労働で家を手に入れました。中共が私の家を取り上げていかなければいいですが」と言いました。

私は彼らに座ってもらい、少し感情的になったことを許してほしいと弁解し、こう続けました。「あなた方に恨みはありません。22年間の迫害の話を持ち出されて、感情的になってしまいました。自分の人格を向上させようと、『真・善・忍』の原則に従おうとする人のどこがいけないのでしょうか？」

法輪功を修煉している人は、100カ国以上にいます。実際、中国での修煉も合法です。法輪功の修煉を犯罪とする法律はありません。法輪功の本も合法です。2011年の新聞出版管理局の第50号令を調べてみてください。中共の前指導者である江沢民が迫害を始めました。彼のしたことこそ違法であり、違憲です。法輪功に濡れ衣を着せるために、中共は天安門広場で焼身自殺を画策しました。そして中共は、学習者が真実を語ることを許しません。可笑しいと思いませんか？」と私は尋ねました。

雰囲気や和らぎ、村の書記は「あなたがそう続けるなら、私は説得されるかもしれない」と言いました。私が女性に、「今まで法輪功を迫害してきましたね。それを正当化する法的文書を持っていますか？」と聞くと、彼女は一瞬考えて、「はい、あります」と答えました。私は「例えそのような文書があったとしても、それはやはり合法ではありません」と言いました。それはあり得ないと彼女は主張し続けましたが、私は彼女にこう話しました。「憲法第35条には、言論の自由、信教の自由、出版の自由が明記されています。よって法輪功関連のパンフレットも皆、合法です」

男性の目が一瞬光るのが見えました。「行こう」と、彼は言いました。私は彼らを車まで送りました。離れていく途中、男性は2回も手を振りました。私は彼が真実を

理解したと分かりました。

### 3. 青海省の女性が法廷で自己弁護し、社会保障局は彼女への訴訟を取り下げ

青海省の学習者・亢金英さんが2017年3月に逮捕され、信仰を理由に2年半投獄された。2019年9月に釈放された彼女は、2020年12月にゴルムド市社会保障局（SSB）から、服役中に支給された年金の返還を命じる通知を受け取った。60代の亢さんはSSBに連絡し、その要求が違法であると警告した。

その後、彼女は2021年4月20日に裁判所の召喚状を受け取り、SSBが不当利得で彼女を訴えたと告げられた。具体的には、SSBは総額127,999元の退職金の返還を要求した。5月14日に行われた審理では、亢さんは法的根拠がないとして訴訟の棄却を求め、自ら弁護した。裁判官はその日、判決を発表しなかったが、5月31日に亢さんはSSBが訴えを取り下げたという通知を受け取った。

亢さんは、自己弁護で以下のことを主張した。第一に、本件は民事訴訟の範囲ではないこと、第二に、年金は私有財産であり、国家財産ではないため、いかなる組織や個人にも没収の権限がないこと、第三に、拘留中に年金を差し引くことは中国憲法や他の法律に違反することであった。

内部関係者によると、裁判官はこの案件の裁断に多くの時間を費やし、省都まで出向き省の裁判所と面談もしたという。その結果、ゴルムド市裁判所がこの案件を扱うべきではないとの結論を出した<sup>124</sup>。

### 4. 4億人以上の中国人が中共から脱退

2004年に『共産党についての九つの論評』が出版されると、多くの中国人が中共からの脱退を希望した。中共政権が法輪功への迫害で人道に対する罪を犯し続ける中、学習者はホットラインを設置し、中国に電話をかけ、人々が将来的に中共という犯罪組織の一員として責任を問われないよう、中共から距離を置くように支援してきた。以下の記述は、中国における「中共から脱退しよう」運動がどのように草の根レベルまで広がっているかについてである。

李静さんは、トロントの「中共から脱退しよう」ホットラインのボランティアである。彼女は、張という名の男性がホットラインに電話をかけてきた日のことを覚えている。「彼は大学生で、中共を脱退したいと言ってきました。しかし、私がなぜ辞めることが重要なのかを説明し始めると、彼は私を罵り、法輪功を罵倒し始めました。そこで、私は彼がトラブルを起こすために雇われた中共員中の1人だとすぐに分かりました」

李さんは冷静さを保ちながら、「張さん、罵倒しても何の役にも立ちません」と言い、富があって徳もある古代の人々の物語を幾つか言い聞かせた。彼は興味津々で聞いていた。それから李さんは30分ほどかけて中共から脱退する意味を説明し、彼の質問に答えた。その後、彼は「張天佑」という仮名で党からの脱退に同意した。

李さんはさらにこう言った。「これで、なぜ中共を辞めることで祝福されるのか、お

分かりになったと思います。『法輪大法は素晴らしい！ 真・善・忍は素晴らしい！』という縁起の良い言葉も覚えておいてください。そうすれば、あなたは明るい未来を手に入れることができます。そして、今のあなたには、より多くの祝福を得られる良い機会がもう一つあります」

「『より多くの祝福を得られる良い機会』ってどういう意味ですか？」と張さんが尋ねると、李さんはこう答えた。「今日私がお伝えした内容を友人たちに伝え、彼らも中共を辞めれば祝福されることとなります。そしてあなたは人を救うことによって多くの徳を積むこととなります」。張さんは「分かりました。やってみます」と答えた。

約2カ月後、李さんがホットラインに出ると、電話の相手は「李静さんですか？ 大学生の張天佑を覚えていますか？ 彼は私の同級生です。彼は中共を辞めることについて話してくれました。今、クラス全員が辞めたいと言っています。名前をメモするためのペンを用意してください」と言った。彼は「王厚徳」という仮名で中共を辞め、他の11人の学生の名前を彼女に教えた。

彼が「どこに行けば、あなたが張に聞かせた話の内容を読めますか？」と聞くと、彼女はインターネット検閲を回避して中国国外のウェブサイトから無料で情報を得る方法を教えた。その後、李さんは何度も似たような電話を受けて、いずれも「王厚徳からホットラインの番号を教えてもらった」と言った。李さんは最終的に、計59人の学生のリストを作成した<sup>125</sup>。

李さんの経験は、中共を辞めたい人のリストを集めた、中国の多くの学習者の経験と重なる。法輪功への迫害の真実を知り、家族全員、あるいは村の全員が党籍を離脱したケースもある。良心に従う選択をする人が増えれば増えるほど、さらに多くの人々がそれに続くだろう。2022年8月時点で、4億人以上の中国人が中共とその青年組織である「共青团」や「少年先鋒隊」の在籍資格を放棄している。

##### 5. 学習者のために立ち上がった中国の市民

中国での迫害では、学習者を当局に通報して賞金を受け取る者がいた一方で、拘束された学習者の釈放を求めて立ち上がり、あるいは警察が探しに来たときに学習者を保護すべく手助けした人もいる。

河北省滄州市王宅村の張徳千さんと唐玉娥さんご夫妻の例をあげる。このご夫婦は誠実さと優しさで地元でよく知られている。ところが、村長の梁振忠が5日間で3回も彼らの金物店に現れ、信仰を捨てる声明文に署名するよう要求した。2020年11月12日、村長は張さんにこう言った。「警察署で会議があった。彼らは、リストに載っている学習者全員に法輪功を放棄する声明文に署名するよう要求した。あなたの署名をもらって来いと言われた。形式的にサインしたらどうだ？ あなたが家でまだしていようがないが、誰も気にしない。署名を拒否すれば、逮捕されるかもしれない」

張さんはこう答えた。「私は単に法輪功の『真・善・忍』の原則に従い、善良な人になろうとしているだけです。そのどこが悪いのですか？ なぜ声明文に署名しなけれ

ばならないのですか？ 私に悪人になれと言うのですか？」。村長は、張さんのためを思ってやっていると答えた。張さんは「心配しないで下さい。何があっても、私は嘘をつきません」と言った。その時、ある村人が店に入ってきた。彼は、村長が張さんに法輪功を放棄するよう圧力をかけていると知り、怒りを募らせ、大声で村長に「他にすることがないのか？」と言った<sup>126</sup>。

中国では、公の場で学習者を擁護するだけでなく、法廷で学習者のために立ち上がる人も増えている。中国のある人権弁護士は 2022 年 5 月、明慧ネット宛てにこう書いた<sup>127</sup>。

中共が法輪功の人々に対する全国的な迫害キャンペーンを展開し、3 カ月で根絶やしにしようとしたにもかかわらず、法輪功の人々が今日まで持ちこたえています。本当に驚異的です。これは、法輪功がいかに重要なものかを示しており、「真・善・忍」の力の表れでもあります。

弁護士、特に人権弁護士として、私たちはこの最も迫害されている人々のために声を上げ、擁護する責任を負います。私はこれまで多くの学習者の案件を担当し、彼らと良い友達になりました。彼らはとても優しく、自分たちを残酷に迫害した警察を恨んでさえいません。それどころか、警官らに同情を覚え、救いたいと考えているのです。人権弁護士として、このような人々の代理人となり、彼らの権利を守ることは私の義務だと感じています。

中共の腐敗と一般市民のモラルの退廃が進む今日の社会において、最も必要なのは信念と忍耐を持った人々です。法輪功は、そのような人たちです。今日、法輪功のために私が発言するのは、実は自分自身と未来の世代のためです。ある人は、「悪そのものは怖くない。最も危険なのは、世界が沈黙を守り、目の前の悪の横行を容認することだ」と言いました。

長年にわたり、私たち人権弁護士も学習者のために正義を求める中で、中共の邪悪さに直面してきました。中共の幹部らは、法律を踏みにじることに全力を尽くしてきました。彼らは本性を露にし、もはや覆い隠す気さえありません。もっと多くの中国人が彼らの欺瞞を見抜くことを願っています。

夜明け前が一番暗いのですが、その暗さは長く続かないでしょう。寒い冬は間違いなく過ぎ去り、明るい春がきっと訪れます。一般市民の目覚めが続く中、邪悪な共産党のない社会がまもなく到来するでしょう。法輪功が世界中の人々に認められる日も近いでしょう！

法輪功を世界中の人々に教えて下さった李先生に感謝し、真実を広めてくれた大法の学習者に感謝します。人権弁護士として、正義が実現されるまで、私はずっと皆さんと一緒に立ち向かいます！

## 参考文献

- <sup>1</sup> <https://en.minghui.org/html/articles/2020/8/2/186158.html>
- <sup>2</sup> <https://en.minghui.org/html/articles/2021/1/16/189942.html>
- <sup>3</sup> 同上
- <sup>4</sup> 同上
- <sup>5</sup> 同上
- <sup>6</sup> <https://en.minghui.org/html/articles/2021/1/3/189726.html>
- <sup>7</sup> <https://jp.minghui.org/2021/10/29/78503.html> 「黒竜江省虎林市の曾建江さんに不当判決」
- <sup>8</sup> <https://jp.minghui.org/2022/01/15/80202.html> 「2021年、1184人の法輪功学習者に不当判決」
- <sup>9</sup> <https://jp.minghui.org/2022/01/13/80272.html> 「2021年、1万6413人の法輪功学習者が連行や嫌がらせを受ける（一）」、<https://jp.minghui.org/2022/01/15/80273.html> 「2021年、1万6413人の法輪功学習者が連行や嫌がらせを受ける（二）」、<https://jp.minghui.org/2022/01/17/80274.html> 「2021年、1万6413人の法輪功学習者が連行や嫌がらせを受ける（三）」
- <sup>10</sup> <https://en.minghui.org/html/articles/2021/11/23/196699.html>
- <sup>11</sup> <https://en.minghui.org/html/articles/2021/7/12/194048.html>
- <sup>12</sup> <https://en.minghui.org/html/articles/2022/1/25/198294.html>
- <sup>13</sup> <https://jp.minghui.org/2021/01/25/73069.html> 「2020年、1万5235人の学習者に連行、嫌がらせ」
- <sup>14</sup> <https://jp.minghui.org/2020/04/27/68225.html> 「2020年2月に282人の法輪功学習者が連行される」
- <sup>15</sup> <https://jp.minghui.org/2021/07/28/76577.html> 「2021年上半期、674人の法輪功学習者に不当判決」
- <sup>16</sup> <https://en.minghui.org/html/articles/2020/3/17/183679.html>
- <sup>17</sup> <https://jp.minghui.org/2020/05/06/68586.html> 「2020年3月の中共ウイルス感染期間中に747人の学習者が連行・嫌がらせ」
- <sup>18</sup> <https://jp.minghui.org/2021/09/02/77456.html> 「山東省濰坊市の大学一年生・李慧さんに不当判決」
- <sup>19</sup> <https://jp.minghui.org/2022/05/07/82792.html> 「瀋陽市の70代の劉清飛さん 拘禁中に迫害死」
- <sup>20</sup> <https://en.minghui.org/html/articles/2022/5/3/200164.html>
- <sup>21</sup> <https://jp.minghui.org/2020/02/14/67777.html> 「黒竜江省の宮鳳強さん 残酷な迫害で意識不明」
- <sup>22</sup> <https://en.minghui.org/html/articles/2020/12/27/189024.html>
- <sup>23</sup> <https://en.minghui.org/html/articles/2020/5/11/184431.html>
- <sup>24</sup> <https://jp.minghui.org/2021/05/25/75125.html> 「2021年3～4月、2857人の学習者が連行、嫌がらせを受ける」
- <sup>25</sup> <https://jp.minghui.org/2021/11/24/78873.html> 「上級技術者の呉孟華さん 迫害され死亡」
- <sup>26</sup> <https://en.minghui.org/html/articles/2021/4/30/192114.html>

- 27 <https://en.minghui.org/html/articles/2021/6/18/193742.html>
- 28 <https://en.minghui.org/html/articles/2021/8/31/194869.html>
- 29 <https://jp.minghui.org/2021/07/11/76493.html> 「江蘇省連雲港市の仲偉玲さんは迫害により危篤状態」
- 30 <https://jp.minghui.org/2021/11/18/78808.html> 「吉林省の王桂英さん 嫌がらせと脅迫を受けて死亡」
- 31 <https://en.minghui.org/html/articles/2021/8/9/194521.html>
- 32 <https://en.minghui.org/html/articles/2022/1/4/197968.html>
- 33 <https://jp.minghui.org/2022/02/11/81562.html> 「『北京冬季五輪』の治安維持のため北京の焦淑英さんが拘禁される」
- 34 <https://jp.minghui.org/2022/03/18/81972.html> 「2022年1月～2月、782人の中国の学習者が連行や嫌がらせを受ける (一)」、<https://jp.minghui.org/2022/03/19/81971.html> 「2022年1～2月、782人の中国の学習者が連行や嫌がらせを受ける (二)」
- 35 <https://en.minghui.org/html/articles/2022/1/4/197968.html>
- 36 <https://en.minghui.org/html/articles/2022/2/4/199060.html>
- 37 <https://jp.minghui.org/2022/09/19/86145.html> 「2022年7～8月、1850人の学習者連行、嫌がらせを受ける (一)」、<https://jp.minghui.org/2022/09/22/86144.html> 「2022年7～8月、1850人の学習者 連行、嫌がらせを受ける (二)」、<https://jp.minghui.org/2022/09/27/86143.html> 「2022年7～8月、1850人の学習者 連行、嫌がらせを受ける (三)」
- 38 <https://jp.minghui.org/2022/11/27/87028.html> 「2022年9～10月、2054人の学習者連行、嫌がらせを受ける (一)」、<https://jp.minghui.org/2022/11/28/87027.html> 「2022年9～10月、2054人の学習者 連行、嫌がらせを受ける (二)」、<https://jp.minghui.org/2022/11/29/87026.html> 「2022年9～10月、2054人の学習者 連行、嫌がらせを受ける (三)」
- 39 同上
- 40 <https://en.minghui.org/html/articles/2020/12/25/188994.html>
- 41 <https://jp.minghui.org/2020/12/29/72629.html> 「2020年、84人の法輪功学習者が迫害により死亡(一)」、<https://jp.minghui.org/2020/12/29/72630.html> 「2020年、84人の法輪功学習者が迫害により死亡 (二)」、<https://jp.minghui.org/2020/12/29/72631.html> 「2020年、84人の法輪功学習者が迫害により死亡 (三)」、<https://jp.minghui.org/2020/12/29/72632.html> 「2020年、84人の法輪功学習者が迫害により死亡 (四)」
- 42 <https://jp.minghui.org/2020/12/21/72453.html> 「迫害された遼寧省の楊雪さん一家4人相次ぎ死亡」
- 43 <https://jp.minghui.org/2020/04/22/68453.html> 「徳恵市の肖永芬さん 吉林女子刑務所で迫害死」
- 44 <https://jp.minghui.org/2020/09/17/70947.html> 「山東省の法輪功学習者 李玲さんが拷問死」
- 45 <https://en.minghui.org/html/articles/2022/2/27/199337.html>
- 46 <https://jp.minghui.org/2023/02/17/89876.html> 「四川省のラジオのパーソナリティ 迫害により死亡」
- 47 <https://en.minghui.org/html/articles/2022/4/15/199921.html>
- 48 <https://jp.minghui.org/2022/01/05/80188.html> 「出所当日に連行された大連の学習者・

---

劉希永さんが死亡」

<sup>49</sup> <https://jp.minghui.org/2022/04/17/82451.html> 「河北省の韓俊徳さん 冀東第五刑務所で迫害され重体」

<sup>50</sup> <https://jp.minghui.org/2020/04/08/68316.html> 「河南省の陳孝民さん本人と 2 人の兄も迫害死」

<sup>51</sup> <https://jp.minghui.org/2020/06/19/69703.html> 「息子を収監された 80 歳代の母親 心労で死亡」

<sup>52</sup> <https://jp.minghui.org/2022/03/24/82067.html> 「何度も迫害された代志東さん、管鳳霞さん夫妻が相次いで死亡」

<sup>53</sup> <https://en.minghui.org/html/articles/2021/8/23/194749.html>

<sup>54</sup> <https://jp.minghui.org/2022/04/01/81977.html> 「父が迫害され死亡 娘は懲役 7 年の実刑判決を宣告される」

<sup>55</sup> <https://jp.minghui.org/2021/09/06/77524.html> 「天津市の李国慶さん一家 3 人に、実刑判決」

<sup>56</sup> <https://jp.minghui.org/2022/01/16/80302.html> 「迫害により障害を負った呂開利さんに再び判決」

<sup>57</sup> <https://jp.minghui.org/2021/01/11/72934.html> 「寧夏の馬智武さん 懲役 11 年の冤罪を受けた後 14 年の実刑判決」

<sup>58</sup> <https://jp.minghui.org/2021/12/26/79358.html> 「7 年の冤罪を受けた広州市の馬民慶さんに懲役 7 年 6 カ月」

<sup>59</sup> <https://en.minghui.org/html/articles/2021/12/25/197147.html>

<sup>60</sup> <https://jp.minghui.org/2021/03/10/74242.html> 「長春市の法輪功学習者 14 人に不当判決」

<sup>61</sup> <https://jp.minghui.org/2021/12/18/79144.html> 「留置場で拘禁されていた孫鳳仙さんは脳出血で入院」

<sup>62</sup> <https://en.minghui.org/html/articles/2021/12/3/196837.html>

<sup>63</sup> <https://jp.minghui.org/2022/05/07/82399.html> 「湖北省孝感市の李広清さんに懲役 3 年の実刑判決」

<sup>64</sup> <https://jp.minghui.org/2019/10/22/66027.html> 「湖北武漢市の劉社紅さん夫婦 荊州西門留置場に拘禁」

<sup>65</sup> <https://en.minghui.org/html/articles/2022/3/14/199530.html>

<sup>66</sup> <https://jp.minghui.org/2022/01/13/80272.html> 「2021 年、1 万 6413 人の法輪功学習者が連行や嫌がらせを受ける (一)」、<https://jp.minghui.org/2022/01/15/80273.html> 「2021 年、1 万 6413 人の法輪功学習者が連行や嫌がらせを受ける (二)」、

<https://jp.minghui.org/2022/01/17/80274.html> 「2021 年、1 万 6413 人の法輪功学習者が連行や嫌がらせを受ける (三)」

<sup>67</sup> <https://jp.minghui.org/2021/02/03/73373.html> 「河北省の警官は、学習者 3 人に拇印を強要」

<sup>68</sup> <https://jp.minghui.org/2021/10/18/78186.html> 「吉林省舒蘭市の警官 学習者の口や鼻、目からし油を入れる」

<sup>69</sup> <https://jp.minghui.org/2021/11/18/78761.html> 「吉林市の 90 歳の蔡秀芳さん 秘密裏に裁判受ける」

<sup>70</sup> <https://jp.minghui.org/2021/10/24/78455.html> 「陝西省の張俊秀さん 警官に酷く殴打されて肋骨 7 本骨折」

- 
- 71 <https://en.minghui.org/html/articles/2021/12/10/196942.html>
- 72 <https://en.minghui.org/html/articles/2021/11/19/196646.html>
- 73 <https://en.minghui.org/html/articles/2021/11/16/196608.html>
- 74 <https://en.minghui.org/html/articles/2021/10/20/196250.html>
- 75 <https://jp.minghui.org/2020/04/15/68451.html> 「陳情書を書いた吉林の宋彦群さん 連行される」
- 76 <https://en.minghui.org/html/articles/2022/1/23/198261.html>
- 77 <https://en.minghui.org/html/articles/2020/10/15/187833.html>
- 78 <https://jp.minghui.org/2020/10/01/71063.html> 「遼寧省本溪市の高齢者・趙鳳藍さん 不当に起訴される」
- 79 <https://jp.minghui.org/2020/07/05/69920.html> 「新疆 90 歳の学習者・嚴宜学さんは連行される」
- 80 <https://jp.minghui.org/2021/11/26/78822.html> 「重慶市の 82 歳の元大学教員 不当に連行される」
- 81 <https://jp.minghui.org/2021/02/07/73417.html> 「河北省の定年退職教師 懲役 10 年の不当判決」
- 82 <https://jp.minghui.org/2021/05/07/75086.html> 「北京市延慶区の王朝英さんに 懲役 2 年 6 カ月の不当な判決」
- 83 <https://jp.minghui.org/2021/03/26/74401.html> 「重慶市九竜坡区の法輪功学習者十数人 嫌がらせを受ける」
- 84 <https://jp.minghui.org/2022/06/16/84161.html> 「四川省の裁判官 法輪功学習者の年齢を改ざん」
- 85 <https://en.minghui.org/html/articles/2022/6/8/201733.html>
- 86 <https://www.minghui.org/mh/articles/2022/6/3/444425.html>
- 87 <https://en.minghui.org/html/articles/2020/11/25/188416.html>
- 88 <https://en.minghui.org/html/articles/2022/3/16/199550.html>
- 89 <https://en.minghui.org/html/articles/2021/8/14/194609.html>
- 90 <https://en.minghui.org/html/articles/2020/12/7/188634.html>
- 91 <https://en.minghui.org/html/articles/2022/5/4/200176.html>
- 92 <https://en.minghui.org/html/articles/2021/5/22/193256.html>
- 93 <https://jp.minghui.org/2021/10/30/78543.html> 「大連市の任海飛さんと孫中麗さんに懲役 10 年と 7 年」
- 94 <https://en.minghui.org/html/articles/2022/4/23/200029.html>
- 95 <https://jp.minghui.org/2022/04/06/82176.html> 「内モンゴルバイリン左旗の季雲芝さんは迫害により死亡」
- 96 <https://jp.minghui.org/2021/04/28/74848.html> 「退役将校・公丕啓さん 山東省の刑務所で迫害され死亡」
- 97 <https://en.minghui.org/html/articles/2021/1/3/189723.html>
- 98 <https://en.minghui.org/html/articles/2021/4/26/192037.html>
- 99 <https://jp.minghui.org/2022/02/08/80712.html> 「香港の法輪功学習者襲撃事件 見張り役の男に実刑判決」
- 100 [https://chinatribunal.com/wp-content/uploads/2020/03/ChinaTribunal\\_JUDGMENT\\_1stMarch\\_2020.pdf](https://chinatribunal.com/wp-content/uploads/2020/03/ChinaTribunal_JUDGMENT_1stMarch_2020.pdf)
- 101 <https://en.minghui.org/html/articles/2021/10/21/196262.html>



- 
- 102 <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/pdf/10.1111/ajt.16969>
- 103 <https://jp.minghui.org/2022/05/21/83546.html> 「米議会公聴会 中共による臓器狩りの即時中止を求める」
- 104 <https://jp.minghui.org/2022/06/24/84390.html> 「台湾の病院 臓器移植医の任命を継続しないことを決定」
- 105 <https://jp.minghui.org/2022/07/08/84500.html> 「日本人評論家 中共の生体臓器狩りの現場を目撃」
- 106 <https://jp.minghui.org/2022/07/09/84551.html> 「2022 年国際宗教自由サミット開催 中共の臓器狩り再び注目される」
- 107 <https://en.minghui.org/html/articles/2021/11/16/196604.html>
- 108 <https://jp.minghui.org/2022/01/05/79440.html> 「豪州『人権制裁法』が発効 地域リーダー 「真・善・忍は人類の価値観」」
- 109 <https://en.minghui.org/html/articles/2022/5/7/200219.html>
- 110 <https://jp.minghui.org/2021/03/01/74045.html> 「英国で中共の臓器強奪制止の医薬法修正案成立」
- 111 <https://en.minghui.org/html/articles/2022/12/20/205261.html>
- 112 <https://en.minghui.org/html/articles/2021/1/3/189717.html>
- 113 <https://www.state.gov/combatting-global-corruption-and-human-rights-abuses/>
- 114 <https://en.minghui.org/html/articles/2021/7/20/194160.html>
- 115 <https://en.minghui.org/html/articles/2020/3/8/183563.html>
- 116 <https://en.minghui.org/html/articles/2020/5/25/185210.html>
- 117 <https://en.minghui.org/html/articles/2022/5/23/201459.html>
- 118 <https://jp.minghui.org/2020/08/08/70407.html> 「反迫害 21 周年 日本含む 30 カ国の議員 606 人が連名で法輪功支持」
- 119 <https://en.minghui.org/html/articles/2021/6/29/193884.html>
- 120 <https://jp.minghui.org/2021/09/10/77505.html> 「ウクライナで迫害反対活動 市民・観光客が署名で応援」
- 121 <https://jp.minghui.org/2022/03/21/81991.html> 「モスクワの真善忍美術展は暖かさと優しさをもたらす」
- 122 <https://jp.minghui.org/2022/02/04/77687.html> 「大法弟子が真相を伝えると 党員が直ちに去っていく」
- 123 同上
- 124 <https://en.minghui.org/html/articles/2021/6/11/193647.html>
- 125 <https://en.minghui.org/html/articles/2021/12/15/196994.html>
- 126 <https://en.minghui.org/html/articles/2020/12/15/188804.html>
- 127 <https://en.minghui.org/html/articles/2022/7/8/202147.html>

